



---

住民主体の移動支援が  
高齢者の介護予防にもたらす効果に関する  
調査研究

---

## 別冊資料集

2023年3月  
NPO法人 全国移動サービスネットワーク

本調査は、(一財)医療経済研究・社会保険福祉協会の委託を受け、  
「NPO法人 全国移動サービスネットワーク」が実施しました。

住民主体の移動支援が高齢者の介護予防にもたらす効果に関する調査研究

別冊資料集

目次

C O N T E N T S

本事業の背景と狙い	04
1 背景	05
2 狙い	06
3 先行研究	07
第1章 【調査1】移動支援の利用者および担い手への定量的・定性的調査	09
第1節 実施方法	09
第2節 結 果	11
1 単純集計（利用者アンケート）	11
2 単純集計（担い手アンケート）	35
3 回答提出団体アンケート 集計結果／115 団体	58
4 【分析1】移動支援の利用者および担い手への定量的・定性的調査（心理学的計量尺度を用いた調査分析）	61
5 【分析2】移動支援の利用者および担い手への定量的・定性的調査 （主観的幸福感と主観的健康観を軸に t 検定および二項ロジスティック回帰分析を行った結果）	72
6 アンケート調査票	78
第2章 【調査2】利用者への移動支援の機能に関するヒアリング調査	94
第1節 実施方法	94
利用者の効果、担い手の効果、波及効果、移動支援の機能	96
ヒアリングレポート	102
・①どちくぼ買い物クラブ ②送迎ボランティアおたすけ隊（神奈川県秦野市）	102
・NPO 別府安心ネット（島根県美郷町）	103
・小城市支えあいセンター（佐賀県小城市）	104
・NPO 法人 奥武蔵グリーンリゾート（埼玉県飯能市）	105
・かんなみおでかけサポート（静岡県函南町）	106
・NPO 法人 ふれあいやまびこ会（埼玉県東秩父村）	107
・〈コラム1〉千葉県松戸市のグリーンスローモビリティ地域推進事業「松戸モデル」	108
・〈コラム2〉三重県名張市の「地域づくり組織」と「まちの保健室」による環境整備	110
ヒアリングガイドとヒアリング調査先	112
第3章 【調査3】移動支援を利用している要支援者等と利用していない要支援者等の変化の比較分析	117
第1節 実施方法	117
第2節 結 果	118
1 主観的幸福感を軸に二項ロジスティック回帰分析を行った結果	118
2 移動手段の選択と手段的日常生活動作の関連：地域在住高齢者の観察的コホート研究	121
考 察	123
おわりに	126

## 本事業の背景と狙い

住民主体の移動支援が持っている介護予防効果を明らかにするため、その利用者と担い手双方の変化を、以下の3つの調査を通じて調べることとした。

### 3つの調査の目的（相互の関係）

- ①調査1で目的変数を探る
- ②調査2でなぜ効果があるのかを検討する
- ③調査3でその効果を測る

調査1，2，3の位置づけ

	調査客体	主な属性	数	求める結果
調査1	①住民主体の移動支援の利用者	①要介護者、要支援者 基本CL該当者、いずれにも非該当の高齢者	203人	どのような人がどのように変化するか ↓ 利用者と担い手にどのような良い変化があらわれるかを見つける
	②住民主体の移動支援の運転ボランティア	②65歳以上の人	94人	
調査2	①住民主体の移動支援の利用者	①要介護者、要支援者 基本CL該当者、いずれにも非該当の高齢者	7事例 (6市町村)	どのような機能によって、利用者と担い手に変化が起きるかを洗い出す
	②住民主体の移動支援の運転ボランティア	②65歳以上の人		
調査3	①移動支援の利用者と非利用者	①要支援者、基本CL該当者、いずれにも非該当の高齢者	2自治体(愛知県豊明市、大分県国東市)	対象群を置くことにより、移動支援による効果の有無を明らかにする
	②「健康とくらしの調査2010」の回答者	②要支援者、基本CL該当者、いずれにも非該当の高齢者	豊明市在住の8,145人	

※基本CL該当者：基本チェックリスト該当者

## 1 背景

- ・高齢化の進展に伴って、独力で移動・外出することが難しい高齢者が増加し、各地で移動手段の確保が課題となっている。そのような中、住民自らが担い手となって様々な移動支援（自家用有償旅客運送や許可・登録不要の移動支援など）が行われている（以下、「住民主体の移動支援」という）。住民主体の移動支援は、多くが個人のニーズに対応する形で実施されている。住民主体の移動支援は、ドア・ツー・ドア、または自宅のすぐ近くで乗車し目的地で降車するしくみを取っていることが多く、ボランティアが運転や付き添いを担っている。日常生活に必要な外出の一部ではあるが、通院や買い物、高齢者のサロン等の居場所の送迎などを行うことによって、暮らしを支えている。
- ・「住民が主体の移動支援」に関連する研究データとしては、「他人との交流が介護予防につながる」、「外出頻度が低いと要介護リスクが高い」、「自家用車を利用できない人は外出頻度が低い」、「公共交通機関が利用しやすければ（バスの割引制度があれば）外出頻度が高まる」といった研究結果がある。しかし、多くは高齢者全般、または要介護認定を受けていない高齢者を対象とした研究だった。「住民主体の移動支援」は、自家用車を運転できない人や、公共交通機関が利用しにくい地域を対象として活動しており、対象にズレがあった。
- ・「住民主体の移動支援」は、一つひとつの取り組みのエリアも実施件数等の規模も小さいため、スケールメリットが出にくく、数値的なエビデンスがとりにくい面がある。乗り合って買い物に行くケースや、サロン等に送迎するケース、1対1で医療機関に送迎するケースなど、頻度や実施内容が様々であることも、介護予防効果を明らかにしにくい原因と考えられた。
- ・一方で、利用者や支援している専門職、活動団体からは、利用者の生活の維持のほか、心身の状況の回復や閉じこもり防止、地域の見守り機能の向上などの効果があるというエピソードを多数聞くことができる。特に、サービス提供者が顔見知りであることは、外出頻度に影響を及ぼしたり、サービス継続に影響したりすることから、「住民参加による移動サービス」は、高齢者に及ぼす客観的な効果、例えば、介護予防効果や認知症予防効果が認められると予想される。同様に、運転者として活動するボランティアからも、生活リズムが整えられたり、地域への愛着が高まったりするという声が聞かれることから、担い手である高齢者に対する介護予防効果も見いだせるのではないかと考えられる。
- ・そこで、本調査研究事業では、住民主体の移動支援には高齢者の介護予防の観点から、以下の3つの調査を行うこととした。
  - ①目的変数を探る（どのような効果があるかを調べるアンケート調査）
  - ②なぜ効果があるのかを検討する（具体的な機能と変化に関する聞き取り調査）
  - ③効果を測る（効果の有無を比較するデータ分析）

## 2 狙い

3つの調査について、それぞれ以下のような仮説を立てた。

### 調査1 ⇒目的変数を探る（どのような効果があるかを調べるアンケート調査）

- ・利用者と担い手にどのような良い変化があらわれるかを見つけるため、既存の移動支援の実施団体に対し、新規の利用希望者を対象とするアンケート調査票を配布し、利用開始前と開始から8～10か月が経過した時点での意識や行動についての変化を把握することとした。
- ・長いスパンでの変化を見ることができないため、心理的な変化が顕著になるのではないかという仮説を立て、基本チェックリストや老研式等の生活機能に関する評価指標と、心理的な変化を見る CASP-19 や GDS、社会的主体性を測定する SIOS（サイオス）などのアウトカム指標を用いることとした。
- ・また、新規利用希望者と同様に、新規に活動を開始するボランティアに対してもアンケート調査票を配布し、主観的幸福感や主観的健康観、自己効力感等の変化を把握することとした。

### 調査2 ⇒なぜ効果があるのかを検討する（具体的な機能と変化に関する聞き取り調査）

- ・移動支援の現場においては、ADL低下等に伴う移動困難者に対し、車中や乗車前後の会話、そこで得られた情報を元にした専門職とのつなぎ、利用者の変化に応じた介助等を実施している例が少なくない。
- ・利用者はもちろん、担い手である高齢者のボランティアにとっても、モチベーションの維持向上や社会参加につながる活動が展開されていると考えられる。移動支援がどのような機能を持つのか、利用者と担い手にどのような変化が起きるか、高齢者の移動支援の実際の様子について、利用者や活動団体や行政関係者、地域包括支援センターの職員等からヒアリング調査を行うこととした。

### 調査3 ⇒効果を測る（効果の有無を比較するデータ分析）

- ・移動支援の取り組みによって利用者に介護予防効果があることを確かめるため、介護予防・日常生活支援総合事業（以下、総合事業という）を活用した移動支援を利用している要支援者等と、利用していない要支援者等の高齢者のニーズ調査結果を比較することで有意差があるかどうかを検証した。
- ・調査1と同様に、心理的な変化に着目し、主観的健康感と主観的幸福感を比較分析することとした。具体的には、第7期と第8期の介護保険事業計画に先駆けて行われた、日常生活圏域ニーズ調査の結果（データ）を使用し、移動支援の利用者と非利用者では、3年間で変化の仕方にどのような違いがあるかを、データ解析した。

### 3 先行研究

先行研究のレビューからわかっていることは、以下の点だった。

※「住民参加による移動サービスの創出・発展に向けて～事例に学ぶ運営支援のあり方～」に論文名を記載

- ・高齢者の移動手段を確保する事は、以下のように健康や外出頻度と関連している可能性がある。
- ・高齢者の外出頻度と身体活動は、自家用車を運転できるといった選択肢があるかどうかに大きく影響される。
- ・外出頻度への貢献が大きいのは「バイク・自動車」であり、送迎・タクシー利用等は、外出頻度を増加させる要因ではなかったことを報告している。都市部では「公共交通」も影響を与えていているとされる。
- ・生活機能の維持を目的としたときに、家族の送迎は負の貢献が指摘されている。しかし、移動手段が確保されていることは、抑うつ症状やウェルビーイングといった心理的健康度と関連している可能性があり、閉じこもりの予防的効果もある。

(1) 高齢者の外出頻度や身体活動は、自家用車を運転できるかどうかに影響される。

- ・外出頻度に影響を与える身体的要因、移動手段選択の要因を検討した研究では、外出頻度に最も影響を与える要因は移動手段であり、特に自分で車を運転するかどうかであった。（「高齢者の外出頻度から見た日常生活活動能力と移動手段に関する考察」, 2015）
- ・運転免許のない人は、運転免許のある人に比べ、外出頻度が週2回以下になるリスクが約4倍ある。自家用車が運転できるような有利な交通手段を持っている人に比べ、交通手段の乏しい人は「閉じこもり」が多い（要介護認定を受けていない人が対象）。（「地域在宅高齢者の外出の実態と関連要因」, 2018）
- ・運転をやめた人は続けている人と比べて、要介護認定のリスクが約2倍に上がっていた。また、運転をやめても公共交通機関や自動車を利用している人においては、要介護認定のリスクが若干低かった。（「日本人高齢者における運転中止後の機能制限のリスク」, 2019） 図1

図1 運転中止で要介護認定のリスクが2倍

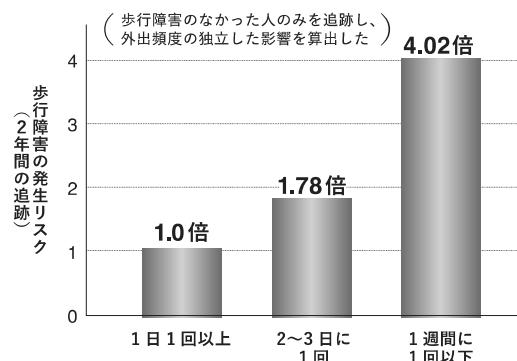


## (2) 外出頻度や交流頻度は、要介護リスクや認知症発症リスクに影響を与える

他に、担い手となる（元気な）高齢者について、住民主体の移動支援との関連があると思われる研究には以下のようなものもある。

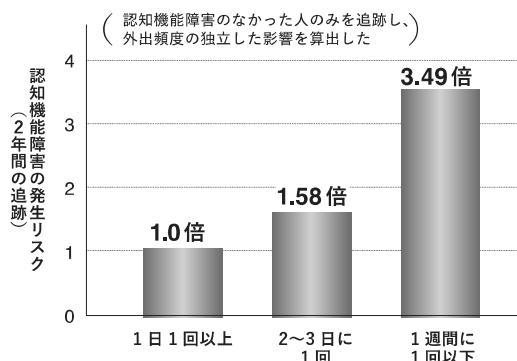
- 外出する頻度が週1日以下の人々は、毎日外出する人に比べて歩行障害の発生リスクは4倍、認知機能が低下するリスクは3.5倍になる（独立行政法人 東京都健康長寿医療センター）図2、図3

図2 外出頻度と歩行障害の発生リスク



出典：新開省二：「高齢者のリスク調査」について教えてください：  
老人研NEWS NO.219 2007 : 002

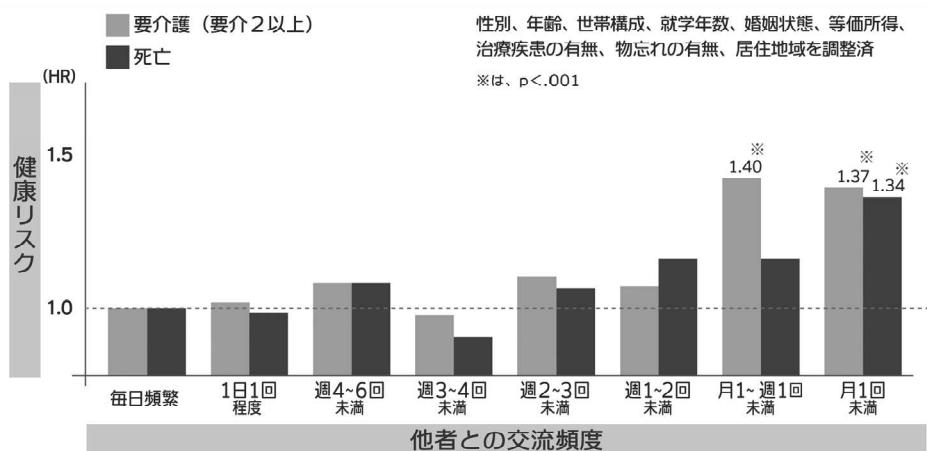
図3 外出頻度と認知機能障害の発生リスク



出典：新開省二：「高齢者のリスク調査」について教えてください：  
老人研NEWS NO.219 2007 : 002

- 同居者以外の他者との交流が「毎日頻繁群」と比べて、「月1～週1回未満群」では、1.3～1.4倍、その後要介護認定や認知症に至りやすく、「月1回未満群」ではそれらに加えて、1.3倍早期死亡にも至りやすい（「健康指標との関連から見た高齢者の社会的孤立基準の検討」, 2015）図4

図4 人との交流は週1回未満から健康リスクに



出典：斉藤雅茂・近藤克則・尾島俊之ほか (2015) 日本公衆衛生雑誌.62 (3)より Press Release NO:054-14-08

## 第1章 【調査1】移動支援の利用者および担い手への定量的・定性的調査

### 第1節 実施方法

#### 概要

既存の移動支援の実施団体に対し、新規の利用希望者を対象とするアンケート調査票を配布し、利用開始前と開始から数か月が経過した時点での意識や行動についての変化を把握した。

新規利用希望者と同様に、新規に活動を開始するボランティアに対してもアンケート調査票を配布し、主観的幸福感や主観的健康観、自己効力感等の変化を把握した。

※調査票は、基本属性、外出に関する状況のほか、うつやQOLに関する尺度として利用される評価指標（質問項目）で構成した。P78～P93を参照

#### 調査票の配布協力団体

- ・32都道府県の115団体（以下の条件に合致している団体）
- ・高齢者を対象として、①福祉有償運送、②交通空白地有償運送、③登録不要の移動支援、のいずれかを実施している団体で、運転者または添乗者をボランティアが担っている団体

※全国移動ネットが2019～2020年度に行ったアンケート調査にご回答いただいた団体、または、調査研究事業等を通じて把握した団体からリストアップした332団体に郵送

#### 調査対象と配布方法

配布協力団体に対し、回答期間中に以下に該当する方がいた場合、調査票を配布していただき、各団体で取りまとめて全国移動ネットへご返送いただいた

- ・利用者用アンケート ⇒ これから利用を開始する予定で、65歳以上の方
- ・担い手用アンケート ⇒ ボランティアとして運転または添乗を開始する予定で、65歳以上の方

#### 回答結果

1回目（2021年10月～12月）および2回目（2022年8～9月）の回答数

	1・2回目共回答	2回目回答なし	1回目回答
A(利用者)	203人	92人	295人
B(担い手)	94人	35人	129人
合計	297人	127人	424人

## 追加調査として、配布協力団体向けアンケートを実施（2022年6月）

※1回目アンケート（2021年10月～12月）において、既に移動支援サービスを利用または担い手として参加していた人の回答が混在していることが疑われたため、これを確認するため、アンケート配布にご協力いただいた団体へのアンケートを実施したもの。

■配布対象：115団体

■調査項目：1回目のアンケートの回答者が、既存の利用者または担い手であったかどうか。1回目のアンケートの回答者のうち利用者がどのような交通事情の地域に在住しているか（交通不便な地域であって身体状況は良好であるかどうか）。

■調査結果：1回目のアンケート回答時点で、すでに利用または担い手として活動を開始していた方

	継続者	比率	回答者数
利用者	223人	75.6%	295人
担い手	96人	74.4%	129人

### ■アンケート項目

#### 1 利用者用アンケート

質問項目は、1回目と2回目で、以下の部分が異なる。

##### 【1回目】

「年齢」、「性別」、「2-(1)この調査票を受け取った移動支援サービスの利用を開始した理由」、「2-(2)外出に不便を感じ始めた時期」

※「利用目的」は、複数回答である旨を明記せず単数回答と複数回答が混在したため集計せず。

##### 【2回目】

上記4項目に代わって、以下の3項目を追加

- ・「2-(1)どのようにして、このサービス（取組）の利用に至りましたか」
- ・「3-(26) 移動支援サービスの利用は、あなたの幸福感に良い影響を与えていていると思いますか。幸福感とは（25）の数値を指します。」
- ・「3-(27) 移動支援サービスの利用は、あなたの健康に良い影響を与えてていると思いますか。」

#### 2 担い手用アンケート

質問項目は、1回目と2回目で、以下の部分が異なる。

##### 【1回目】

「年齢」、「性別」、「(1) 活動に参加した理由」

##### 【2回目】

上記の3項目を削除し、以下の2項目を追加。

- ・「3-(26) 移動支援サービスの利用は、あなたの幸福感に良い影響を与えていていると思いますか。幸福感とは（25）の数値を指します。」
- ・「3-(27) 移動支援サービスの利用は、あなたの健康に良い影響を与えてていると思いますか。」

#### 3 回答提出団体のアンケート

1回目と2回目のアンケート調査票を、利用者及び担い手（運転者等）に配布及び回収してくださった団体を対象にしたアンケートの回答。利用者のご自宅周辺の交通事情を尋ねたもの。



### 分析方法

上記「利用者用アンケート」と「担い手用アンケート」について、2回目ともご回答いただいた利用者203名、担い手94名の回答を元に、以下の2つの方法で分析した。

#### 4 移動支援の利用者及び担い手への心理学的計量尺度を用いた定量的調査の分析結果

佐藤 満 氏／群馬パース大学リハビリテーション学部 理学療法学科 教授

#### 5 主観的幸福感と主観的健康感を軸にt検定および二項ロジスティック回帰分析を行った結果

大西 遼 氏／東邦大学医学部医学科 助教

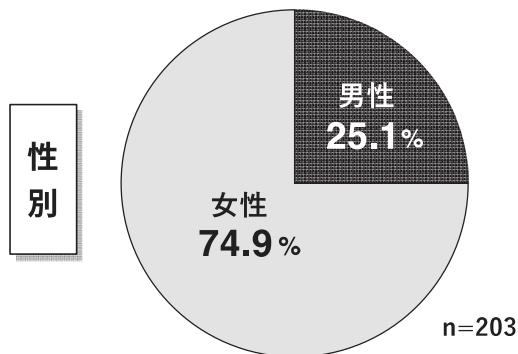
## 第2節 結果

### 1 単純集計（利用者アンケート）

#### （1）性別

性別をみると、「女性」が 74.9%ともっとも割合が高く、次いで「男性」が 25.1%である。

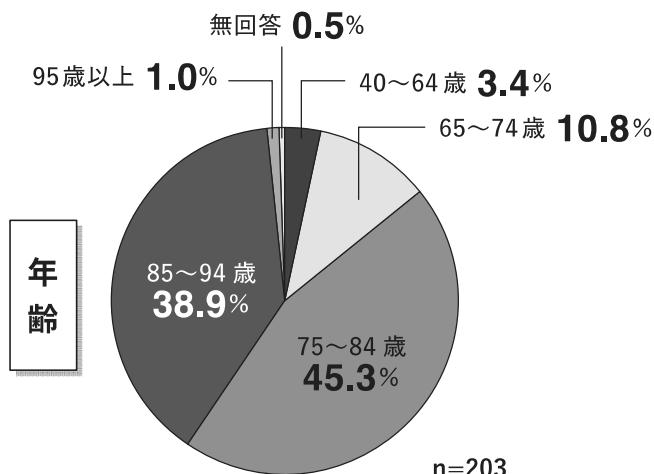
性別（1回目のみ）



#### （2）年齢

年齢をみると、「75～84 歳」が 45.3%ともっとも割合が高く、次いで「85～94 歳」が 38.9%である。

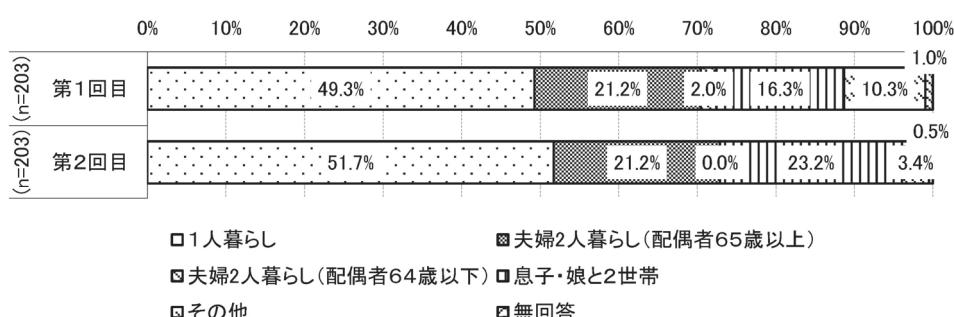
年齢（1回目のみ）



#### （3）家族構成（調査回数）

家族構成をみると、「第1回目」では「1人暮らし」が 49.3%ともっとも割合が高く、次いで「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が 21.2%である。「第2回目」では「1人暮らし」が 51.7%ともっとも割合が高く、次いで「息子・娘と2世帯」が 23.2%である。

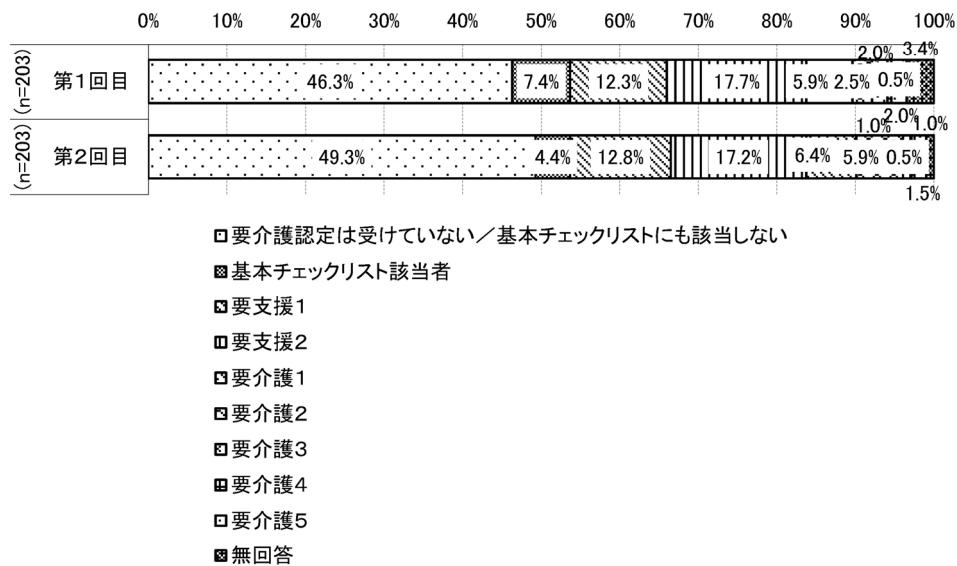
家族構成（調査回数別）



#### (4) 要介護度など（調査回数）

要介護度などをみると、「第1回目」では「要介護認定は受けていない／基本チェックリストにも該当しない」が46.3%ともっとも割合が高く、次いで「要支援2」が17.7%である。「第2回目」では「要介護認定は受けていない／基本チェックリストにも該当しない」が49.3%ともっとも割合が高く、次いで「要支援2」が17.2%である。

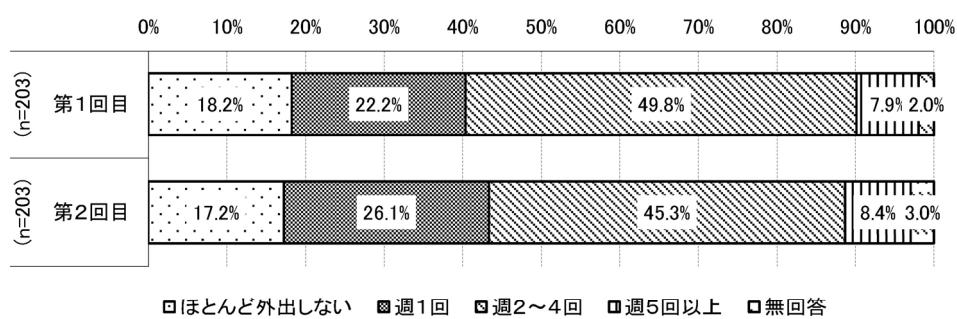
要介護度など（調査回数別）



#### (5) 外出頻度（調査回数）

外出頻度をみると、「第1回目」では「週2～4回」が49.8%ともっとも割合が高く、次いで「週1回」が22.2%である。「第2回目」では「週2～4回」が45.3%ともっとも割合が高く、次いで「週1回」が26.1%である。

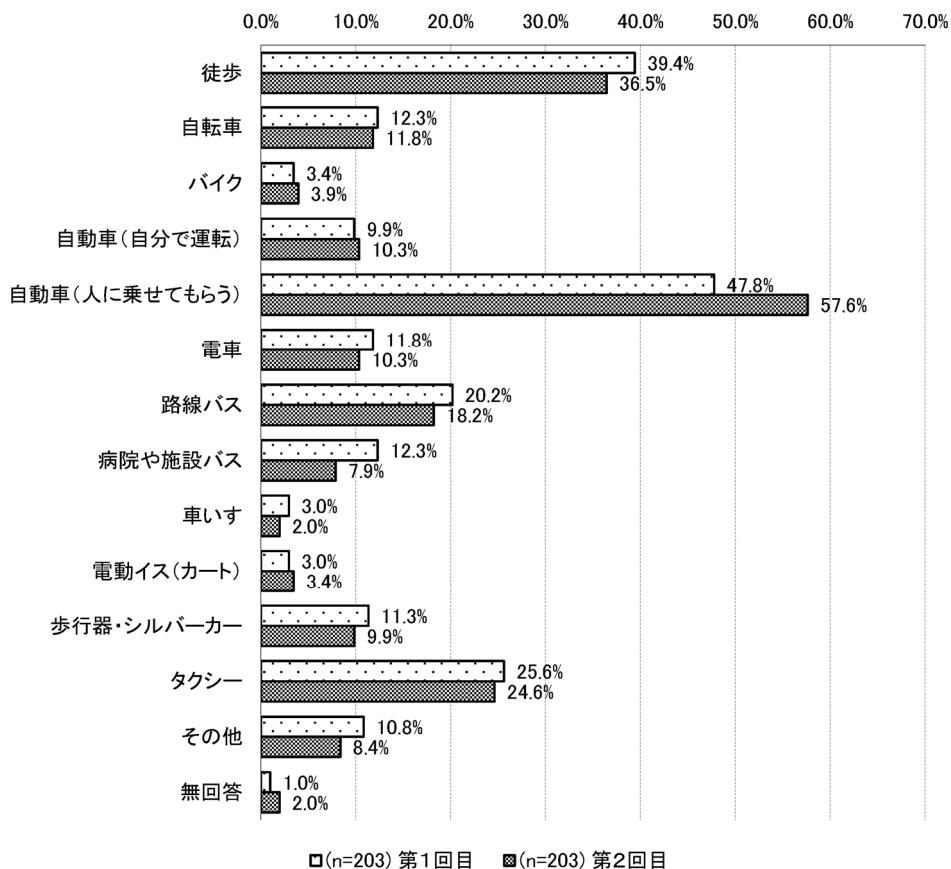
外出頻度（調査回数別）



## (6) 外出するときの移動手段（調査回数）

外出するときの移動手段をみると、「第1回目」では「自動車（人に乗せてもらう）」が47.8%ともっとも割合が高く、次いで「徒歩」が39.4%である。「第2回目」では「自動車（人に乗せてもらう）」が57.6%ともっとも割合が高く、次いで「徒歩」が36.5%である。

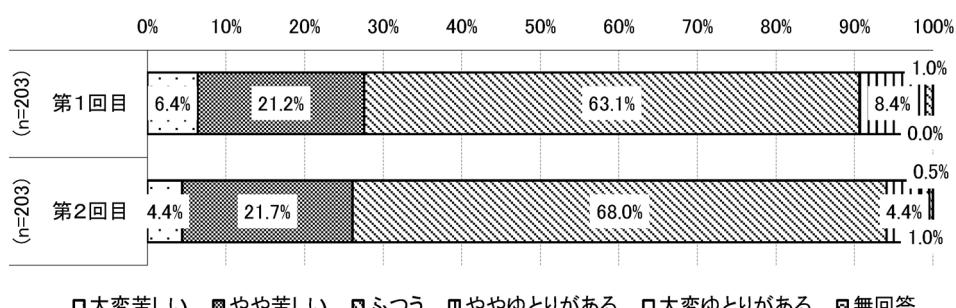
外出するときの移動手段（調査回数別）



## (7) 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じるか。（調査回数）

現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じるか。をみると、「第1回目」では「ふつう」が63.1%ともっとも割合が高く、次いで「やや苦しい」が21.2%である。「第2回目」では「ふつう」が68.0%ともっとも割合が高く、次いで「やや苦しい」が21.7%である。

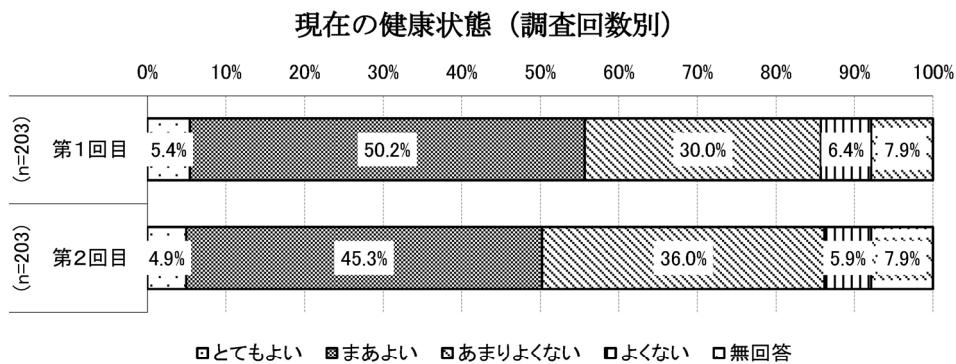
現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じるか。（調査回数別）



□大変苦しい ■やや苦しい ▨ふつう ▨ややゆとりがある □大変ゆとりがある □無回答

#### (8) 現在の健康状態（調査回数）

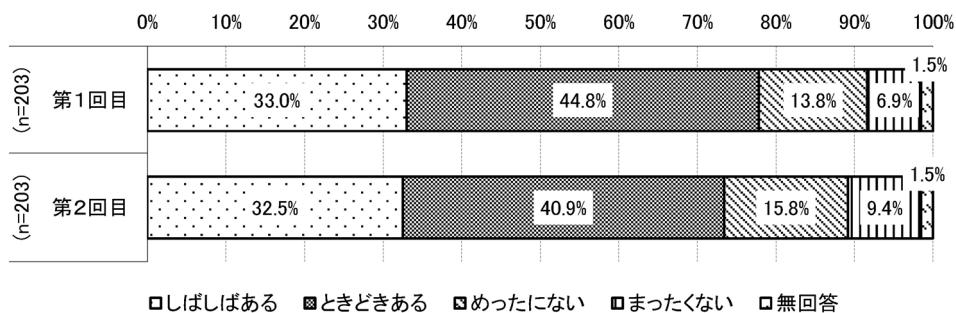
現在の健康状態をみると、「第1回目」では「まあよい」が50.2%ともっとも割合が高く、次いで「あまりよくない」が30.0%である。「第2回目」では「まあよい」が45.3%ともっとも割合が高く、次いで「あまりよくない」が36.0%である。



#### (9) 年齢のせいで、自分のやりたいことを行うことは不可能である。（調査回数）

年齢のせいで、自分のやりたいことを行うことは不可能である。みると、「第1回目」では「ときどきある」が44.8%ともっとも割合が高く、次いで「しばしばある」が33.0%である。「第2回目」では「ときどきある」が40.9%ともっとも割合が高く、次いで「しばしばある」が32.5%である。

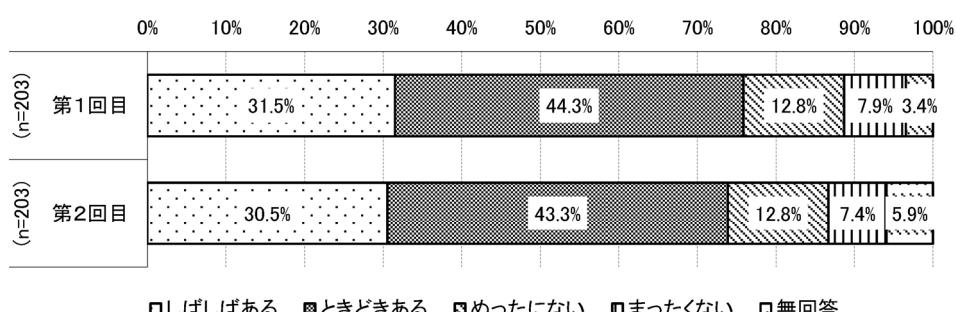
**年齢のせいで、自分のやりたいことを行うことは不可能である。（調査回数別）**



#### (10) 今自分に起こっている事は自分の力の及ばないことだと思う。（調査回数）

今自分に起こっている事は自分の力の及ばないことだと思う。みると、「第1回目」では「ときどきある」が44.3%ともっとも割合が高く、次いで「しばしばある」が31.5%である。「第2回目」では「ときどきある」が43.3%ともっとも割合が高く、次いで「しばしばある」が30.5%である。

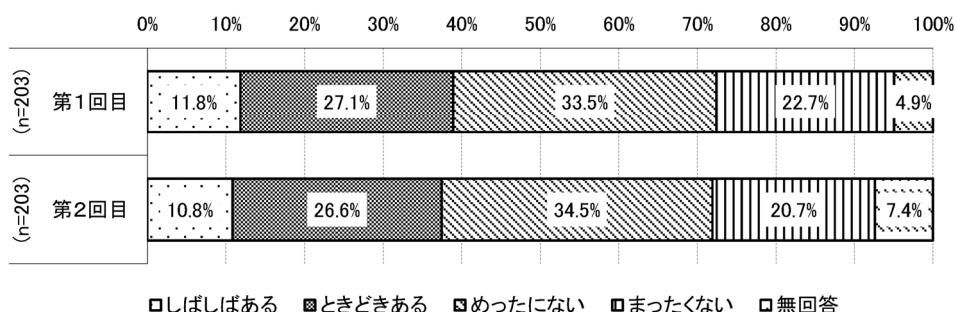
**今自分に起こっている事は自分の力の及ばないことだと思う。（調査回数別）**



### (1 1) 自分の思うとおりに将来を計画できると思う。(調査回数)

自分の思うとおりに将来を計画できると思う。をみると、「第1回目」では「めったにない」が33.5%ともっとも割合が高く、次いで「ときどきある」が27.1%である。「第2回目」では「めったにない」が34.5%ともっとも割合が高く、次いで「ときどきある」が26.6%である。

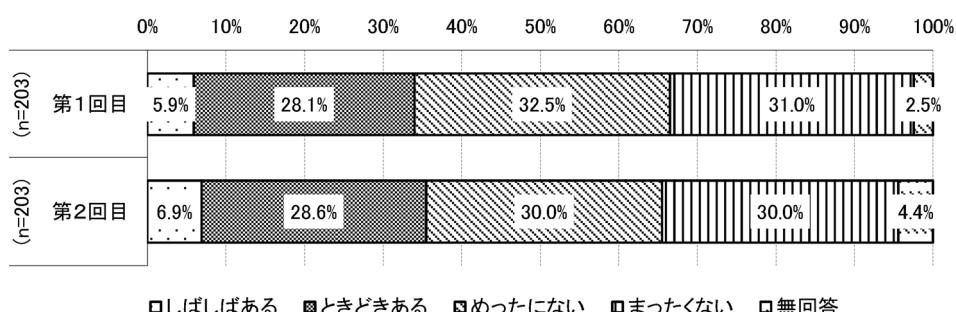
#### 自分の思うとおりに将来を計画できると思う。(調査回数別)



### (1 2) 色々なことから疎外されているような気がする。(調査回数)

色々なことから疎外されているような気がする。をみると、「第1回目」では「めったにない」が32.5%ともっとも割合が高く、次いで「まったくない」が31.0%である。「第2回目」では「めったにない」、「まったくない」が30.0%ともっとも割合が高く、次いで「ときどきある」が28.6%である。

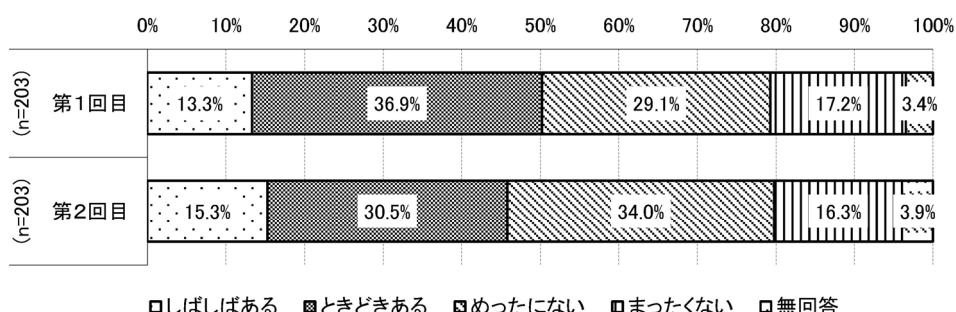
#### 色々なことから疎外されているような気がする。(調査回数別)



### (1 3) やりたいことは何でもできる。(調査回数)

やりたいことは何でもできる。をみると、「第1回目」では「ときどきある」が36.9%ともっとも割合が高く、次いで「めったにない」が29.1%である。「第2回目」では「めったにない」が34.0%ともっとも割合が高く、次いで「ときどきある」が30.5%である。

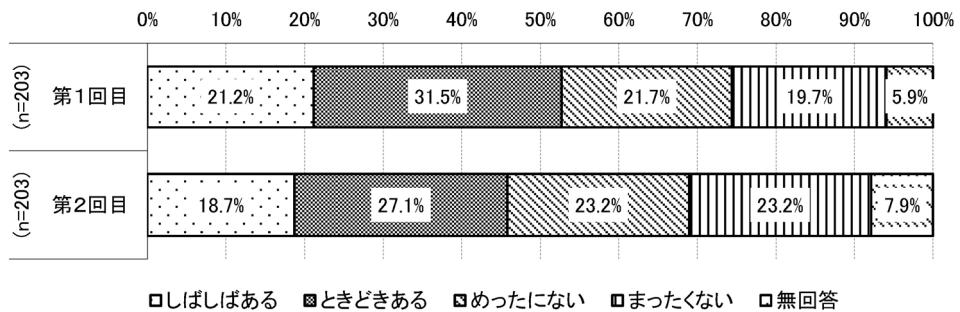
#### やりたいことは何でもできる。(調査回数別)



(14) 家族に対しての責任のため、やりたいと思うことはすることは不可能である。(調査回数)

家族に対しての責任のため、やりたいと思うことはすることは不可能である。みると、「第1回目」では「ときどきある」が31.5%ともっとも割合が高く、次いで「めったにない」が21.7%である。「第2回目」では「ときどきある」が27.1%ともっとも割合が高く、次いで「めったにない」、「まったくない」が23.2%である。

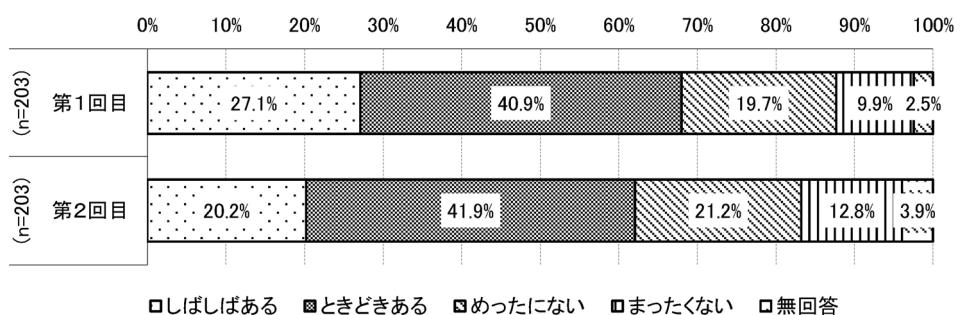
**家族に対しての責任のため、やりたいと思うことはすることは不可能である。(調査回数別)**



(15) 自分のやっていることから満足感を得られていると思う。(調査回数)

自分のやっていることから満足感を得られていると思う。みると、「第1回目」では「ときどきある」が40.9%ともっとも割合が高く、次いで「しばしばある」が27.1%である。「第2回目」では「ときどきある」が41.9%ともっとも割合が高く、次いで「めったにない」が21.2%である。

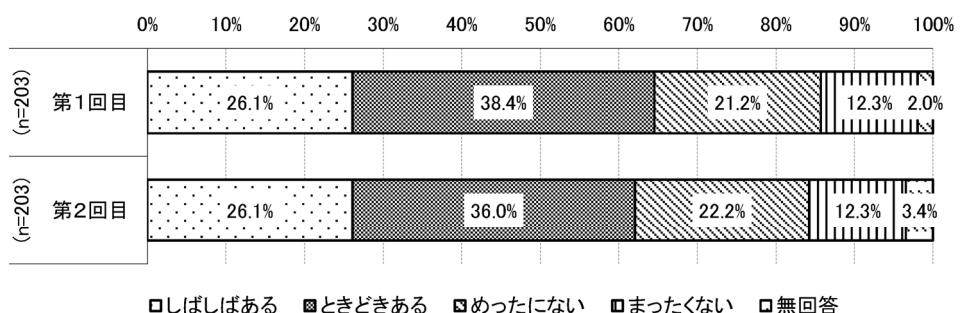
**自分のやっていることから満足感を得られていると思う。(調査回数別)**



(16) 自分の健康状態のため、自分のやりたいことをすることは不可能である。(調査回数)

自分の健康状態のため、自分のやりたいことをすることは不可能である。みると、「第1回目」では「ときどきある」が38.4%ともっとも割合が高く、次いで「しばしばある」が26.1%である。「第2回目」では「ときどきある」が36.0%ともっとも割合が高く、次いで「しばしばある」が26.1%である。

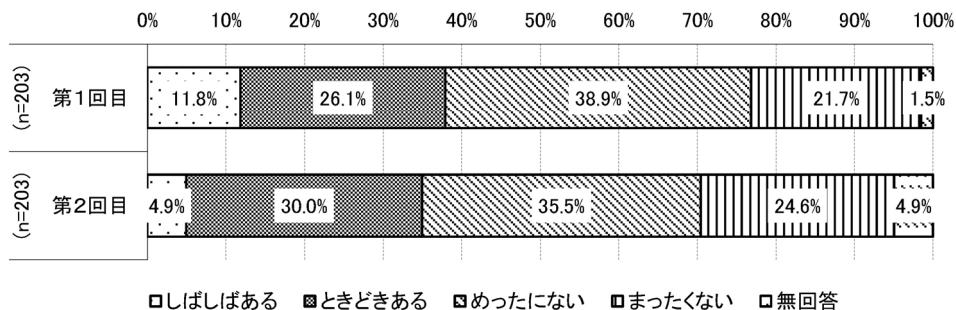
**自分の健康状態のため、自分のやりたいことをすることは不可能である。(調査回数別)**



## (17) 金銭的な事情のため、自分のしたいことをすることは不可能である。(調査回数)

金銭的な事情のため、自分のしたいことをすることは不可能である。をみると、「第1回目」では「めったにない」が38.9%ともっとも割合が高く、次いで「ときどきある」が26.1%である。「第2回目」では「めったにない」が35.5%ともっとも割合が高く、次いで「ときどきある」が30.0%である。

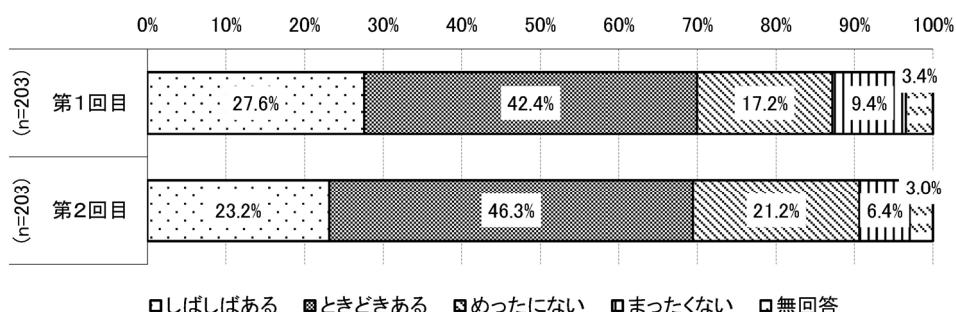
## 金銭的な事情のため、自分のしたいことをすることは不可能である。(調査回数別)



## (18) 毎日が楽しみである。(調査回数)

毎日が楽しみである。をみると、「第1回目」では「ときどきある」が42.4%ともっとも割合が高く、次いで「しばしばある」が27.6%である。「第2回目」では「ときどきある」が46.3%ともっとも割合が高く、次いで「しばしばある」が23.2%である。

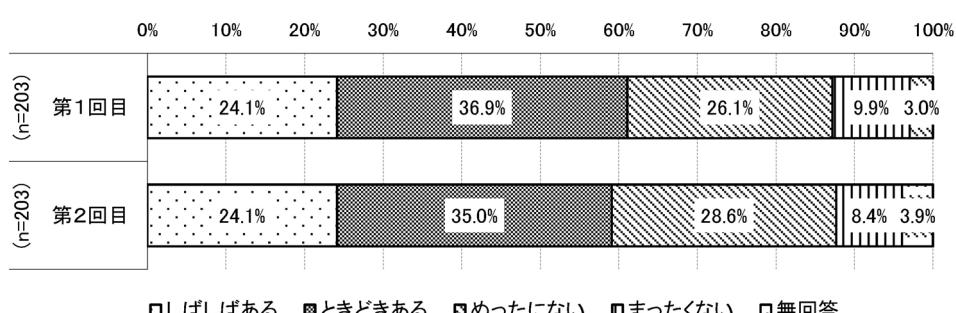
## 毎日が楽しみである。(調査回数別)



## (19) 自分の人生に対して生きがいを感じる。(調査回数)

自分の人生に対して生きがいを感じる。をみると、「第1回目」では「ときどきある」が36.9%ともっとも割合が高く、次いで「めったにない」が26.1%である。「第2回目」では「ときどきある」が35.0%ともっとも割合が高く、次いで「めったにない」が28.6%である。

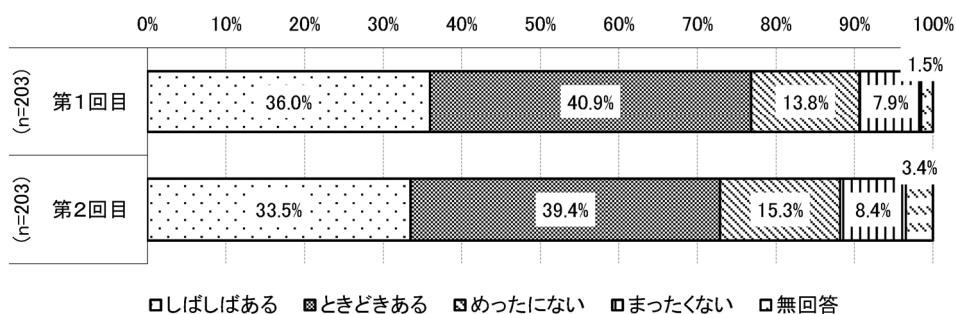
## 自分の人生に対して生きがいを感じる。(調査回数別)



#### (20) 自分がしていることを楽しんでいる。(調査回数)

自分がしていることを楽しんでいる。をみると、「第1回目」では「ときどきある」が40.9%ともっとも割合が高く、次いで「しばしばある」が36.0%である。「第2回目」では「ときどきある」が39.4%ともっとも割合が高く、次いで「しばしばある」が33.5%である。

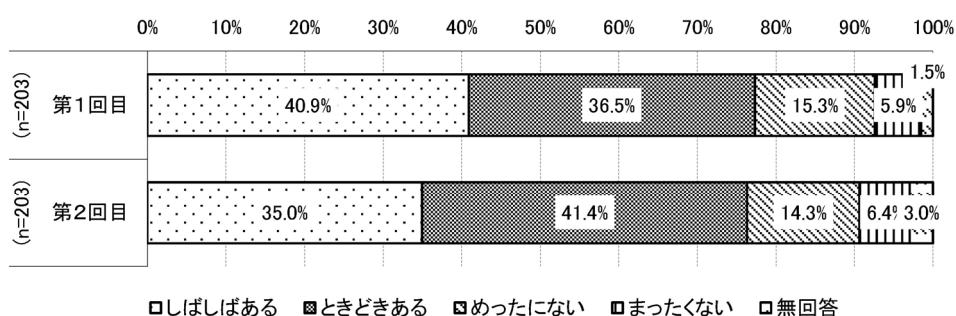
#### 自分がしていることを楽しんでいる。(調査回数別)



#### (21) 周囲の人たちとの親交を楽しんでいる。(調査回数)

周囲の人たちとの親交を楽しんでいる。をみると、「第1回目」では「しばしばある」が40.9%ともっとも割合が高く、次いで「ときどきある」が36.5%である。「第2回目」では「ときどきある」が41.4%ともっとも割合が高く、次いで「しばしばある」が35.0%である。

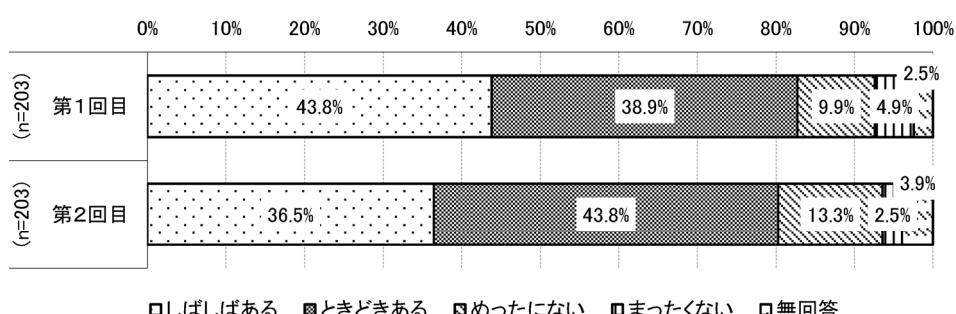
#### 周囲の人たちとの親交を楽しんでいる。(調査回数別)



#### (22) 自分の歩んできた人生を振り返ってみてどちらかというと幸せな人生だと思う。(調査回数)

自分の歩んできた人生を振り返ってみてどちらかというと幸せな人生だと思う。をみると、「第1回目」では「しばしばある」が43.8%ともっとも割合が高く、次いで「ときどきある」が38.9%である。「第2回目」では「ときどきある」が43.8%ともっとも割合が高く、次いで「しばしばある」が36.5%である。

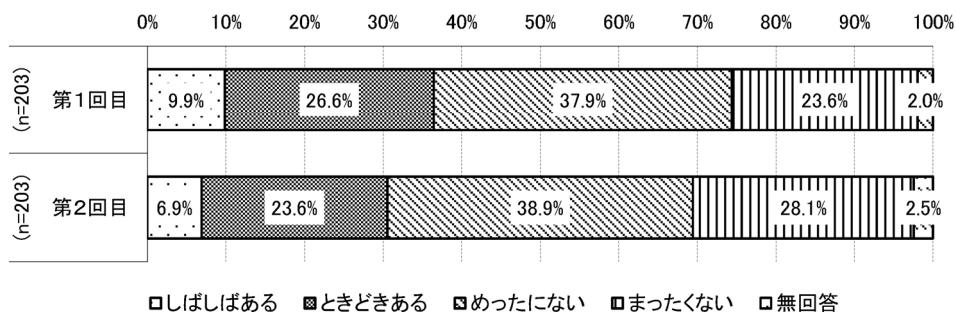
#### 自分の歩んできた人生を振り返ってみてどちらかというと幸せな人生だと思う。(調査回数別)



## (23) 最近エネルギー満々である。(調査回数)

最近エネルギー満々である。をみると、「第1回目」では「めったにない」が37.9%ともっとも割合が高く、次いで「ときどきある」が26.6%である。「第2回目」では「めったにない」が38.9%ともっとも割合が高く、次いで「まったくない」が28.1%である。

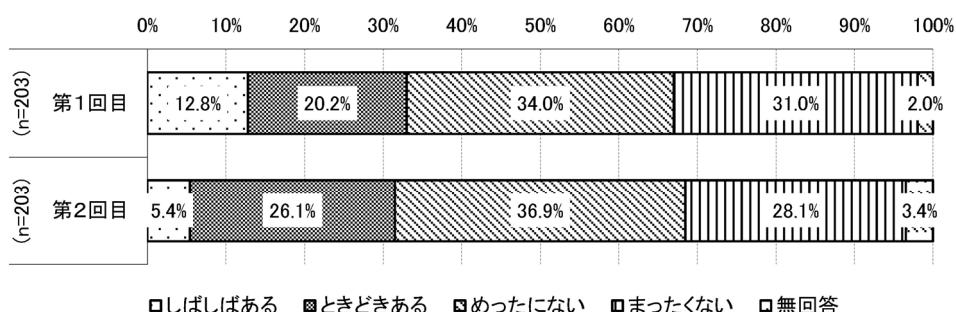
最近エネルギー満々である。(調査回数別)



## (24) 今までやつていなかったことを進んでやつっている。(調査回数)

今までやつていなかったことを進んでやつている。をみると、「第1回目」では「めったにない」が34.0%ともっとも割合が高く、次いで「まったくない」が31.0%である。「第2回目」では「めったにない」が36.9%ともっとも割合が高く、次いで「まったくない」が28.1%である。

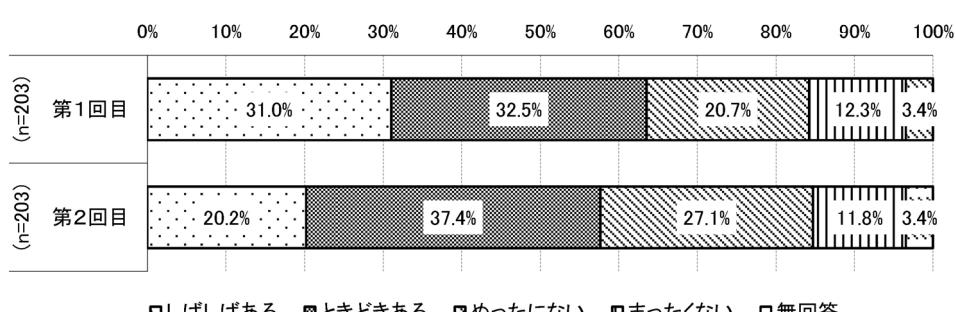
今までやつていなかったことを進んでやつている。(調査回数別)



## (25) 自分の人生の成り行きに満足している。(調査回数)

自分の人生の成り行きに満足している。をみると、「第1回目」では「ときどきある」が32.5%ともっとも割合が高く、次いで「しばしばある」が31.0%である。「第2回目」では「ときどきある」が37.4%ともっとも割合が高く、次いで「めったにない」が27.1%である。

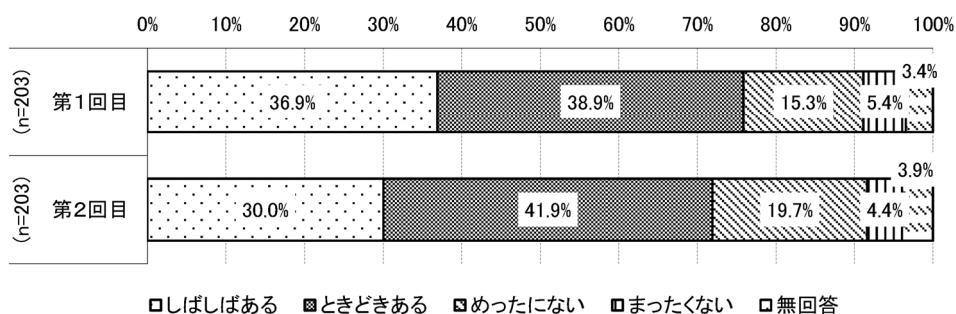
自分の人生の成り行きに満足している。(調査回数別)



#### (26) 人生には沢山の機会があると思う。(調査回数)

人生には沢山の機会があると思う。をみると、「第1回目」では「ときどきある」が38.9%ともっとも割合が高く、次いで「しばしばある」が36.9%である。「第2回目」では「ときどきある」が41.9%ともっとも割合が高く、次いで「しばしばある」が30.0%である。

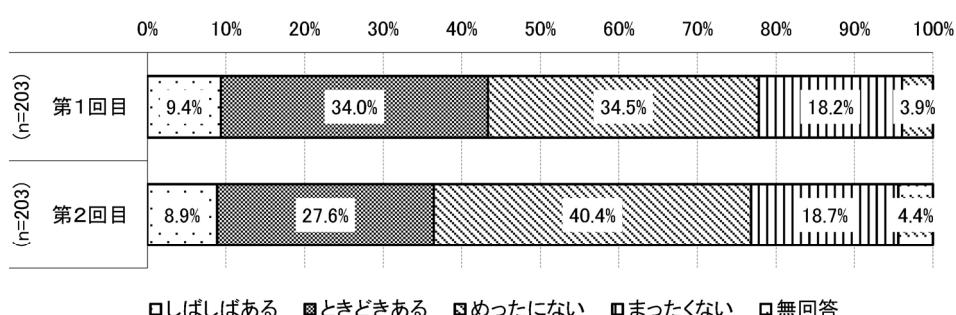
人生には沢山の機会があると思う。(調査回数別)



#### (27) 自分の将来の展望は望ましいと思う。(調査回数)

自分の将来の展望は望ましいと思う。をみると、「第1回目」では「めったにない」が34.5%ともっとも割合が高く、次いで「ときどきある」が34.0%である。「第2回目」では「めったにない」が40.4%ともっとも割合が高く、次いで「ときどきある」が27.6%である。

自分の将来の展望は望ましいと思う。(調査回数別)

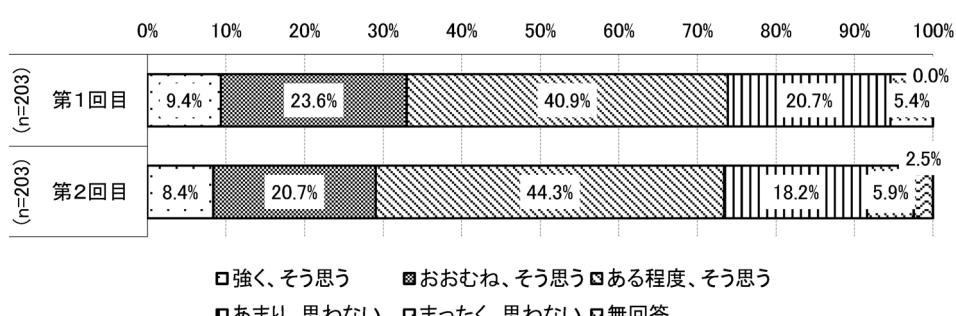


#### (28) ご自身の健康や生活にさまざまな問題があつても、自分は活動的な生活を送っていると思いますか？(調査回数)

ご自身の健康や生活にさまざまな問題があつても、自分は活動的な生活を送っていると思いますか？をみると、「第1回目」では「ある程度、そう思う」が40.9%ともっとも割合が高く、次いで「おおむね、そう思う」が23.6%である。「第2回目」では「ある程度、そう思う」が44.3%ともっとも割合が高く、次いで「おおむね、そう思う」が20.7%である。

ご自身の健康や生活にさまざまな問題があつても、自分は活動的な生活を送っていると思いますか？

(調査回数別)

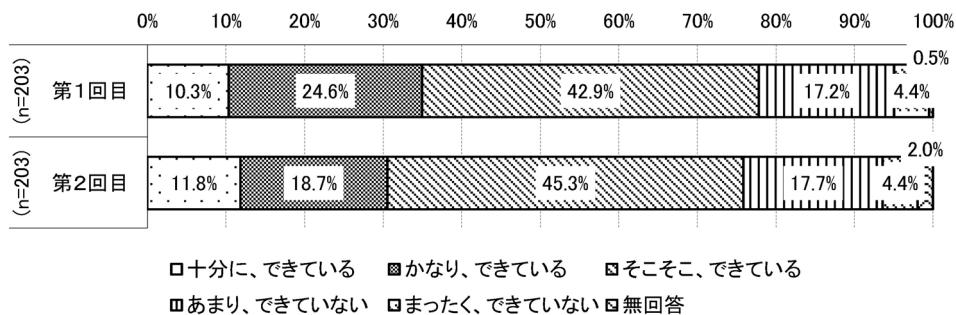


(29) ご自身がより活動的な生活を送るための意思決定は、自分でどれだけできていると思いますか？（調査回数）

ご自身がより活動的な生活を送るための意思決定は、自分でどれだけできていると思いますか？をみると、「第1回目」では「そこそこ、できている」が42.9%ともっとも割合が高く、次いで「かなり、できている」が24.6%である。「第2回目」では「そこそこ、できている」が45.3%ともっとも割合が高く、次いで「かなり、できている」が18.7%である。

ご自身がより活動的な生活を送るための意思決定は、自分でどれだけできていると思いますか？

（調査回数別）

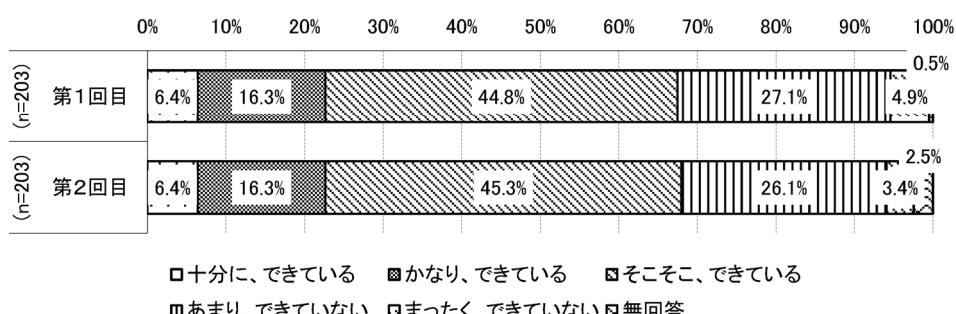


(30) ご自身がより活動的な生活を送るための取組は、自分でどれだけ実行できていると思いますか？（調査回数）

ご自身がより活動的な生活を送るための取組は、自分でどれだけ実行できていると思いますか？をみると、「第1回目」では「そこそこ、できている」が44.8%ともっとも割合が高く、次いで「あまり、できていない」が27.1%である。「第2回目」では「そこそこ、できている」が45.3%ともっとも割合が高く、次いで「あまり、できていない」が26.1%である。

ご自身がより活動的な生活を送るための取組は、自分でどれだけ実行できていると思いますか？

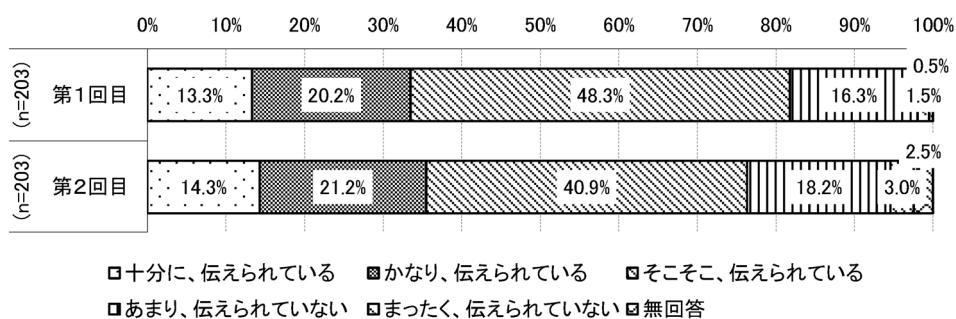
（調査回数別）



(3 1) ご自身の思いや希望をどれだけ他者（家族・支援の専門家を含む）に伝えられていると思いますか？（調査回数）

ご自身の思いや希望をどれだけ他者（家族・支援の専門家を含む）に伝えられていると思いますか？をみると、「第1回目」では「そこそこ、伝えられている」が48.3%ともっとも割合が高く、次いで「かなり、伝えられている」が20.2%である。「第2回目」では「そこそこ、伝えられている」が40.9%ともっとも割合が高く、次いで「かなり、伝えられている」が21.2%である。

ご自身の思いや希望をどれだけ他者（家族・支援の専門家を含む）に伝えられていると思いますか？  
(調査回数別)

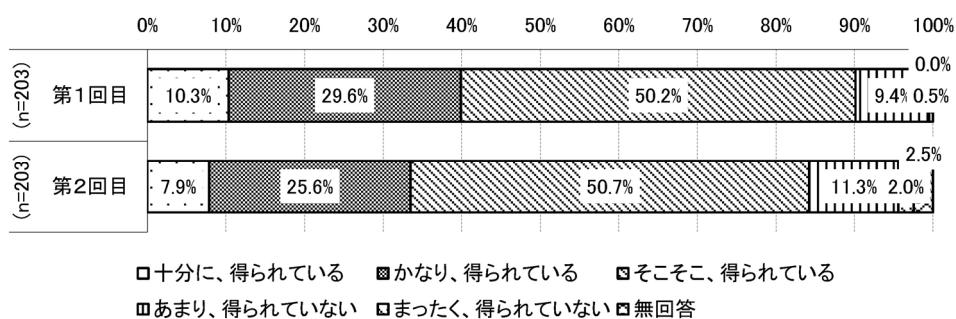


(3 2) ご自身の健康や生活をよりよくするための情報をどれだけ得られていると思いますか？（調査回数）

ご自身の健康や生活をよりよくするための情報をどれだけ得られていると思いますか？をみると、「第1回目」では「そこそこ、得られている」が50.2%ともっとも割合が高く、次いで「かなり、得られている」が29.6%である。「第2回目」では「そこそこ、得られている」が50.7%ともっとも割合が高く、次いで「かなり、得られている」が25.6%である。

ご自身の健康や生活をよりよくするための情報をどれだけ得られていると思いますか？

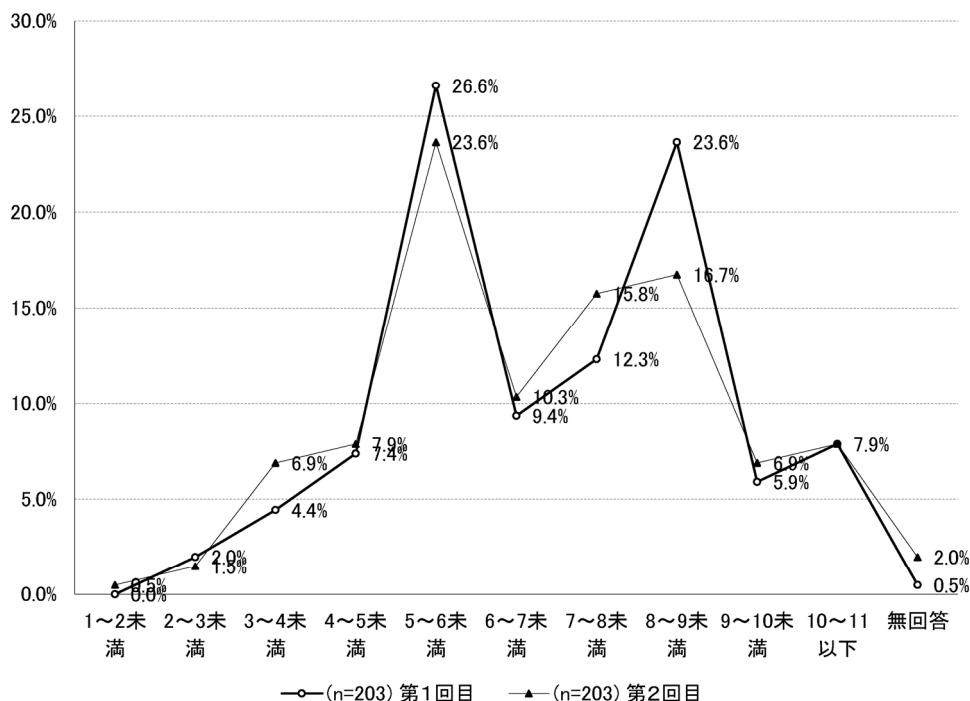
(調査回数別)



## (3 3) あなたは、現在どの程度幸せですか？（調査回数）

あなたは、現在どの程度幸せですか？をみると、2回とも5～6未満が最も多く、次いで、8～9未満が多い。

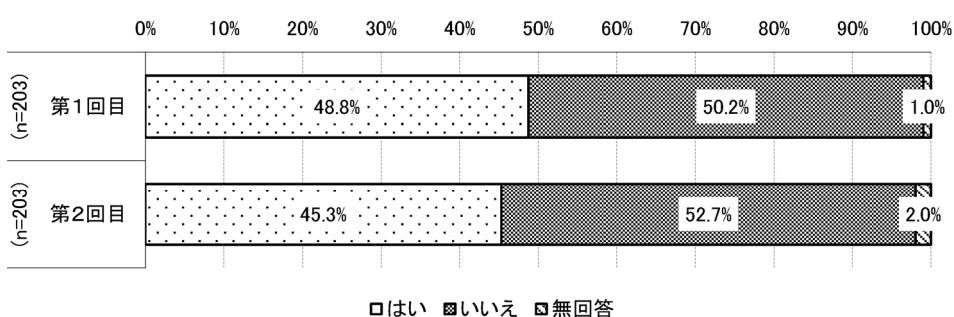
## あなたは、現在どの程度幸せですか？（調査回数別）



## (3 4) バスや電車を使って1人で外出できますか？（調査回数）

バスや電車を使って1人で外出できますか？をみると、「第1回目」では「いいえ」が50.2%ともっとも割合が高く、次いで「はい」が48.8%である。「第2回目」では「いいえ」が52.7%ともっとも割合が高く、次いで「はい」が45.3%である。

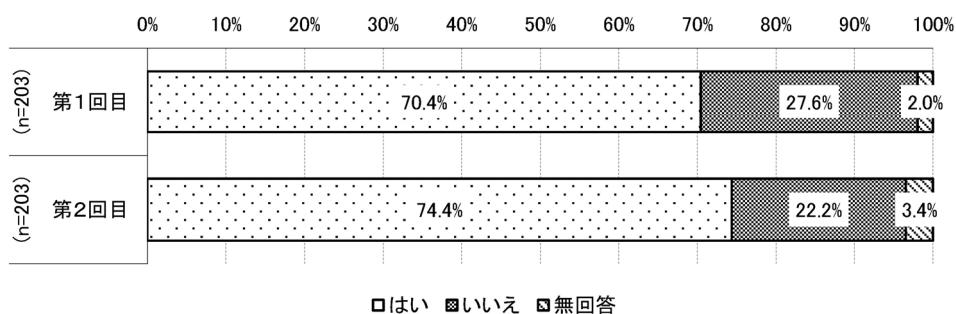
## バスや電車を使って1人で外出できますか？（調査回数別）



### (3 5) 日用品の買い物ができますか? (調査回数)

日用品の買い物ができますか?をみると、「第1回目」では「はい」が70.4%ともっとも割合が高く、次いで「いいえ」が27.6%である。「第2回目」では「はい」が74.4%ともっとも割合が高く、次いで「いいえ」が22.2%である。

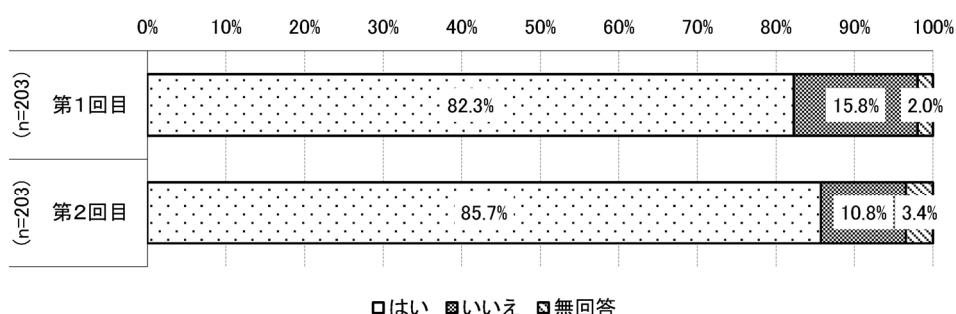
日用品の買い物ができますか? (調査回数別)



### (3 6) 自分で食事の用意ができますか? (調査回数)

自分で食事の用意ができますか?をみると、「第1回目」では「はい」が82.3%ともっとも割合が高く、次いで「いいえ」が15.8%である。「第2回目」では「はい」が85.7%ともっとも割合が高く、次いで「いいえ」が10.8%である。

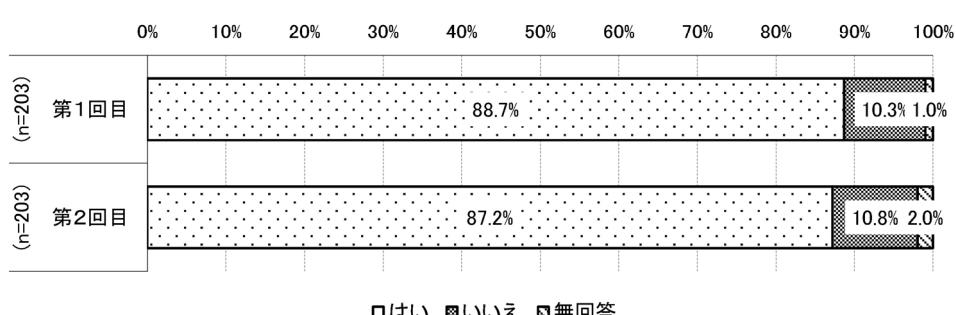
自分で食事の用意ができますか? (調査回数別)



### (3 7) 請求書の支払いができますか? (調査回数)

請求書の支払いができますか?をみると、「第1回目」では「はい」が88.7%ともっとも割合が高く、次いで「いいえ」が10.3%である。「第2回目」では「はい」が87.2%ともっとも割合が高く、次いで「いいえ」が10.8%である。

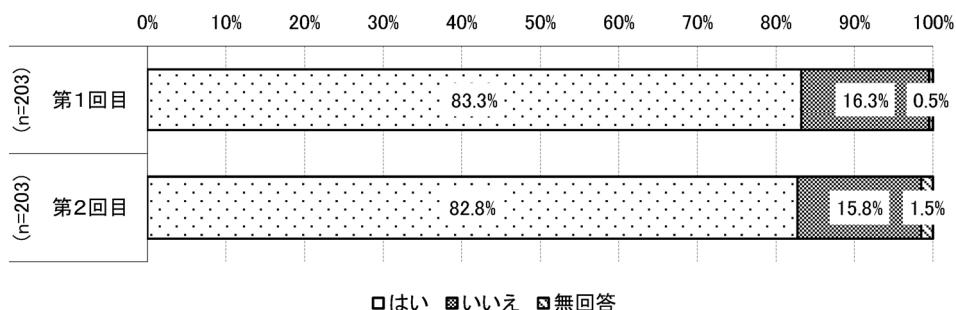
請求書の支払いができますか? (調査回数別)



## (38) 銀行預金・郵便貯金の出し入れが自分でできますか？（調査回数）

銀行預金・郵便貯金の出し入れが自分でできますか？をみると、「第1回目」では「はい」が83.3%ともっとも割合が高く、次いで「いいえ」が16.3%である。「第2回目」では「はい」が82.8%ともっとも割合が高く、次いで「いいえ」が15.8%である。

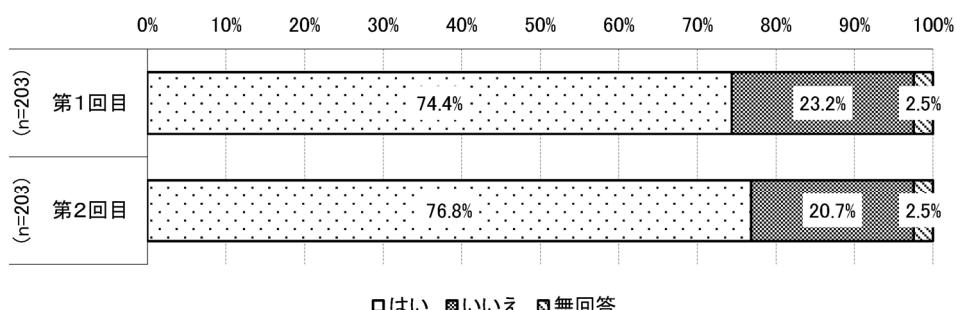
銀行預金・郵便貯金の出し入れが自分でできますか？（調査回数別）



## (39) 年金などの書類が書けますか？（調査回数）

年金などの書類が書けますか？をみると、「第1回目」では「はい」が74.4%ともっとも割合が高く、次いで「いいえ」が23.2%である。「第2回目」では「はい」が76.8%ともっとも割合が高く、次いで「いいえ」が20.7%である。

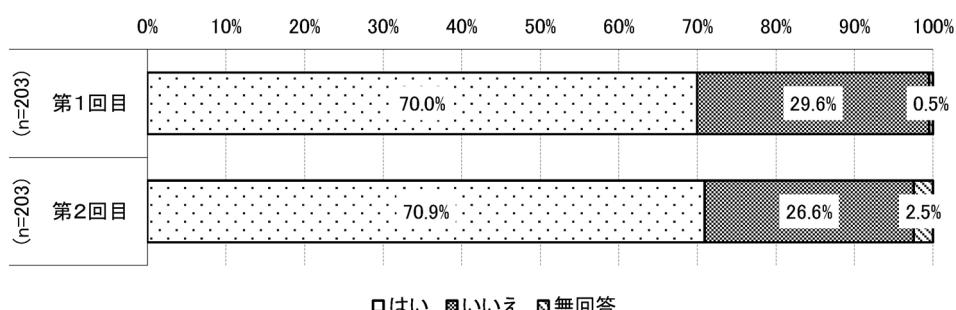
年金などの書類が書けますか？（調査回数別）



## (40) 新聞を読んでいますか？（調査回数）

新聞を読んでいますか？をみると、「第1回目」では「はい」が70.0%ともっとも割合が高く、次いで「いいえ」が29.6%である。「第2回目」では「はい」が70.9%ともっとも割合が高く、次いで「いいえ」が26.6%である。

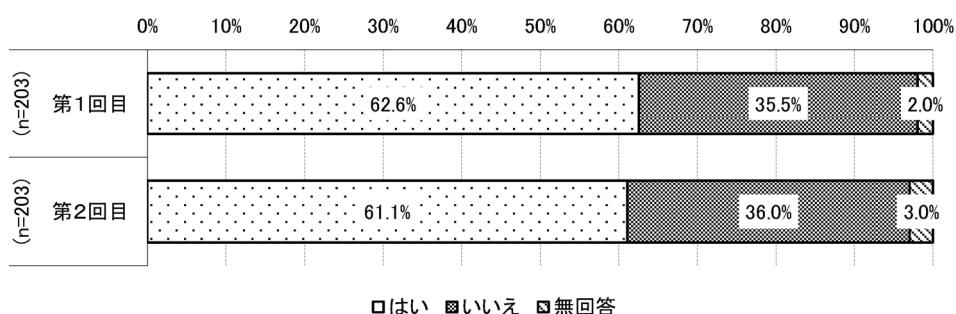
新聞を読んでいますか？（調査回数別）



#### (4 1) 本や雑誌を読んでいますか？（調査回数）

本や雑誌を読んでいますか？をみると、「第1回目」では「はい」が62.6%ともっとも割合が高く、次いで「いいえ」が35.5%である。「第2回目」では「はい」が61.1%ともっとも割合が高く、次いで「いいえ」が36.0%である。

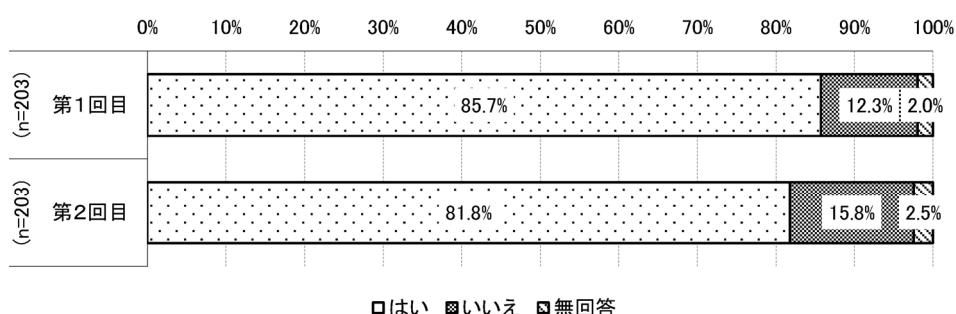
本や雑誌を読んでいますか？（調査回数別）



#### (4 2) 健康についての記事や番組に興味がありますか？（調査回数）

健康についての記事や番組に興味がありますか？をみると、「第1回目」では「はい」が85.7%ともっとも割合が高く、次いで「いいえ」が12.3%である。「第2回目」では「はい」が81.8%ともっとも割合が高く、次いで「いいえ」が15.8%である。

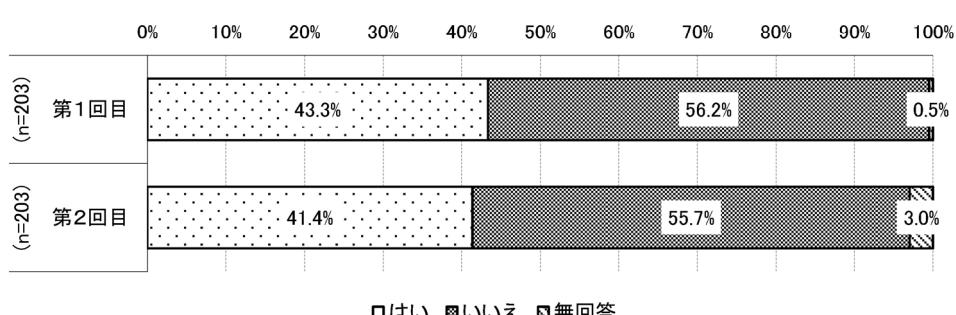
健康についての記事や番組に興味がありますか？（調査回数別）



#### (4 3) 友だちの家を訪ねることがありますか？（調査回数）

友だちの家を訪ねることがありますか？をみると、「第1回目」では「いいえ」が56.2%ともっとも割合が高く、次いで「はい」が43.3%である。「第2回目」では「いいえ」が55.7%ともっとも割合が高く、次いで「はい」が41.4%である。

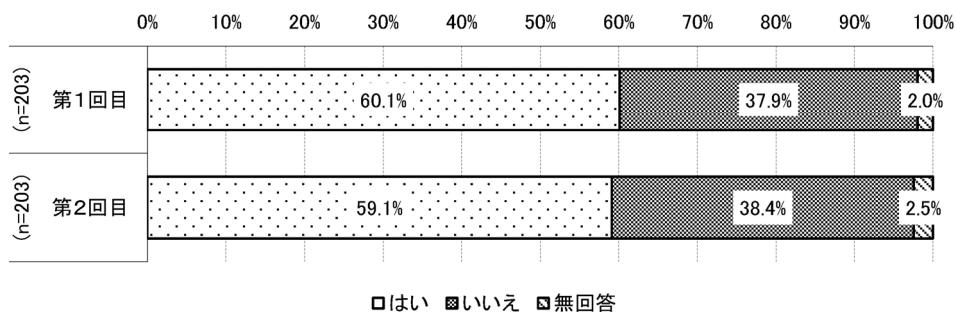
友だちの家を訪ねることがありますか？（調査回数別）



## (4 4) 家族や友だちの相談にのることがありますか？（調査回数）

家族や友だちの相談にのることがありますか？をみると、「第1回目」では「はい」が60.1%ともっとも割合が高く、次いで「いいえ」が37.9%である。「第2回目」では「はい」が59.1%ともっとも割合が高く、次いで「いいえ」が38.4%である。

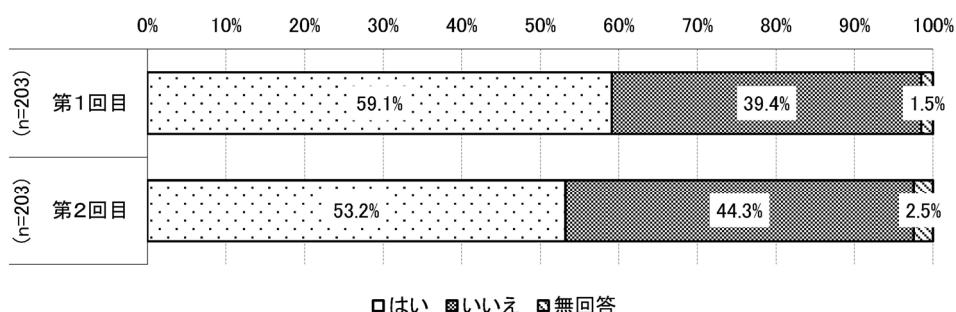
## 家族や友だちの相談にのることがありますか？（調査回数別）



## (4 5) 病人を見舞うことができますか？（調査回数）

病人を見舞うことができますか？をみると、「第1回目」では「はい」が59.1%ともっとも割合が高く、次いで「いいえ」が39.4%である。「第2回目」では「はい」が53.2%ともっとも割合が高く、次いで「いいえ」が44.3%である。

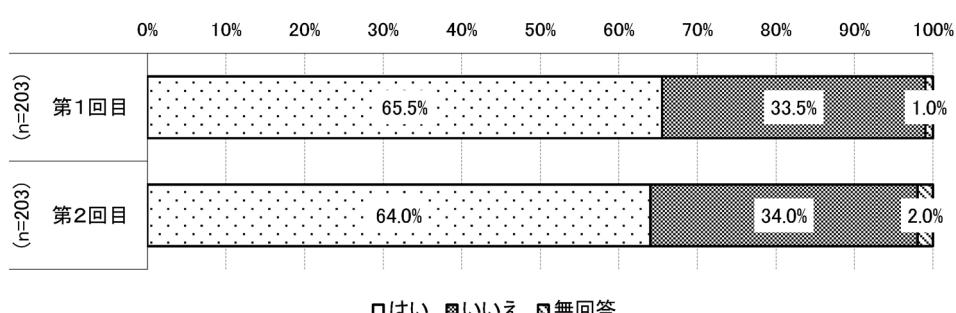
## 病人を見舞うことができますか？（調査回数別）



## (4 6) 若い人に自分から話かけることがありますか？（調査回数）

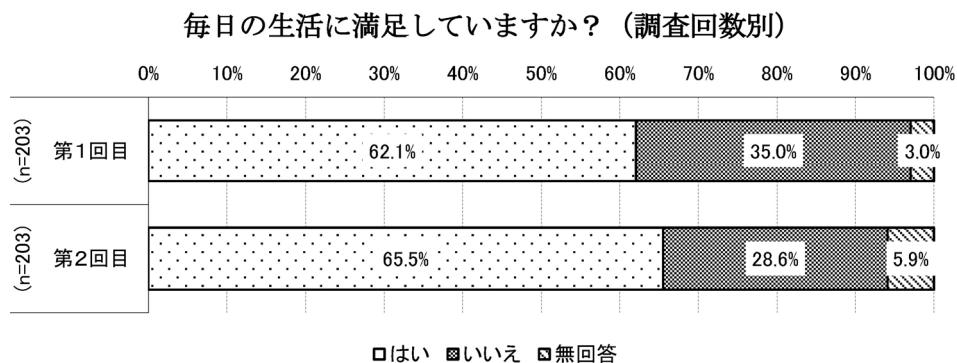
若い人に自分から話かけることがありますか？をみると、「第1回目」では「はい」が65.5%ともっとも割合が高く、次いで「いいえ」が33.5%である。「第2回目」では「はい」が64.0%ともっとも割合が高く、次いで「いいえ」が34.0%である。

## 若い人に自分から話かけることがありますか？（調査回数別）



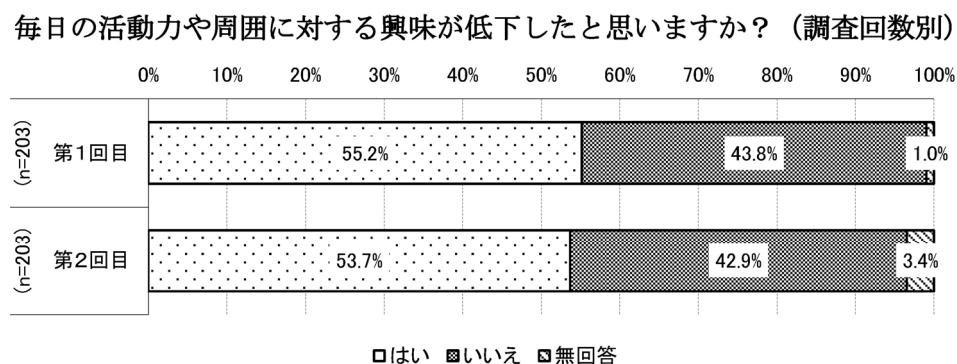
#### (4 7) 毎日の生活に満足していますか？（調査回数）

毎日の生活に満足していますか？をみると、「第1回目」では「はい」が62.1%ともっとも割合が高く、次いで「いいえ」が35.0%である。「第2回目」では「はい」が65.5%ともっとも割合が高く、次いで「いいえ」が28.6%である。



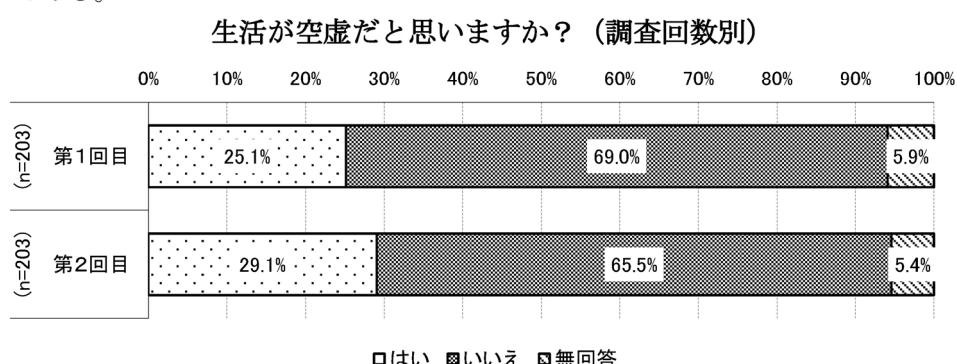
#### (4 8) 每日の活動力や周囲に対する興味が低下したと思いますか？（調査回数）

毎日の活動力や周囲に対する興味が低下しただと思いますか？をみると、「第1回目」では「はい」が55.2%ともっとも割合が高く、次いで「いいえ」が43.8%である。「第2回目」では「はい」が53.7%ともっとも割合が高く、次いで「いいえ」が42.9%である。



#### (4 9) 生活が空虚だと思いますか？（調査回数）

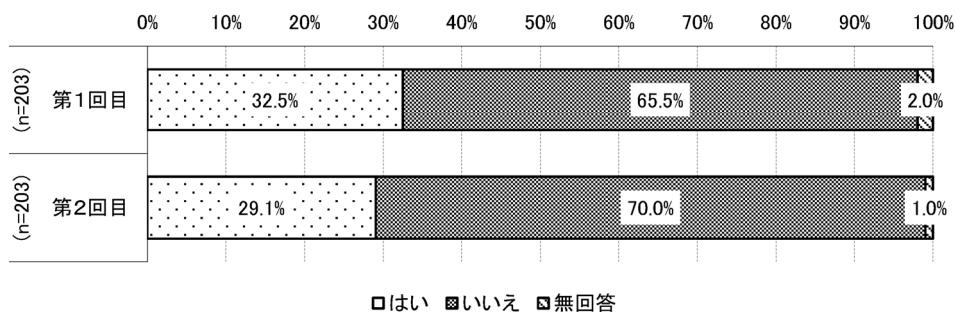
生活が空虚だと思いますか？をみると、「第1回目」では「いいえ」が69.0%ともっとも割合が高く、次いで「はい」が25.1%である。「第2回目」では「いいえ」が65.5%ともっとも割合が高く、次いで「はい」が29.1%である。



## (50) 毎日が退屈だと思うことが多いですか？（調査回数）

毎日が退屈だと思うことが多いですか？をみると、「第1回目」では「いいえ」が65.5%ともっとも割合が高く、次いで「はい」が32.5%である。「第2回目」では「いいえ」が70.0%ともっとも割合が高く、次いで「はい」が29.1%である。

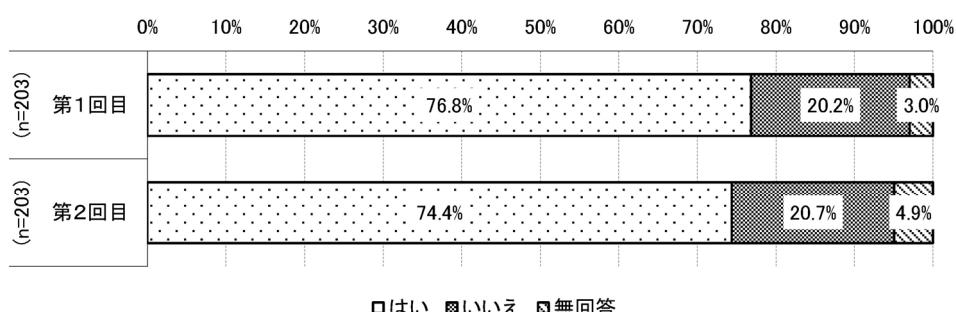
## 毎日が退屈だと思うことが多いですか？（調査回数別）



## (51) 大抵は機嫌よく過ごすことが多いですか？（調査回数）

大抵は機嫌よく過ごすことが多いですか？をみると、「第1回目」では「はい」が76.8%ともっとも割合が高く、次いで「いいえ」が20.2%である。「第2回目」では「はい」が74.4%ともっとも割合が高く、次いで「いいえ」が20.7%である。

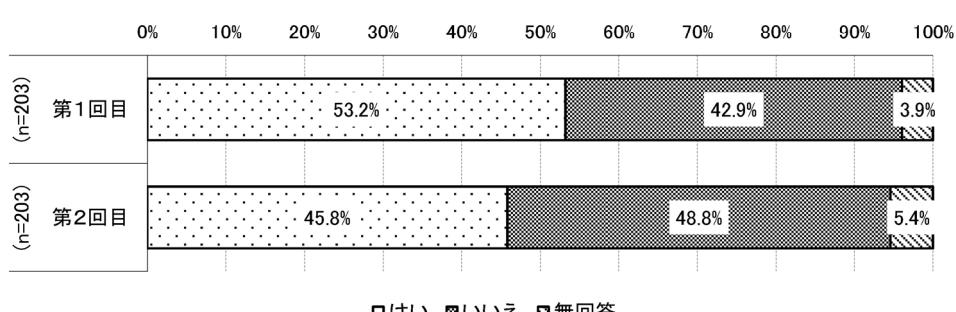
## 大抵は機嫌よく過ごすことが多いですか？（調査回数別）



## (52) 将来の漠然とした不安に駆られることが多いですか？（調査回数）

将来の漠然とした不安に駆られることが多いですか？をみると、「第1回目」では「はい」が53.2%ともっとも割合が高く、次いで「いいえ」が42.9%である。「第2回目」では「いいえ」が48.8%ともっとも割合が高く、次いで「はい」が45.8%である。

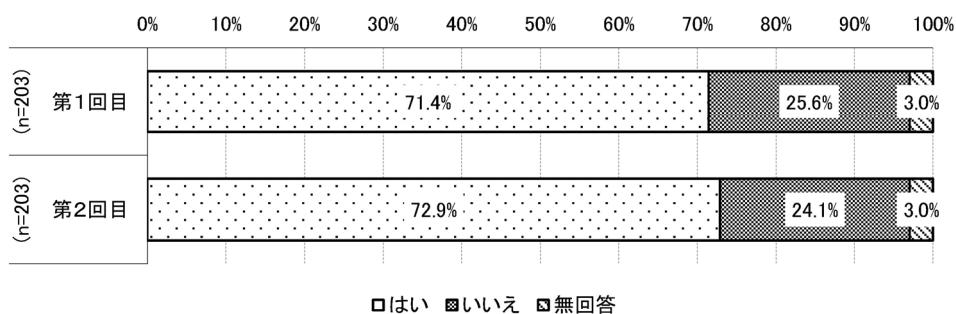
## 将来の漠然とした不安に駆られることが多いですか？（調査回数別）



(5 3) 多くの場合は自分が幸福だと思いますか？（調査回数）

多くの場合は自分が幸福だと思いますか？をみると、「第1回目」では「はい」が71.4%ともっとも割合が高く、次いで「いいえ」が25.6%である。「第2回目」では「はい」が72.9%ともっとも割合が高く、次いで「いいえ」が24.1%である。

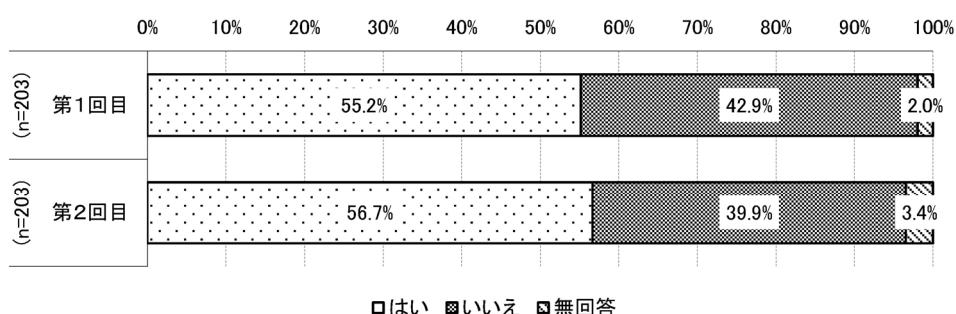
多くの場合は自分が幸福だと思いますか？（調査回数別）



(5 4) 自分が無力だなあと思うことが多いですか？（調査回数）

自分が無力だなあと思うことが多いですか？をみると、「第1回目」では「はい」が55.2%ともっとも割合が高く、次いで「いいえ」が42.9%である。「第2回目」では「はい」が56.7%ともっとも割合が高く、次いで「いいえ」が39.9%である。

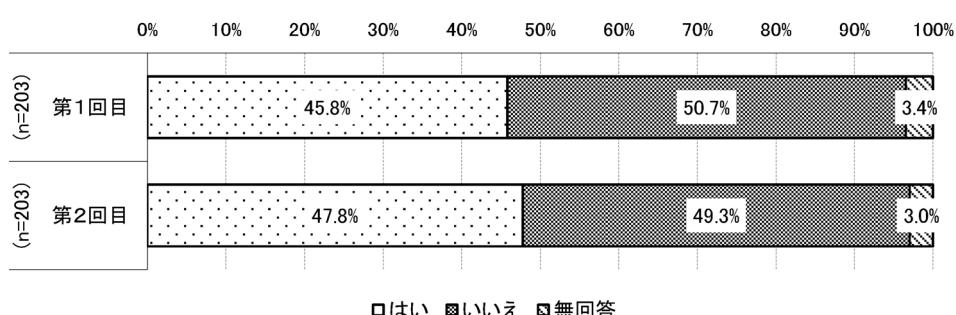
自分が無力だなあと思うことが多いですか？（調査回数別）



(5 5) 外出したり何か新しいことをするより家にいたいと思いますか？（調査回数）

外出したり何か新しいことをするより家にいたいと思いますか？をみると、「第1回目」では「いいえ」が50.7%ともっとも割合が高く、次いで「はい」が45.8%である。「第2回目」では「いいえ」が49.3%ともっとも割合が高く、次いで「はい」が47.8%である。

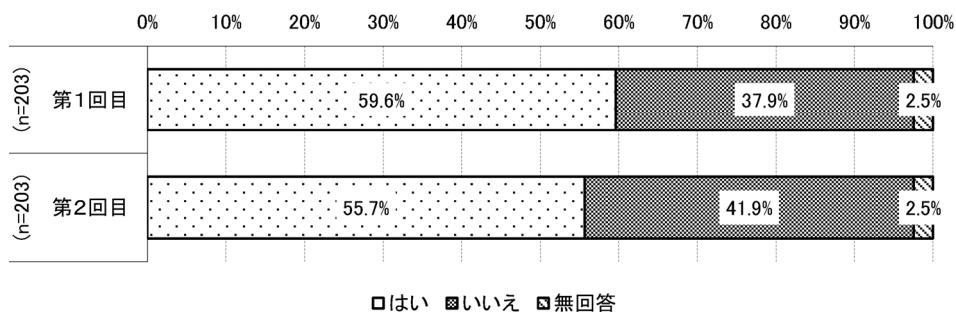
外出したり何か新しいことをするより家にいたいと思いますか？（調査回数別）



## (56) 何よりもまず、もの忘れが気になりますか？（調査回数）

何よりもまず、もの忘れが気になりますか？をみると、「第1回目」では「はい」が59.6%ともっとも割合が高く、次いで「いいえ」が37.9%である。「第2回目」では「はい」が55.7%ともっとも割合が高く、次いで「いいえ」が41.9%である。

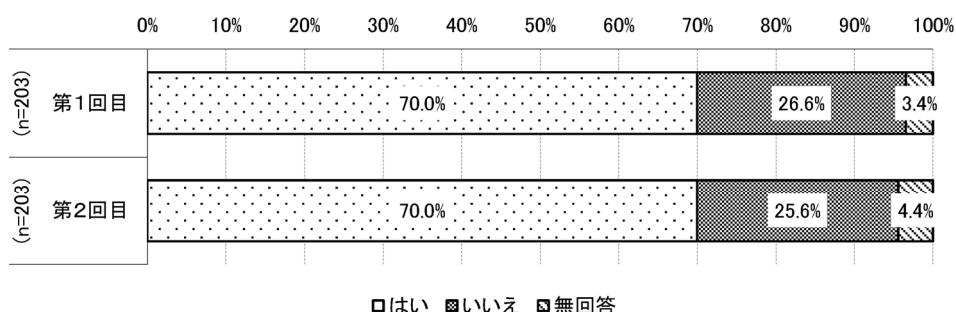
## 何よりもまず、もの忘れが気になりますか？（調査回数別）



## (57) いま生きていることが素晴らしいと思いますか？（調査回数）

いま生きていることが素晴らしいと思いますか？をみると、「第1回目」では「はい」が70.0%ともっとも割合が高く、次いで「いいえ」が26.6%である。「第2回目」では「はい」が70.0%ともっとも割合が高く、次いで「いいえ」が25.6%である。

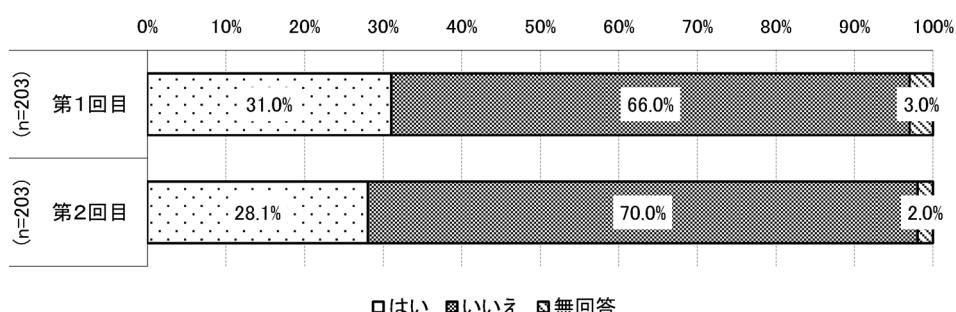
## いま生きていることが素晴らしいと思いますか？（調査回数別）



## (58) 生きていても仕方がないと思う気持ちになることがありますか？（調査回数）

生きていても仕方がないと思う気持ちになることがありますか？をみると、「第1回目」では「いいえ」が66.0%ともっとも割合が高く、次いで「はい」が31.0%である。「第2回目」では「いいえ」が70.0%ともっとも割合が高く、次いで「はい」が28.1%である。

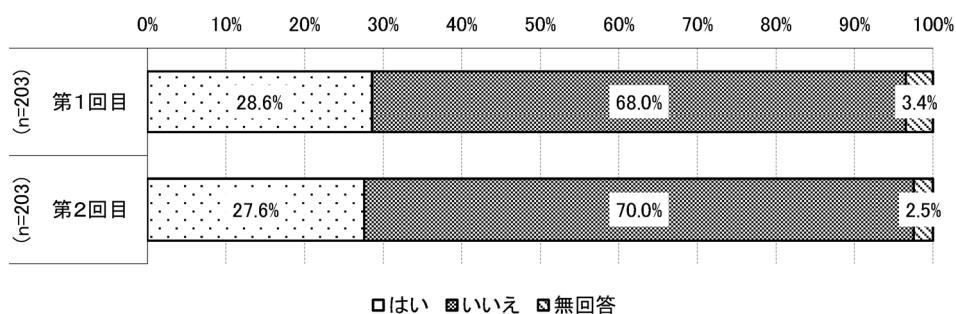
## 生きていても仕方がないと思う気持ちになることがありますか？（調査回数別）



#### (59) 自分が活気にあふれていると思いますか？（調査回数）

自分が活気にあふれていると思いますか？をみると、「第1回目」では「いいえ」が68.0%ともっとも割合が高く、次いで「はい」が28.6%である。「第2回目」では「いいえ」が70.0%ともっとも割合が高く、次いで「はい」が27.6%である。

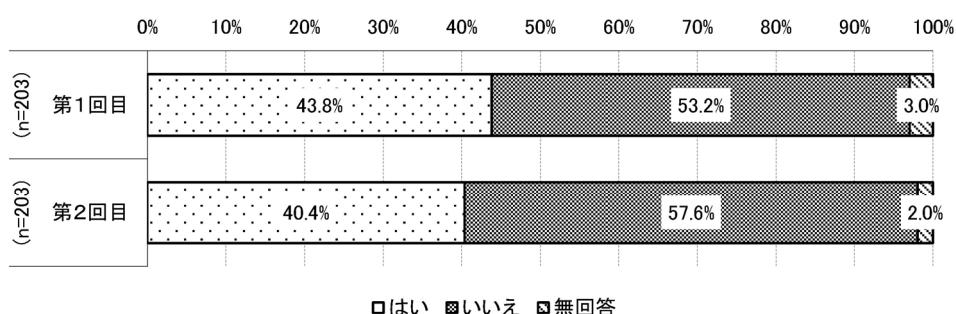
自分が活気にあふれていると思いますか？（調査回数別）



#### (60) 希望がないと思うことがありますか？（調査回数）

希望がないと思うことがありますか？をみると、「第1回目」では「いいえ」が53.2%ともっとも割合が高く、次いで「はい」が43.8%である。「第2回目」では「いいえ」が57.6%ともっとも割合が高く、次いで「はい」が40.4%である。

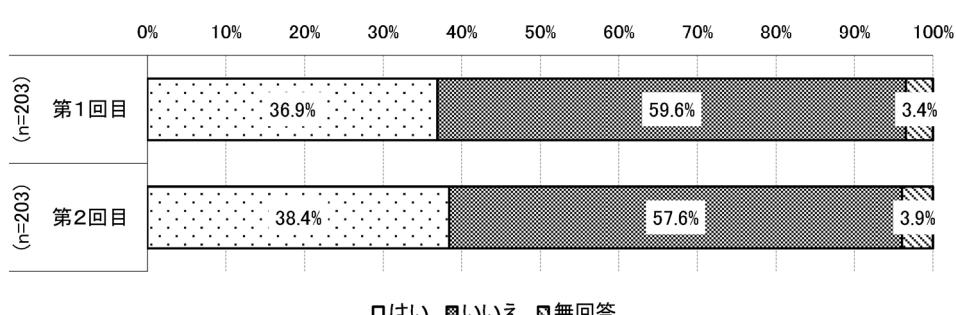
希望がないと思うことがありますか？（調査回数別）



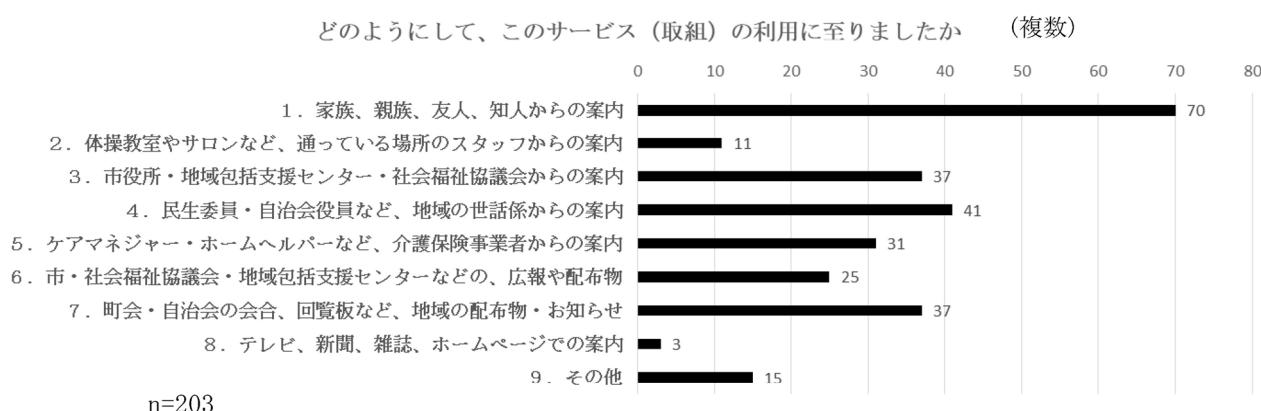
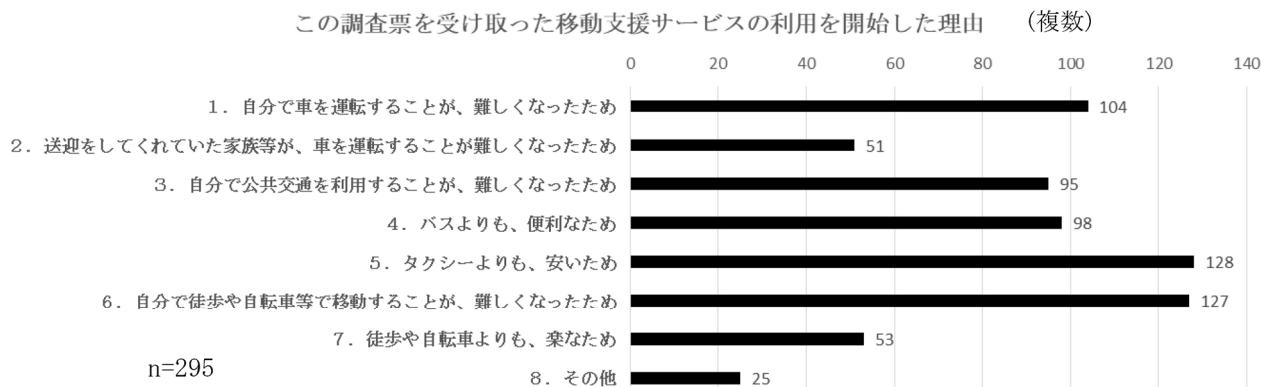
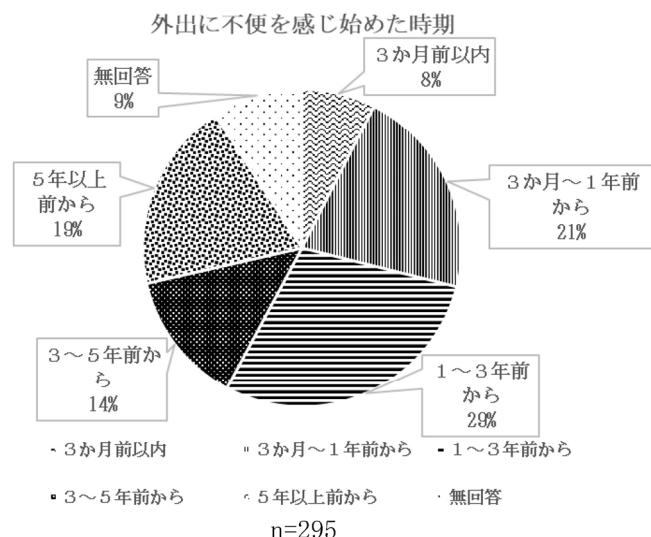
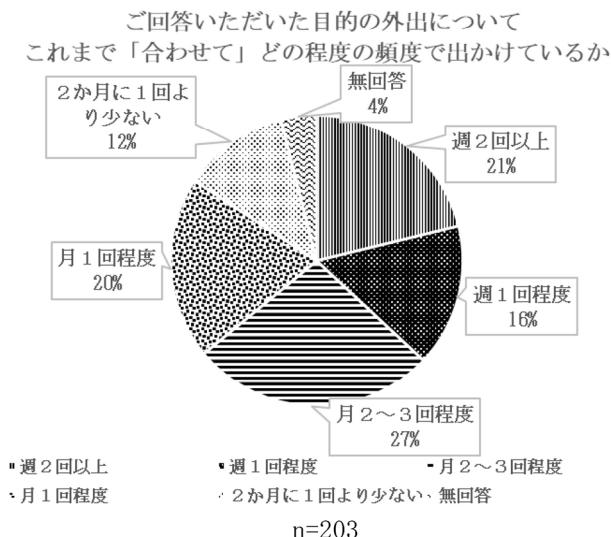
#### (61) 周りの人があなたより幸せそうに見えますか？（調査回数）

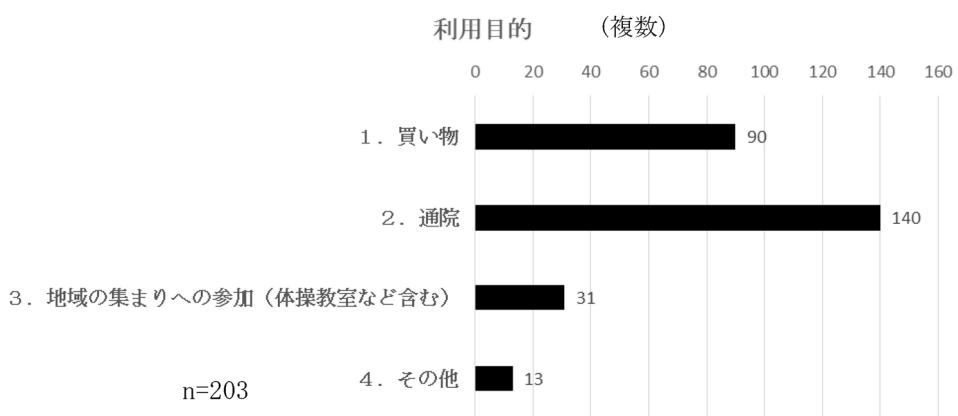
周りの人があなたより幸せそうに見えますか？をみると、「第1回目」では「いいえ」が59.6%ともっとも割合が高く、次いで「はい」が36.9%である。「第2回目」では「いいえ」が57.6%ともっとも割合が高く、次いで「はい」が38.4%である。

周りの人があなたより幸せそうに見えますか？（調査回数別）

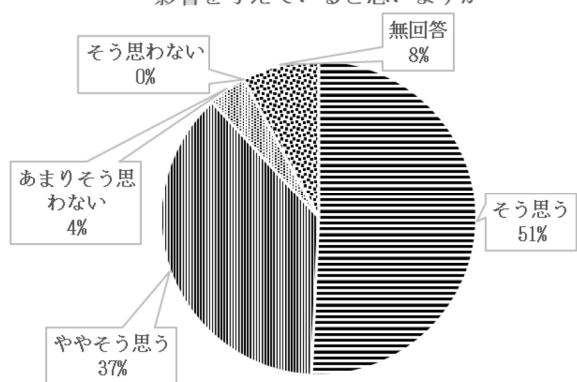


## 1回目もしくは2回目ののみの設問【利用者】





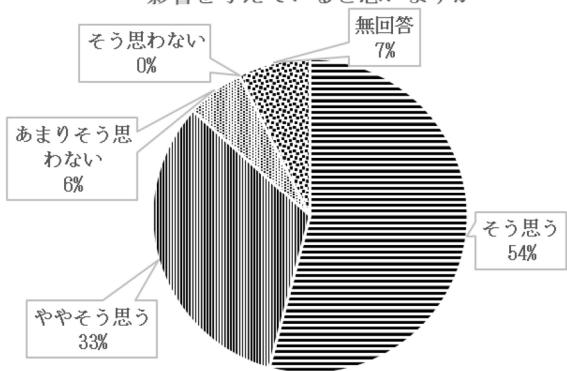
移動支援サービスの利用は、あなたの幸福感に良い影響を与えていていると思いますか



= そう思う ■ ややそう思う □ あまりそう思わない △ そう思わない ▲ 無回答

n=203

移動支援サービスの利用は、あなたの健康に良い影響を与えていていると思いますか



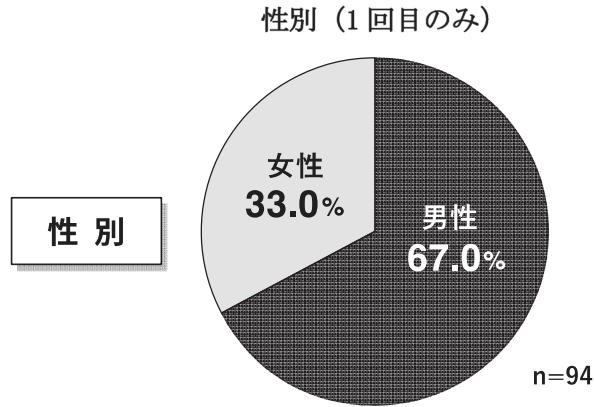
= そう思う ■ ややそう思う □ あまりそう思わない △ そう思わない ▲ 無回答

n=203

## 2 単純集計（担い手アンケート）

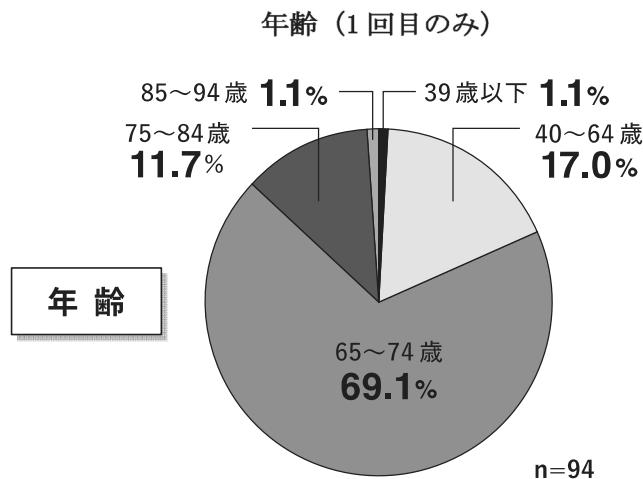
### （1）性別

性別をみると、「男性」が 67.0%ともっとも割合が高く、次いで「女性」が 33.0%である。



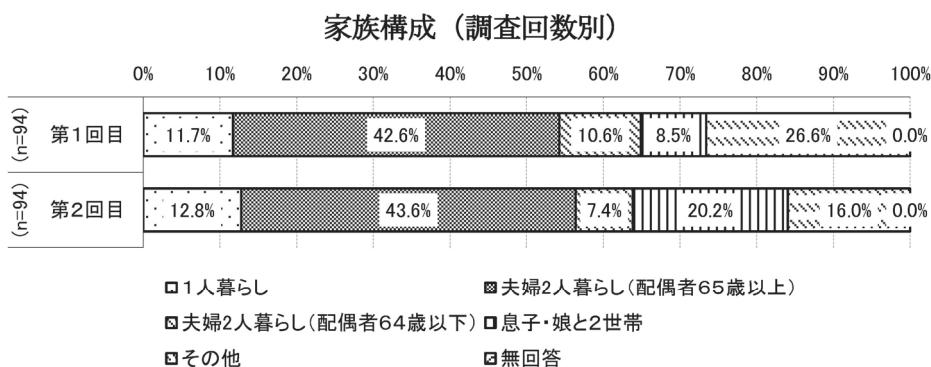
### （2）年齢

年齢をみると、「65～74歳」が 69.1%ともっとも割合が高く、次いで「40～64歳」が 17.0%である。



### （3）家族構成（調査回数）

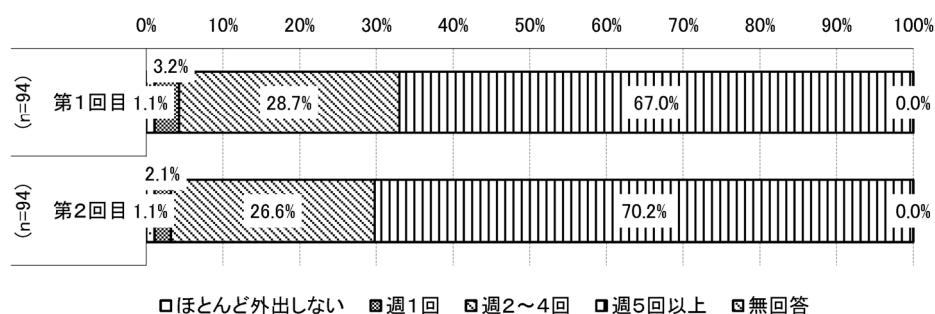
家族構成をみると、「第1回目」では「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が 42.6%ともっとも割合が高く、次いで「その他」が 26.6%である。「第2回目」では「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が 43.6%ともっとも割合が高く、次いで「息子・娘と2世帯」が 20.2%である。



#### (4) 外出頻度（調査回数）

外出頻度をみると、「第1回目」では「週5回以上」が67.0%ともっとも割合が高く、次いで「週2～4回」が28.7%である。「第2回目」では「週5回以上」が70.2%ともっとも割合が高く、次いで「週2～4回」が26.6%である。

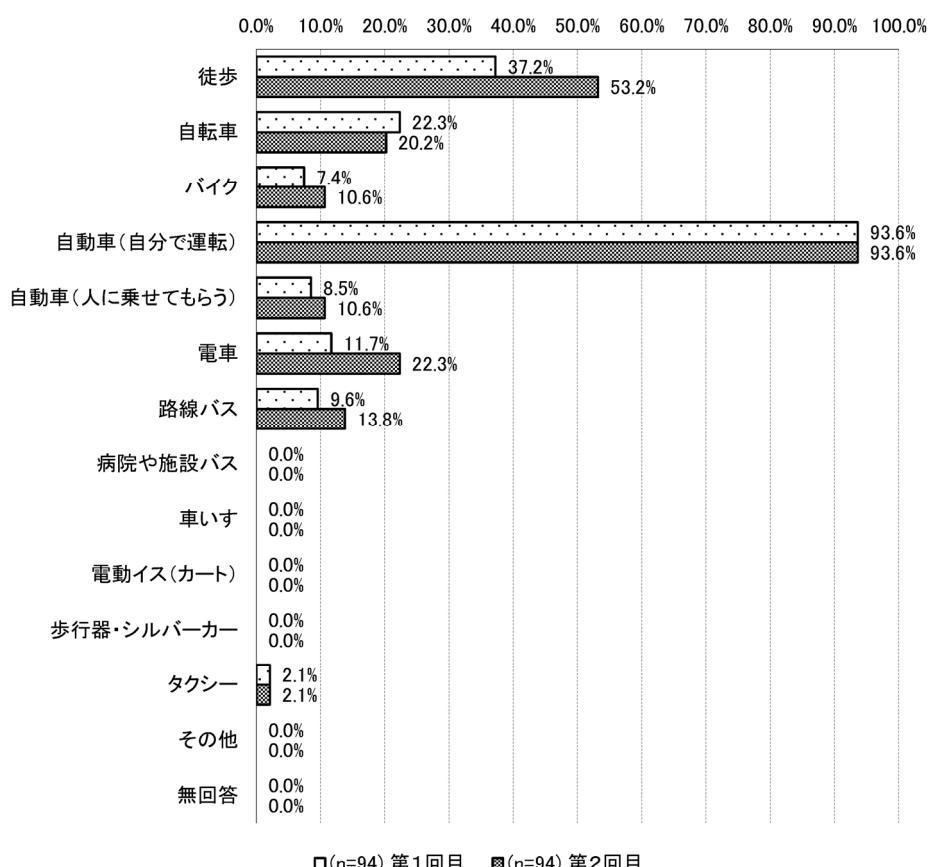
外出頻度（調査回数別）



#### (5) 外出するときの移動手段（調査回数）

外出するときの移動手段をみると、「第1回目」では「自動車（自分で運転）」が93.6%ともっとも割合が高く、次いで「徒歩」が37.2%である。「第2回目」では「自動車（自分で運転）」が93.6%ともっとも割合が高く、次いで「徒歩」が53.2%である。

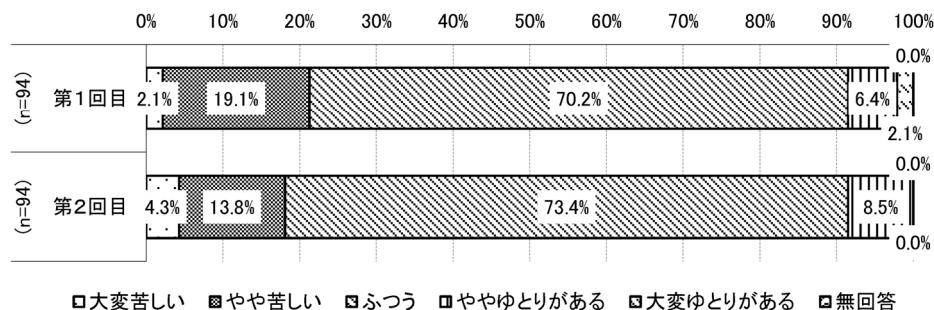
外出するときの移動手段（調査回数別）



## (6) 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じるか。(調査回数)

現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じるか。をみると、「第1回目」では「ふつう」が70.2%ともっとも割合が高く、次いで「やや苦しい」が19.1%である。「第2回目」では「ふつう」が73.4%ともっとも割合が高く、次いで「やや苦しい」が13.8%である。

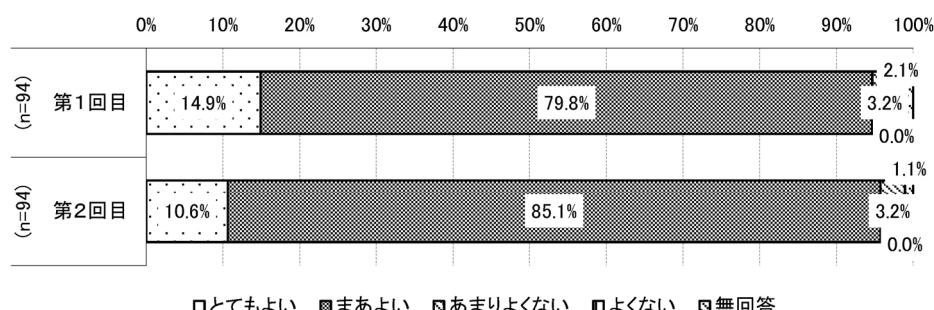
現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じるか。(調査回数別)



## (7) 現在の健康状態 (調査回数)

現在の健康状態をみると、「第1回目」では「まあよい」が79.8%ともっとも割合が高く、次いで「とてもよい」が14.9%である。「第2回目」では「まあよい」が85.1%ともっとも割合が高く、次いで「とてもよい」が10.6%である。

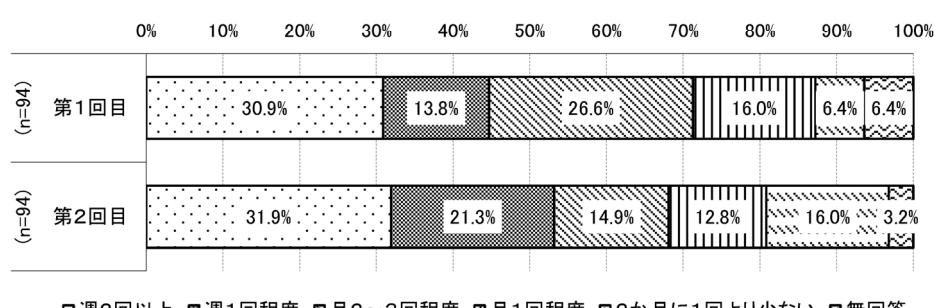
現在の健康状態 (調査回数別)



## (8) 運転者としての参加頻度 (調査回数)

運転者としての参加頻度をみると、「第1回目」では「週2回以上」が30.9%ともっとも割合が高く、次いで「月2~3回程度」が26.6%である。「第2回目」では「週2回以上」が31.9%ともっとも割合が高く、次いで「週1回程度」が21.3%である。

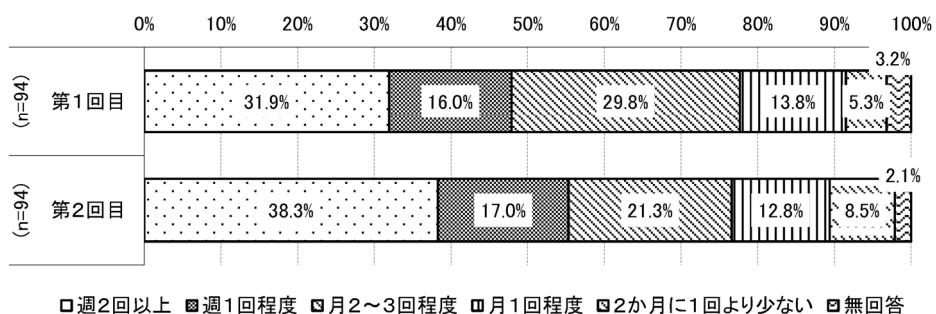
運転者としての参加頻度 (調査回数別)



(9) 運転者以外の役割を含む、当該団体等の活動への参加頻度（調査回数）

運転者以外の役割を含む、当該団体等の活動への参加頻度をみると、「第1回目」では「週2回以上」が31.9%ともっとも割合が高く、次いで「月2～3回程度」が29.8%である。「第2回目」では「週2回以上」が38.3%ともっとも割合が高く、次いで「月2～3回程度」が21.3%である。

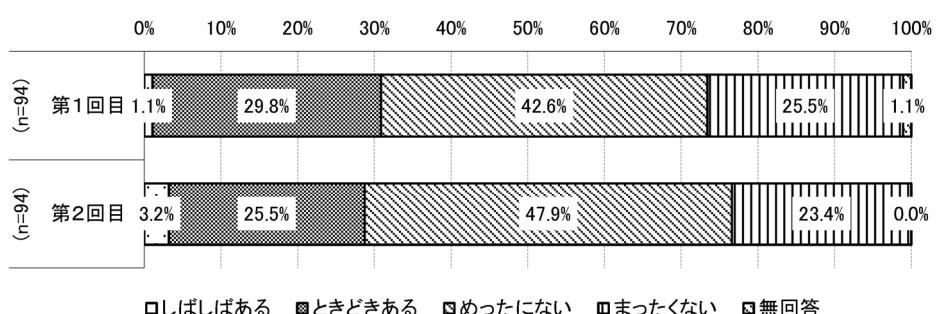
運転者以外の役割を含む、当該団体等の活動への参加頻度（調査回数別）



(10) 年齢のせいで、自分のやりたいことをすることは不可能である。（調査回数）

年齢のせいで、自分のやりたいことをすることは不可能である。みると、「第1回目」では「めったにない」が42.6%ともっとも割合が高く、次いで「ときどきある」が29.8%である。「第2回目」では「めったにない」が47.9%ともっとも割合が高く、次いで「ときどきある」が25.5%である。

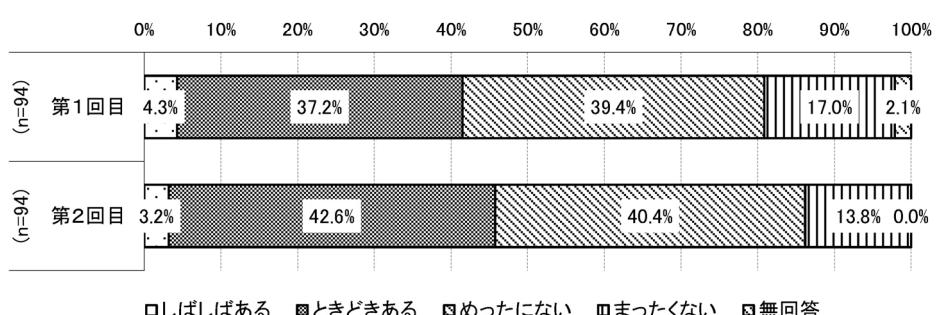
年齢のせいで、自分のやりたいことをすることは不可能である。（調査回数別）



(11) 今自分に起こっている事は自分の力の及ばないことだと思う。（調査回数）

今自分に起こっている事は自分の力の及ばないことだと思う。みると、「第1回目」では「めったにない」が39.4%ともっとも割合が高く、次いで「ときどきある」が37.2%である。「第2回目」では「ときどきある」が42.6%ともっとも割合が高く、次いで「めったにない」が40.4%である。

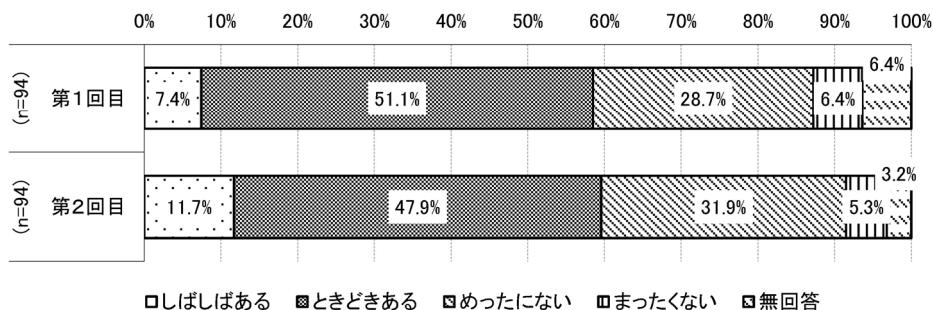
今自分に起こっている事は自分の力の及ばないことだと思う。（調査回数別）



## (12) 自分の思うとおりに将来を計画できると思う。(調査回数)

自分の思うとおりに将来を計画できると思う。をみると、「第1回目」では「ときどきある」が51.1%ともっとも割合が高く、次いで「めったにない」が28.7%である。「第2回目」では「ときどきある」が47.9%ともっとも割合が高く、次いで「めったにない」が31.9%である。

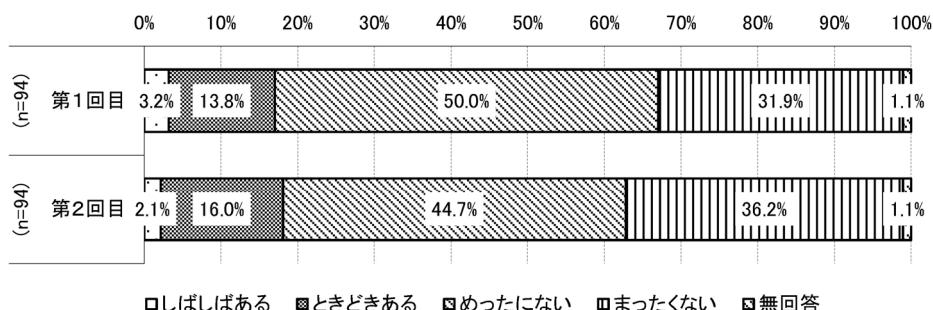
## 自分の思うとおりに将来を計画できると思う。(調査回数別)



## (13) 色々なことから疎外されているような気がする。(調査回数)

色々なことから疎外されているような気がする。をみると、「第1回目」では「めったにない」が50.0%ともっとも割合が高く、次いで「まったくない」が31.9%である。「第2回目」では「めったにない」が44.7%ともっとも割合が高く、次いで「まったくない」が36.2%である。

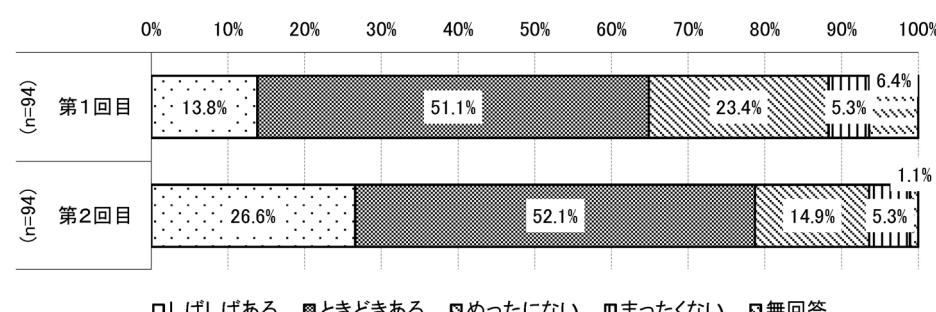
## 色々なことから疎外されているような気がする。(調査回数別)



## (14) やりたいことは何でもできる。(調査回数)

やりたいことは何でもできる。をみると、「第1回目」では「ときどきある」が51.1%ともっとも割合が高く、次いで「めったにない」が23.4%である。「第2回目」では「ときどきある」が52.1%ともっとも割合が高く、次いで「しばしばある」が26.6%である。

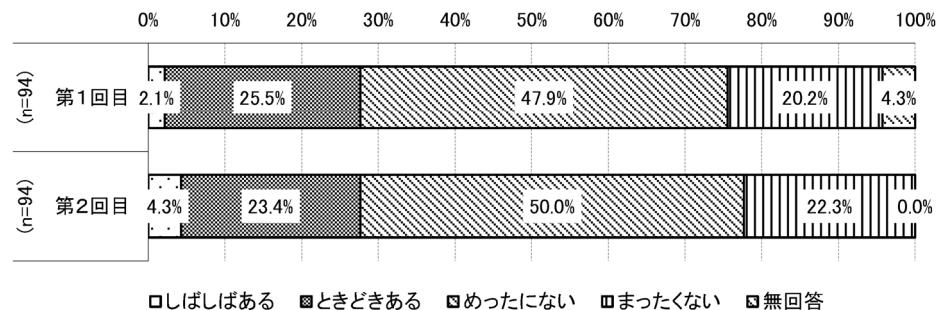
## やりたいことは何でもできる。(調査回数別)



(15) 家族に対しての責任のため、やりたいと思うことはすることは不可能である。(調査回数)

家族に対しての責任のため、やりたいと思うことはすることは不可能である。をみると、「第1回目」では「めったにない」が47.9%ともっとも割合が高く、次いで「ときどきある」が25.5%である。「第2回目」では「めったにない」が50.0%ともっとも割合が高く、次いで「ときどきある」が23.4%である。

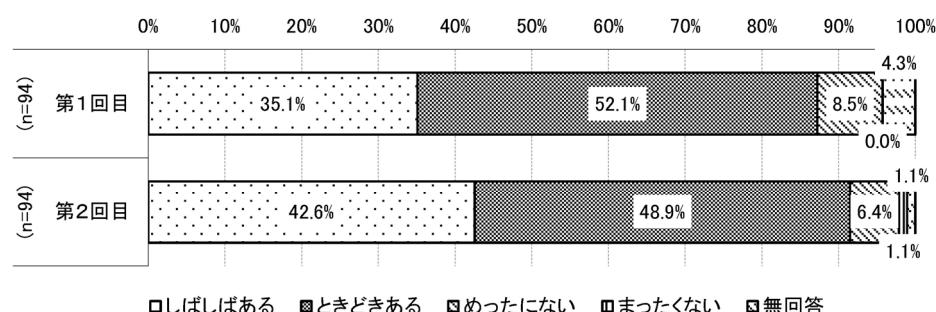
**家族に対しての責任のため、やりたいと思うことはすることは不可能である。(調査回数別)**



(16) 自分のやっていることから満足感を得られていると思う。(調査回数)

自分のやっていることから満足感を得られていると思う。をみると、「第1回目」では「ときどきある」が52.1%ともっとも割合が高く、次いで「しばしばある」が35.1%である。「第2回目」では「ときどきある」が48.9%ともっとも割合が高く、次いで「しばしばある」が42.6%である。

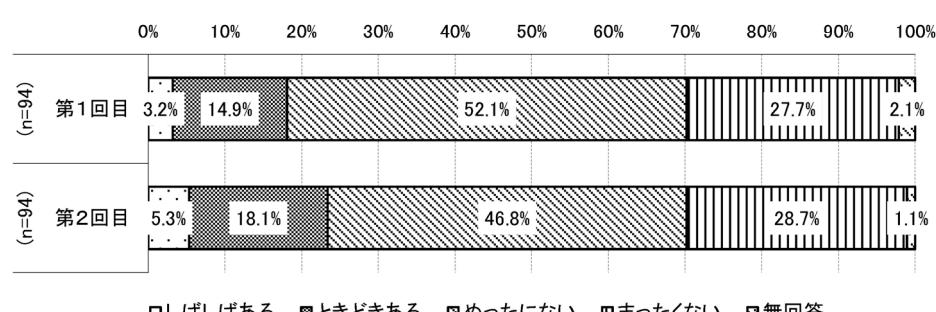
**自分のやっていることから満足感を得られていると思う。(調査回数別)**



(17) 自分の健康状態のため、自分のやりたいことをすることは不可能である。(調査回数)

自分の健康状態のため、自分のやりたいことをすることは不可能である。をみると、「第1回目」では「めったにない」が52.1%ともっとも割合が高く、次いで「まったくない」が27.7%である。「第2回目」では「めったにない」が46.8%ともっとも割合が高く、次いで「まったくない」が28.7%である。

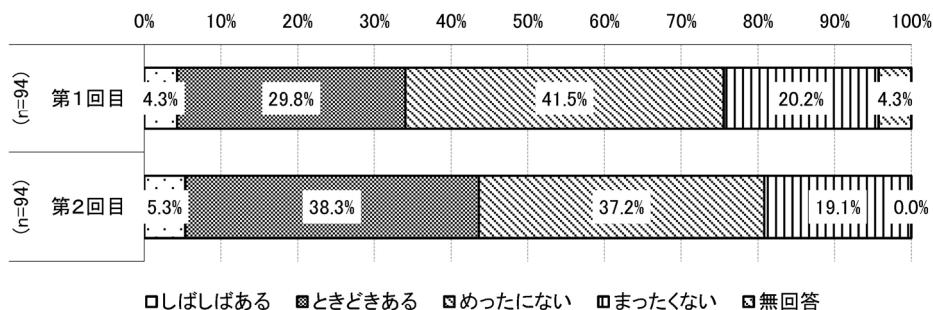
**自分の健康状態のため、自分のやりたいことをすることは不可能である。(調査回数別)**



## (18) 金銭的な事情のため、自分のしたいことをすることは不可能である。(調査回数)

金銭的な事情のため、自分のしたいことをすることは不可能である。をみると、「第1回目」では「めったにない」が41.5%ともっとも割合が高く、次いで「ときどきある」が29.8%である。「第2回目」では「ときどきある」が38.3%ともっとも割合が高く、次いで「めったにない」が37.2%である。

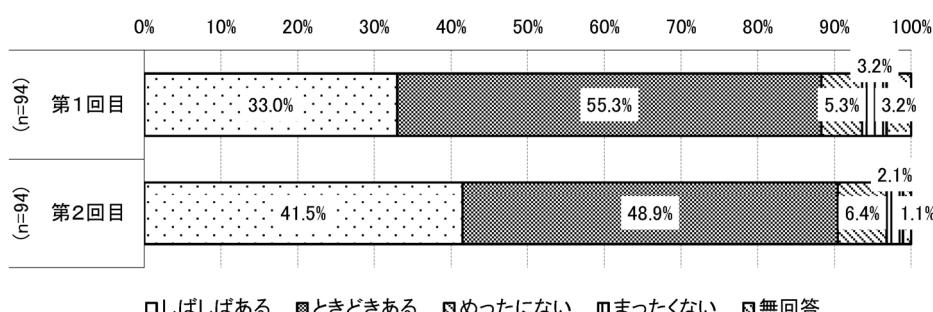
## 金銭的な事情のため、自分のしたいことをすることは不可能である。(調査回数別)



## (19) 毎日が楽しみである。(調査回数)

毎日が楽しみである。をみると、「第1回目」では「ときどきある」が55.3%ともっとも割合が高く、次いで「しばしばある」が33.0%である。「第2回目」では「ときどきある」が48.9%ともっとも割合が高く、次いで「しばしばある」が41.5%である。

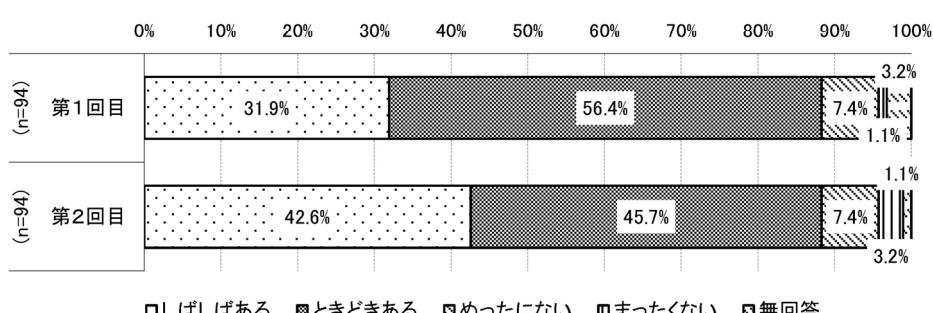
## 毎日が楽しみである。(調査回数別)



## (20) 自分の人生に対して生きがいを感じる。(調査回数)

自分の人生に対して生きがいを感じる。をみると、「第1回目」では「ときどきある」が56.4%ともっとも割合が高く、次いで「しばしばある」が31.9%である。「第2回目」では「ときどきある」が45.7%ともっとも割合が高く、次いで「しばしばある」が42.6%である。

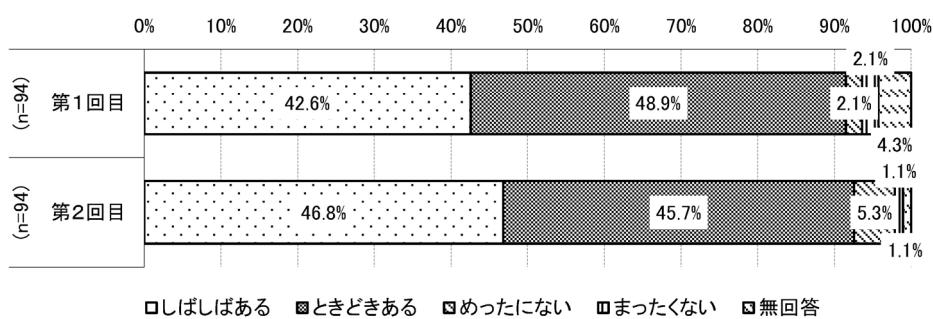
## 自分の人生に対して生きがいを感じる。(調査回数別)



### (2 1) 自分がしていることを楽しんでいる。(調査回数)

自分がしていることを楽しんでいる。をみると、「第1回目」では「ときどきある」が48.9%ともっとも割合が高く、次いで「しばしばある」が42.6%である。「第2回目」では「しばしばある」が46.8%ともっとも割合が高く、次いで「ときどきある」が45.7%である。

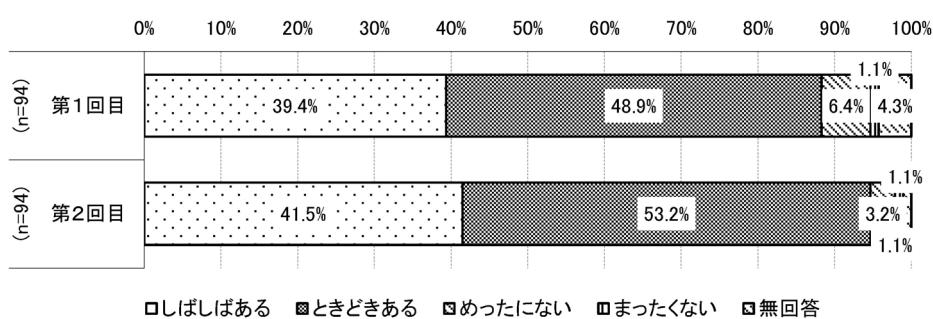
自分がしていることを楽しんでいる。(調査回数別)



### (2 2) 周囲の人たちとの親交を楽しんでいる。(調査回数)

周囲の人たちとの親交を楽しんでいる。をみると、「第1回目」では「ときどきある」が48.9%ともっとも割合が高く、次いで「しばしばある」が39.4%である。「第2回目」では「ときどきある」が53.2%ともっとも割合が高く、次いで「しばしばある」が41.5%である。

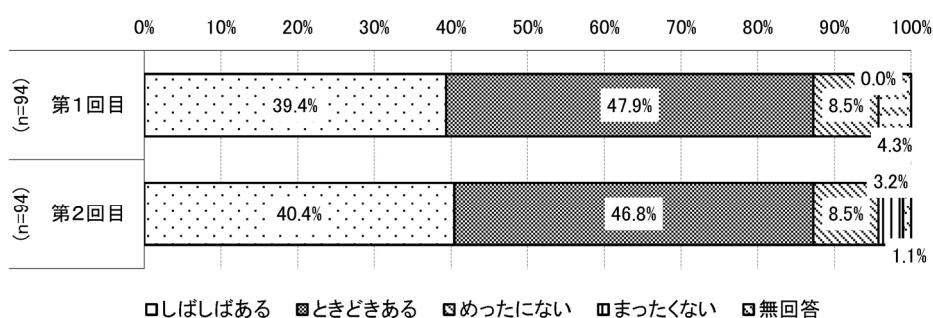
周囲の人たちとの親交を楽しんでいる。(調査回数別)



### (2 3) 自分の歩んできた人生を振り返ってみてどちらかというと幸せな人生だと思う。(調査回数)

自分の歩んできた人生を振り返ってみてどちらかというと幸せな人生だと思う。をみると、「第1回目」では「ときどきある」が47.9%ともっとも割合が高く、次いで「しばしばある」が39.4%である。「第2回目」では「ときどきある」が46.8%ともっとも割合が高く、次いで「しばしばある」が40.4%である。

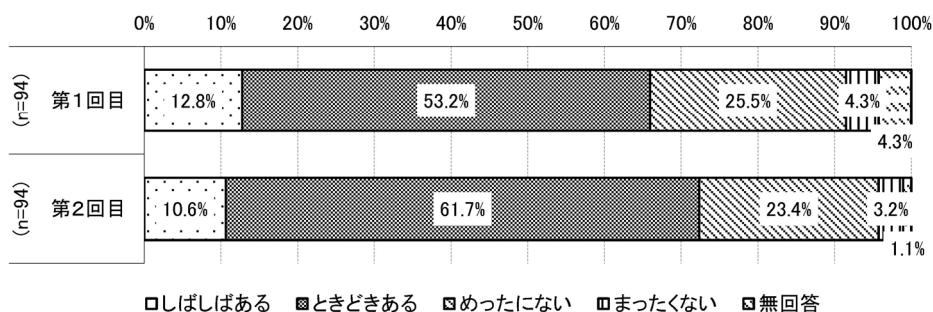
自分の歩んできた人生を振り返ってみてどちらかというと幸せな人生だと思う。(調査回数別)



## (24) 最近エネルギー満々である。(調査回数)

最近エネルギー満々である。をみると、「第1回目」では「ときどきある」が53.2%ともっとも割合が高く、次いで「めったにない」が25.5%である。「第2回目」では「ときどきある」が61.7%ともっとも割合が高く、次いで「めったにない」が23.4%である。

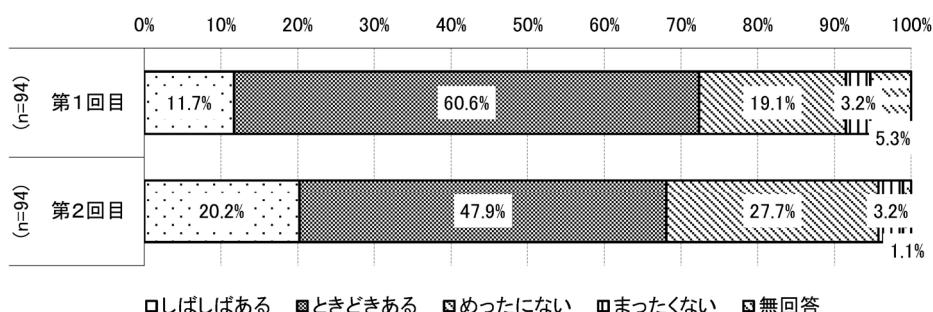
最近エネルギー満々である。(調査回数別)



## (25) 今までやつていなかったことを進んでやつっている。(調査回数)

今までやつていなかったことを進んでやつている。をみると、「第1回目」では「ときどきある」が60.6%ともっとも割合が高く、次いで「めったにない」が19.1%である。「第2回目」では「ときどきある」が47.9%ともっとも割合が高く、次いで「めったにない」が27.7%である。

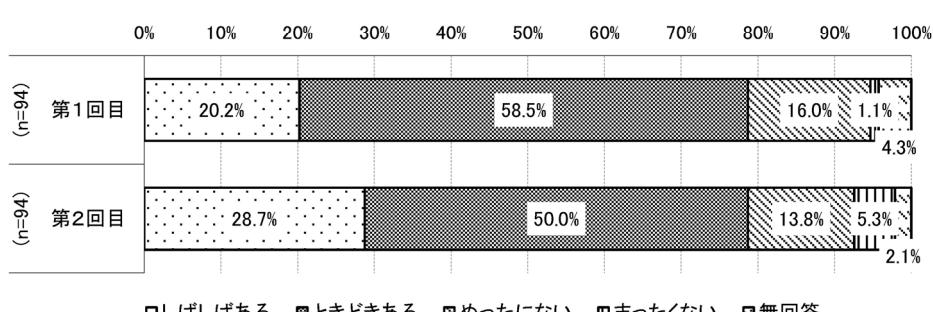
今までやつていなかったことを進んでやつっている。(調査回数別)



## (26) 自分の人生の成り行きに満足している。(調査回数)

自分の人生の成り行きに満足している。をみると、「第1回目」では「ときどきある」が58.5%ともっとも割合が高く、次いで「しぶしぶある」が20.2%である。「第2回目」では「ときどきある」が50.0%ともっとも割合が高く、次いで「しぶしぶある」が28.7%である。

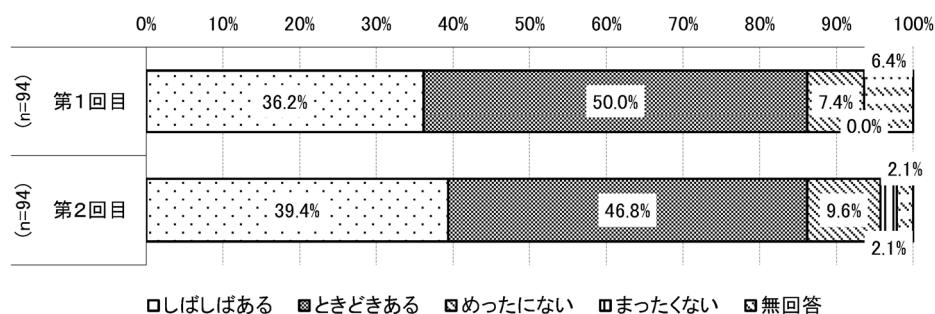
自分の人生の成り行きに満足している。(調査回数別)



### (27) 人生には沢山の機会があると思う。(調査回数)

人生には沢山の機会があると思う。をみると、「第1回目」では「ときどきある」が50.0%ともっとも割合が高く、次いで「しばしばある」が36.2%である。「第2回目」では「ときどきある」が46.8%ともっとも割合が高く、次いで「しばしばある」が39.4%である。

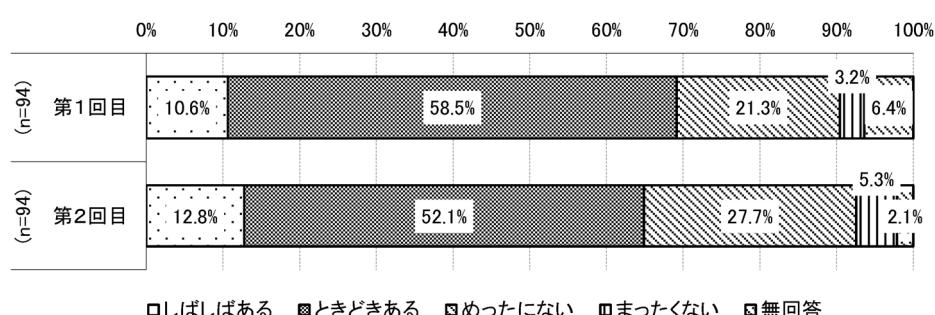
人生には沢山の機会があると思う。(調査回数別)



### (28) 自分の将来の展望は望ましいと思う。(調査回数)

自分の将来の展望は望ましいと思う。をみると、「第1回目」では「ときどきある」が58.5%ともっとも割合が高く、次いで「めったにない」が21.3%である。「第2回目」では「ときどきある」が52.1%ともっとも割合が高く、次いで「めったにない」が27.7%である。

自分の将来の展望は望ましいと思う。(調査回数別)

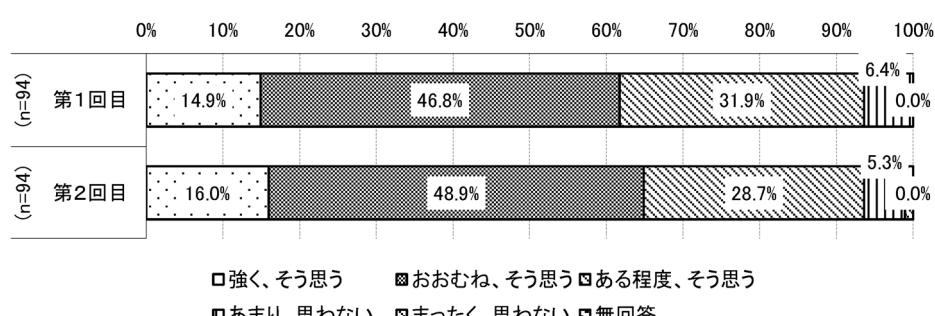


### (29) ご自身の健康や生活にさまざまな問題があつても、自分は活動的な生活を送っていると思いますか？(調査回数)

ご自身の健康や生活にさまざまな問題があつても、自分は活動的な生活を送っていると思いますか？をみると、「第1回目」では「おおむね、そう思う」が46.8%ともっとも割合が高く、次いで「ある程度、そう思う」が31.9%である。「第2回目」では「おおむね、そう思う」が48.9%ともっとも割合が高く、次いで「ある程度、そう思う」が28.7%である。

ご自身の健康や生活にさまざまな問題があつても、自分は活動的な生活を送っていると思いますか？

(調査回数別)

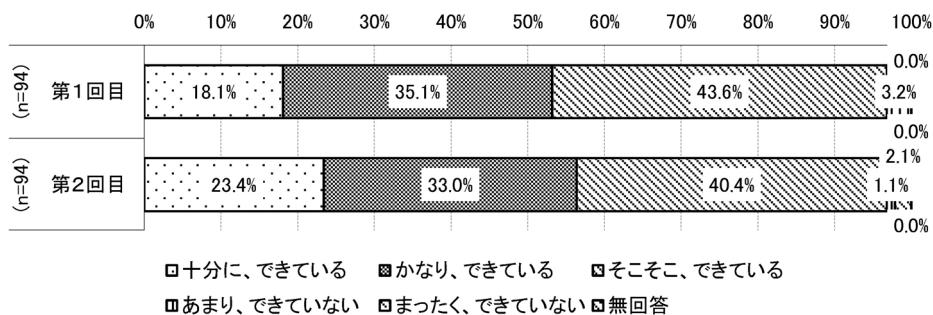


(30) ご自身がより活動的な生活を送るための意思決定は、自分でどれだけできていると思いますか？（調査回数）

ご自身がより活動的な生活を送るための意思決定は、自分でどれだけできていると思いますか？をみると、「第1回目」では「そこそこ、できている」が43.6%ともっとも割合が高く、次いで「かなり、できている」が35.1%である。「第2回目」では「そこそこ、できている」が40.4%ともっとも割合が高く、次いで「かなり、できている」が33.0%である。

ご自身がより活動的な生活を送るための意思決定は、自分でどれだけできていると思いますか？

（調査回数別）

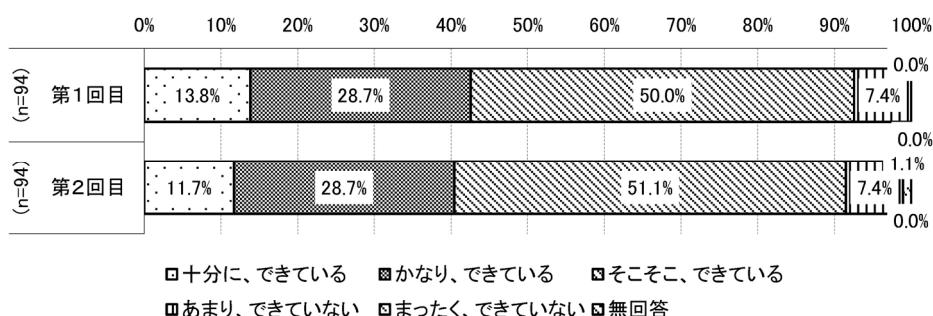


(31) ご自身がより活動的な生活を送るための意思決定は、自分でどれだけできていると思いますか？（調査回数）

ご自身がより活動的な生活を送るための意思決定は、自分でどれだけできていると思いますか？をみると、「第1回目」では「そこそこ、できている」が50.0%ともっとも割合が高く、次いで「かなり、できている」が28.7%である。「第2回目」では「そこそこ、できている」が51.1%ともっとも割合が高く、次いで「かなり、できている」が28.7%である。

ご自身がより活動的な生活を送るための意思決定は、自分でどれだけできていると思いますか？

（調査回数別）

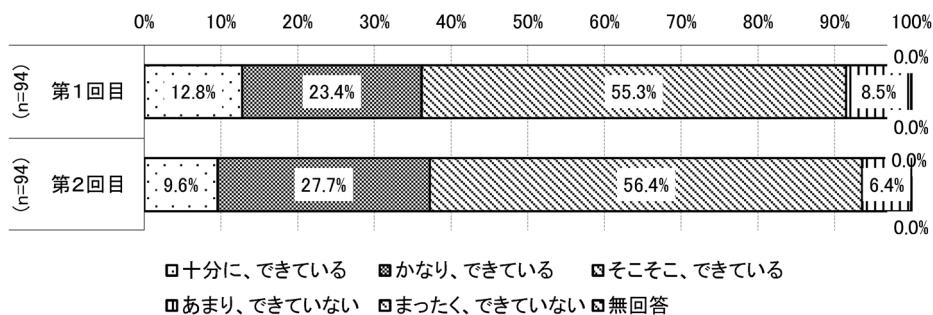


(32) ご自身がより活動的な生活を送るための意思決定は、自分でどれだけできていると思いますか？（調査回数）

ご自身がより活動的な生活を送るための意思決定は、自分でどれだけできていると思いますか？をみると、「第1回目」では「そこそこ、できている」が55.3%ともっとも割合が高く、次いで「かなり、できている」が23.4%である。「第2回目」では「そこそこ、できている」が56.4%ともっとも割合が高く、次いで「かなり、できている」が27.7%である。

ご自身がより活動的な生活を送るための意思決定は、自分でどれだけできていると思いますか？

（調査回数別）

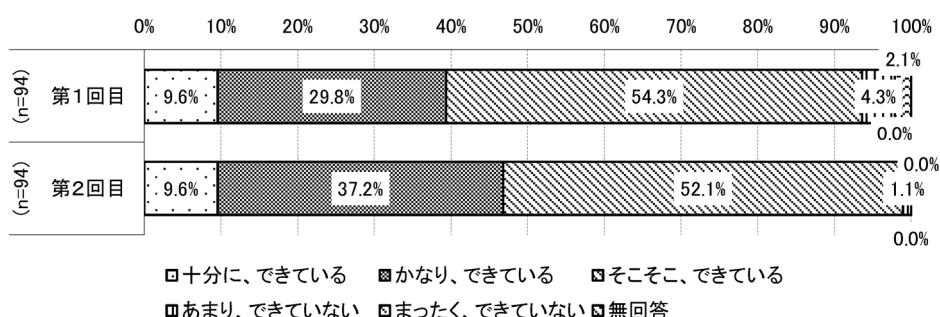


(33) ご自身がより活動的な生活を送るための意思決定は、自分でどれだけできていると思いますか？（調査回数）

ご自身がより活動的な生活を送るための意思決定は、自分でどれだけできているだと思いますか？をみると、「第1回目」では「そこそこ、できている」が54.3%ともっとも割合が高く、次いで「かなり、できている」が29.8%である。「第2回目」では「そこそこ、できている」が52.1%ともっとも割合が高く、次いで「かなり、できている」が37.2%である。

ご自身がより活動的な生活を送るための意思決定は、自分でどれだけできていると思いますか？

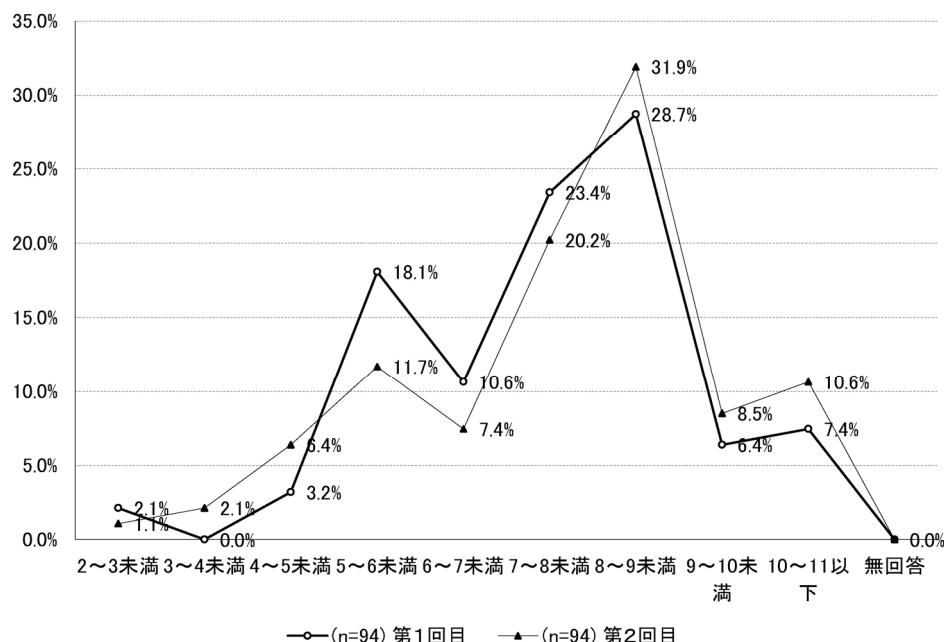
（調査回数別）



## (3 4) あなたは、現在どの程度幸せですか？（調査回数）

あなたは、現在どの程度幸せですか？をみると、2回とも8～9が最も多く、次いで、5～6が多い。

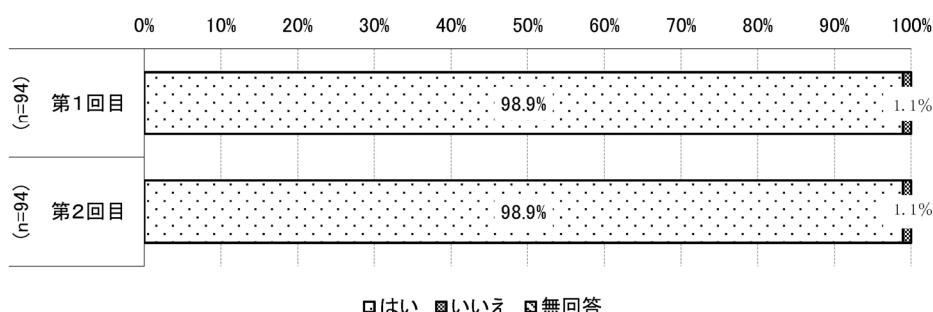
## あなたは、現在どの程度幸せですか？（調査回数別）



## (3 5) バスや電車を使って1人で外出できますか？（調査回数）

バスや電車を使って1人で外出できますか？をみると、「第1回目」では「はい」が98.9%ともっとも割合が高く、次いで「いいえ」が1.1%である。「第2回目」では「はい」が98.9%ともっとも割合が高く、次いで「いいえ」が1.1%である。

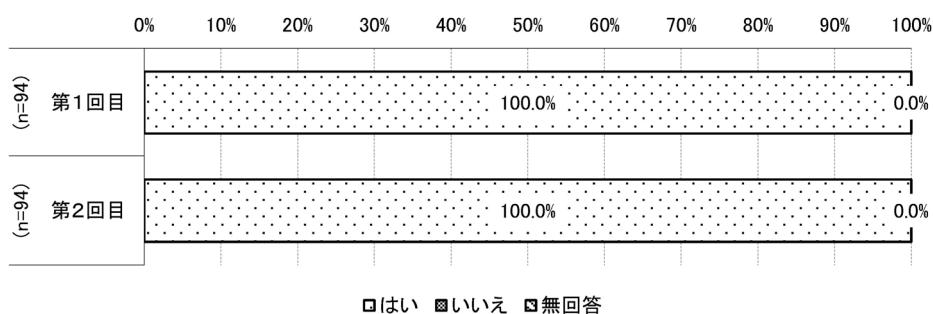
## バスや電車を使って1人で外出できますか？（調査回数別）



(36) 日用品の買い物ができますか？（調査回数）

日用品の買い物ができますか？をみると、2回とも「はい」が100.0%である。

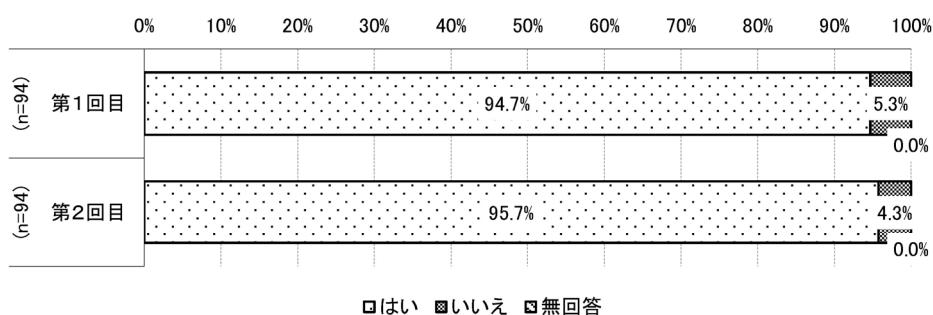
日用品の買い物ができますか？（調査回数別）



(37) 自分で食事の用意ができますか？（調査回数）

自分で食事の用意ができますか？をみると、「第1回目」では「はい」が94.7%ともっとも割合が高く、次いで「いいえ」が5.3%である。「第2回目」では「はい」が95.7%ともっとも割合が高く、次いで「いいえ」が4.3%である。

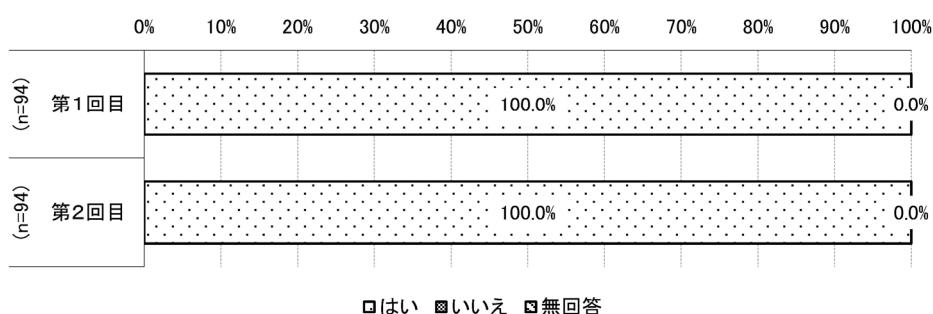
自分で食事の用意ができますか？（調査回数別）



(38) 請求書の支払いができますか？（調査回数）

請求書の支払いができますか？をみると、2回とも「はい」が100.0%である。

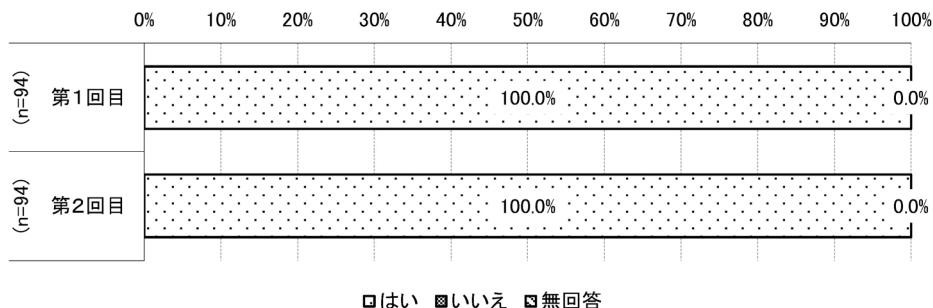
請求書の支払いができますか？（調査回数別）



(39) 銀行預金・郵便貯金の出し入れが自分でできますか？（調査回数）

銀行預金・郵便貯金の出し入れが自分でできますか？をみると、2回とも「はい」が100.0%である。

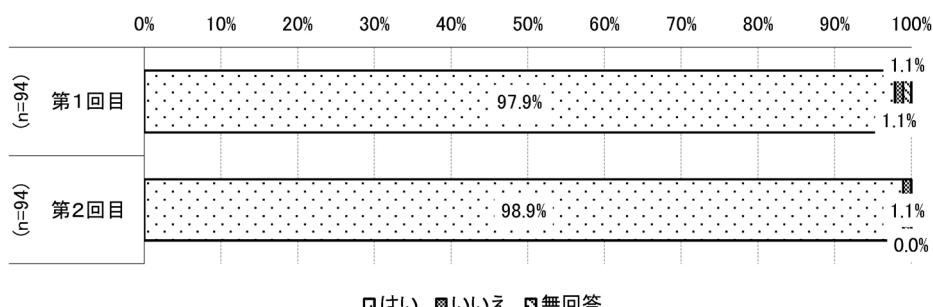
#### 銀行預金・郵便貯金の出し入れが自分でできますか？（調査回数別）



(40) 年金などの書類が書けますか？（調査回数）

年金などの書類が書けますか？をみると、「第1回目」では「はい」が97.9%ともっとも割合が高く、次いで「いいえ」が1.1%である。「第2回目」では「はい」が98.9%ともっとも割合が高く、次いで「いいえ」が1.1%である。

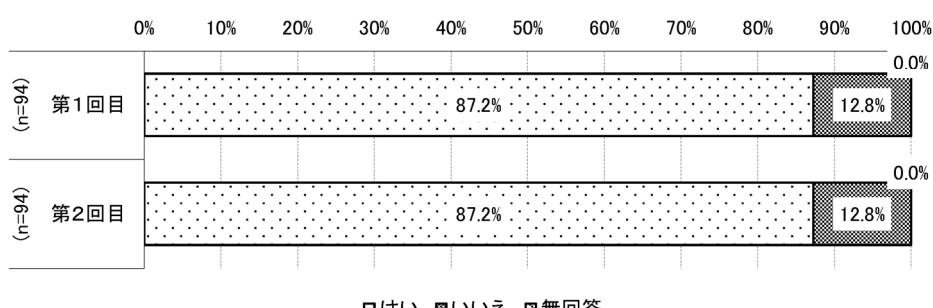
#### 年金などの書類が書けますか？（調査回数別）



(41) 新聞を読んでいますか？（調査回数）

新聞を読んでいますか？をみると、「第1回目」では「はい」が87.2%ともっとも割合が高く、次いで「いいえ」が12.8%である。「第2回目」も「はい」が87.2%ともっとも割合が高く、次いで「いいえ」が12.8%である。

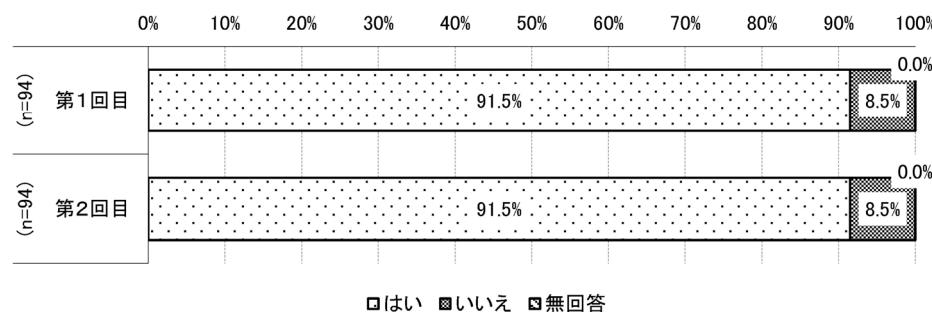
#### 新聞を読んでいますか？（調査回数別）



#### (4 2) 本や雑誌を読んでいますか？（調査回数）

本や雑誌を読んでいますか？をみると、「第1回目」では「はい」が91.5%ともっとも割合が高く、次いで「いいえ」が8.5%である。「第2回目」も「はい」が91.5%ともっとも割合が高く、次いで「いいえ」が8.5%である。

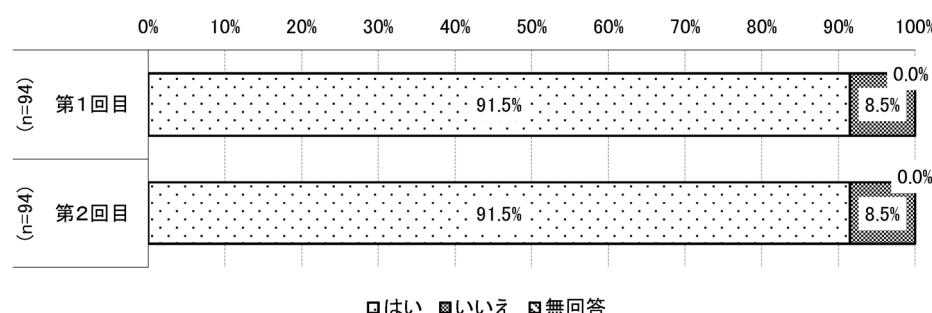
本や雑誌を読んでいますか？（調査回数別）



#### (4 3) 健康についての記事や番組に興味がありますか？（調査回数）

健康についての記事や番組に興味がありますか？をみると、「第1回目」では「はい」が91.5%ともっとも割合が高く、次いで「いいえ」が8.5%である。「第2回目」も「はい」が91.5%ともっとも割合が高く、次いで「いいえ」が8.5%である。

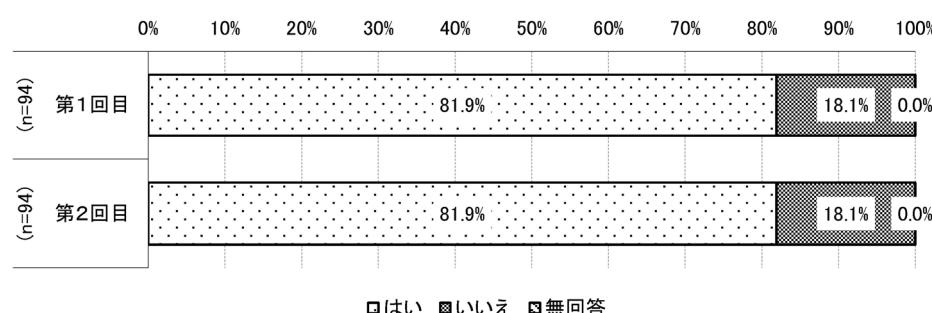
健康についての記事や番組に興味がありますか？（調査回数別）



#### (4 4) 友だちの家を訪ねることがありますか？（調査回数）

友だちの家を訪ねることがありますか？をみると、「第1回目」では「はい」が81.9%ともっとも割合が高く、次いで「いいえ」が18.1%である。「第2回目」も「はい」が81.9%ともっとも割合が高く、次いで「いいえ」が18.1%である。

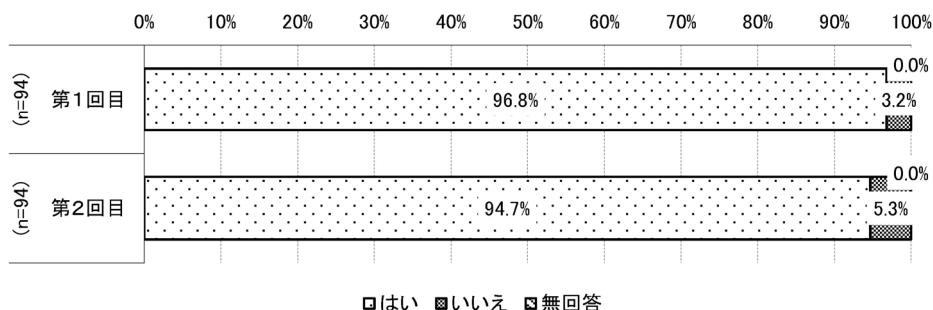
友だちの家を訪ねることがありますか？（調査回数別）



## (45) 家族や友だちの相談にのることがありますか？（調査回数）

家族や友だちの相談にのることがありますか？をみると、「第1回目」では「はい」が96.8%ともっとも割合が高く、次いで「いいえ」が3.2%である。「第2回目」では「はい」が94.7%ともっとも割合が高く、次いで「いいえ」が5.3%である。

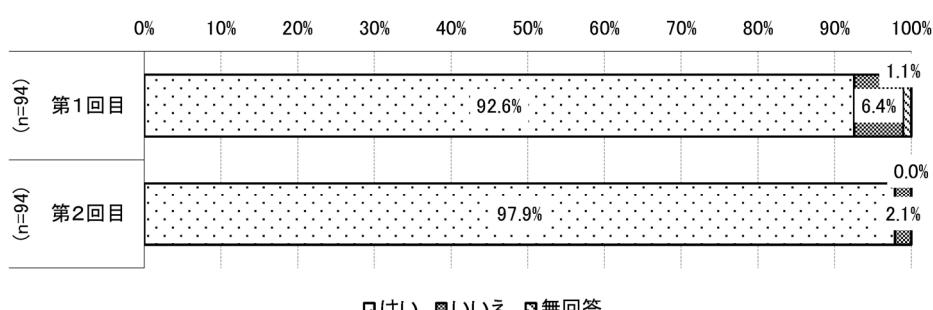
## 家族や友だちの相談にのることがありますか？（調査回数別）



## (46) 病人を見舞うことができますか？（調査回数）

病人を見舞うことができますか？をみると、「第1回目」では「はい」が92.6%ともっとも割合が高く、次いで「いいえ」が6.4%である。「第2回目」では「はい」が97.9%ともっとも割合が高く、次いで「いいえ」が2.1%である。

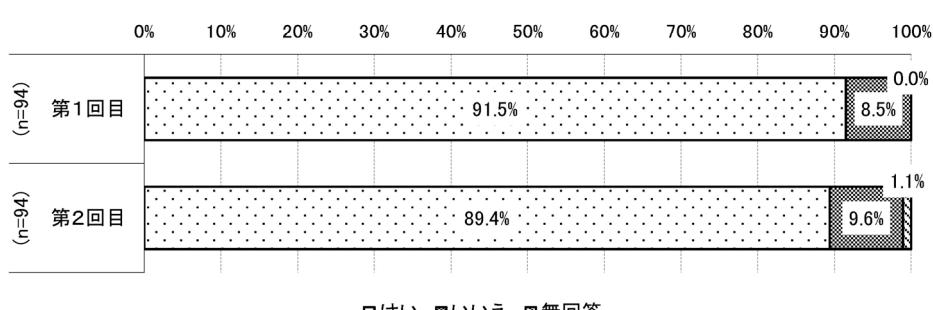
## 病人を見舞うことができますか？（調査回数別）



## (47) 若い人に自分から話かけることがありますか？（調査回数）

若い人に自分から話かけることがありますか？をみると、「第1回目」では「はい」が91.5%ともっとも割合が高く、次いで「いいえ」が8.5%である。「第2回目」では「はい」が89.4%ともっとも割合が高く、次いで「いいえ」が9.6%である。

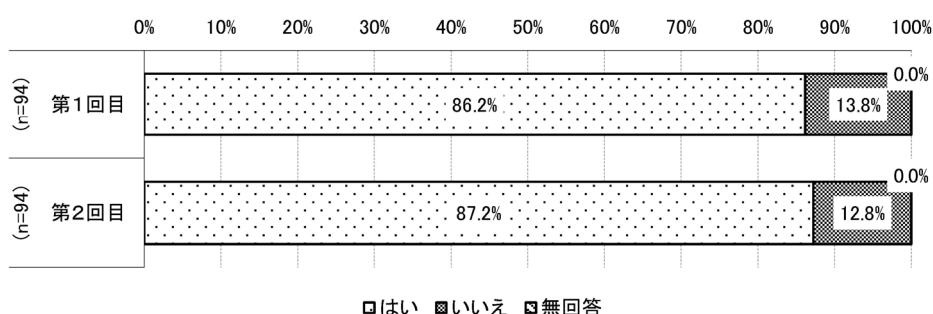
## 若い人に自分から話かけることがありますか？（調査回数別）



(48) 毎日の生活に満足していますか？（調査回数）

毎日の生活に満足していますか？をみると、「第1回目」では「はい」が86.2%ともっとも割合が高く、次いで「いいえ」が13.8%である。「第2回目」では「はい」が87.2%ともっとも割合が高く、次いで「いいえ」が12.8%である。

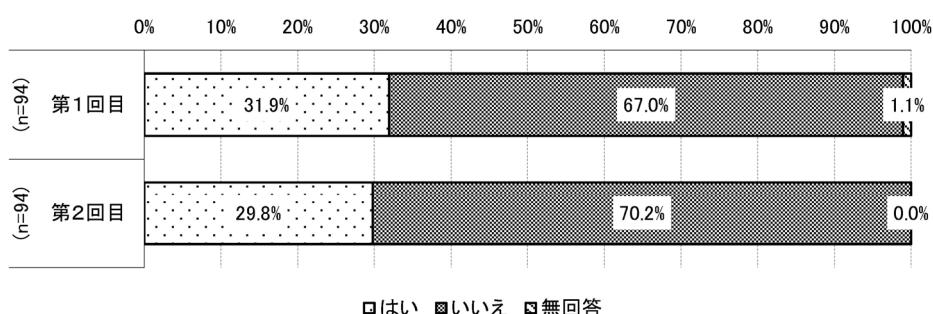
毎日の生活に満足していますか？（調査回数別）



(49) 毎日の活動力や周囲に対する興味が低下したと思いますか？（調査回数）

毎日の活動力や周囲に対する興味が低下しただと思いますか？をみると、「第1回目」では「いいえ」が67.0%ともっとも割合が高く、次いで「はい」が31.9%である。「第2回目」では「いいえ」が70.2%ともっとも割合が高く、次いで「はい」が29.8%である。

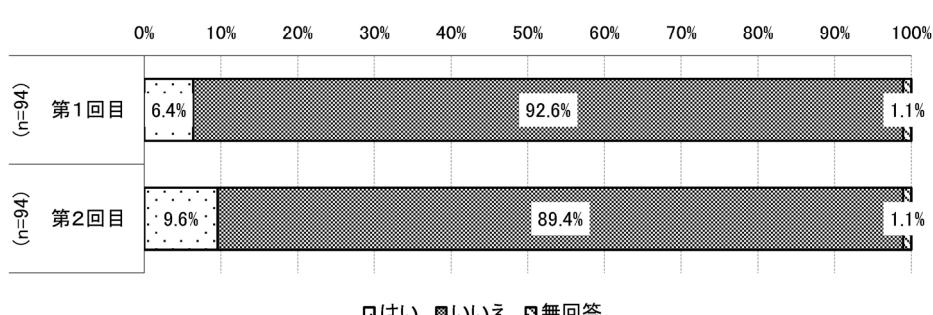
毎日の活動力や周囲に対する興味が低下しただと思いますか？（調査回数別）



(50) 生活が空虚だと思いますか？（調査回数）

生活が空虚だと思いますか？をみると、「第1回目」では「いいえ」が92.6%ともっとも割合が高く、次いで「はい」が6.4%である。「第2回目」では「いいえ」が89.4%ともっとも割合が高く、次いで「はい」が9.6%である。

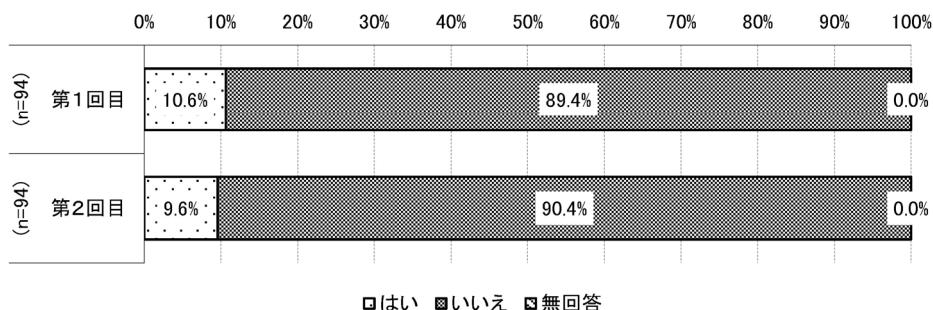
生活が空虚だと思いますか？（調査回数別）



## (5 1) 毎日が退屈だと思うことが多いですか？（調査回数）

毎日が退屈だと思うことが多いですか？をみると、「第1回目」では「いいえ」が89.4%ともっとも割合が高く、次いで「はい」が10.6%である。「第2回目」では「いいえ」が90.4%ともっとも割合が高く、次いで「はい」が9.6%である。

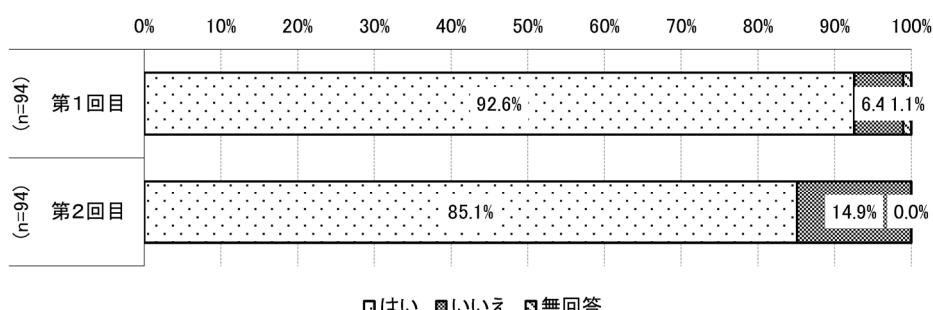
## 毎日が退屈だと思うことが多いですか？（調査回数別）



## (5 2) 大抵は機嫌よく過ごすことが多いですか？（調査回数）

大抵は機嫌よく過ごすことが多いですか？をみると、「第1回目」では「はい」が92.6%ともっとも割合が高く、次いで「いいえ」が6.4%である。「第2回目」では「はい」が85.1%ともっとも割合が高く、次いで「いいえ」が14.9%である。

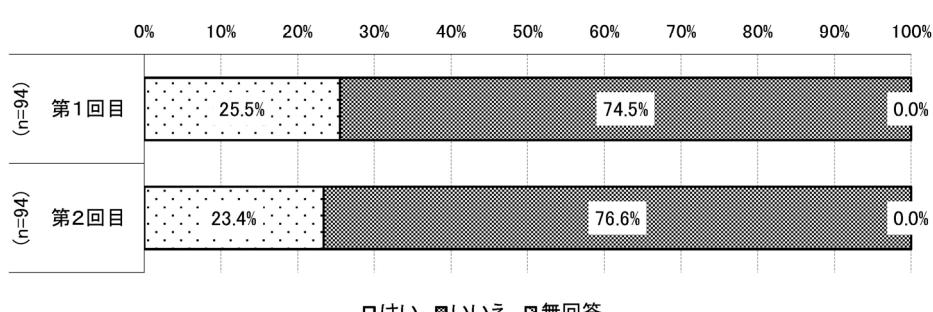
## 大抵は機嫌よく過ごすことが多いですか？（調査回数別）



## (5 3) 将来の漠然とした不安に駆られることが多いですか？（調査回数）

将来の漠然とした不安に駆られることが多いですか？をみると、「第1回目」では「いいえ」が74.5%ともっとも割合が高く、次いで「はい」が25.5%である。「第2回目」では「いいえ」が76.6%ともっとも割合が高く、次いで「はい」が23.4%である。

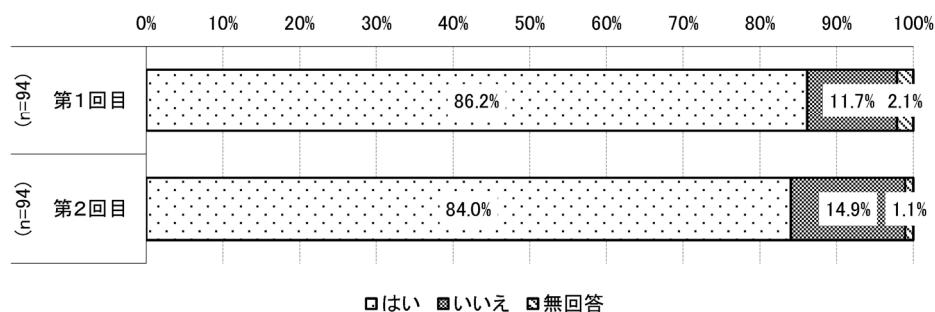
## 将来の漠然とした不安に駆られることが多いですか？（調査回数別）



(5 4) 多くの場合は自分が幸福だと思いますか？（調査回数）

多くの場合は自分が幸福だと思いますか？をみると、「第1回目」では「はい」が86.2%ともっとも割合が高く、次いで「いいえ」が11.7%である。「第2回目」では「はい」が84.0%ともっとも割合が高く、次いで「いいえ」が14.9%である。

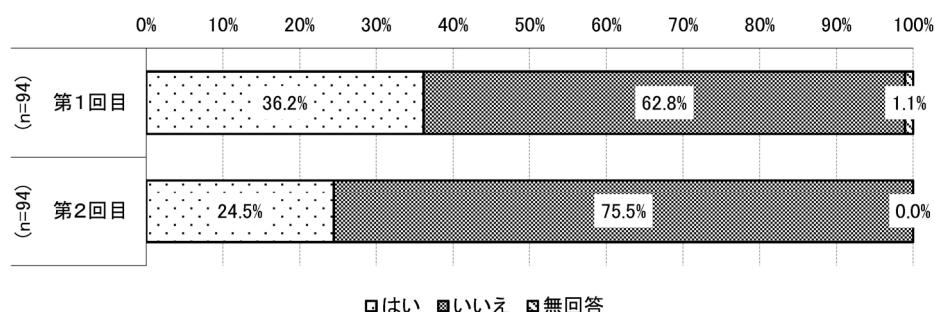
多くの場合は自分が幸福だと思いますか？（調査回数別）



(5 5) 自分が無力だなあと思うことが多いですか？（調査回数）

自分が無力だなあと思うことが多いですか？をみると、「第1回目」では「いいえ」が62.8%ともっとも割合が高く、次いで「はい」が36.2%である。「第2回目」では「いいえ」が75.5%ともっとも割合が高く、次いで「はい」が24.5%である。

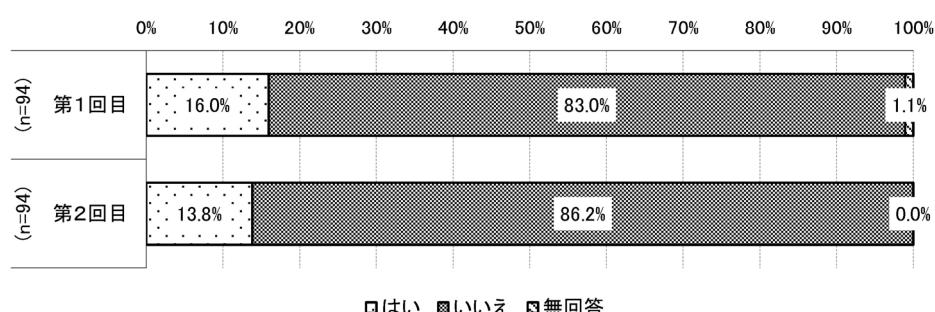
自分が無力だなあと思うことが多いですか？（調査回数別）



(5 6) 外出したり何か新しいことをするより家にいたいと思いますか？（調査回数）

外出したり何か新しいことをするより家にいたいと思いますか？をみると、「第1回目」では「いいえ」が83.0%ともっとも割合が高く、次いで「はい」が16.0%である。「第2回目」では「いいえ」が86.2%ともっとも割合が高く、次いで「はい」が13.8%である。

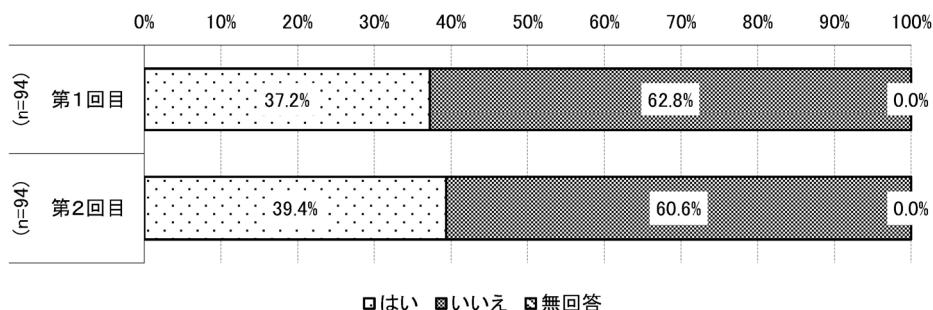
外出したり何か新しいことをするより家にいたいと思いますか？（調査回数別）



## (57) 何よりもまず、もの忘れが気になりますか？（調査回数）

何よりもまず、もの忘れが気になりますか？をみると、「第1回目」では「いいえ」が62.8%ともっとも割合が高く、次いで「はい」が37.2%である。「第2回目」では「いいえ」が60.6%ともっとも割合が高く、次いで「はい」が39.4%である。

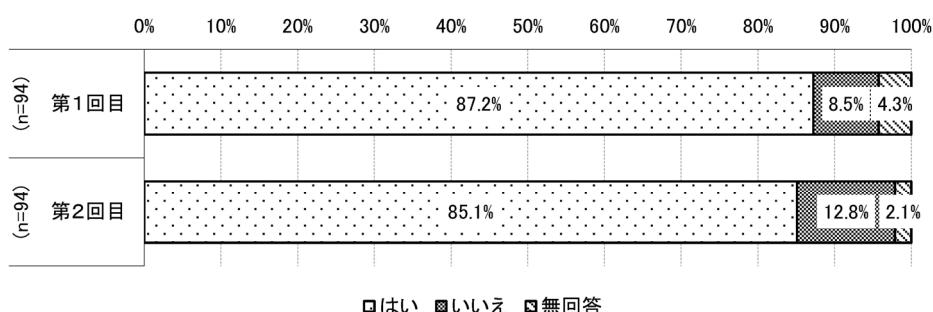
## 何よりもまず、もの忘れが気になりますか？（調査回数別）



## (58) いま生きていることが素晴らしいと思いますか？（調査回数）

いま生きていることが素晴らしいと思いますか？をみると、「第1回目」では「はい」が87.2%ともっとも割合が高く、次いで「いいえ」が8.5%である。「第2回目」では「はい」が85.1%ともっとも割合が高く、次いで「いいえ」が12.8%である。

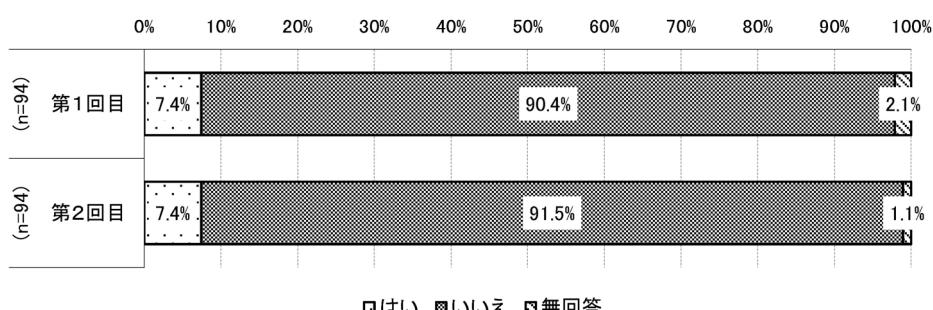
## いま生きていることが素晴らしいと思いますか？（調査回数別）



## (59) 生きていても仕方がないと思う気持ちになることがありますか？（調査回数）

生きていても仕方がないと思う気持ちになることがありますか？をみると、「第1回目」では「いいえ」が90.4%ともっとも割合が高く、次いで「はい」が7.4%である。「第2回目」では「いいえ」が91.5%ともっとも割合が高く、次いで「はい」が7.4%である。

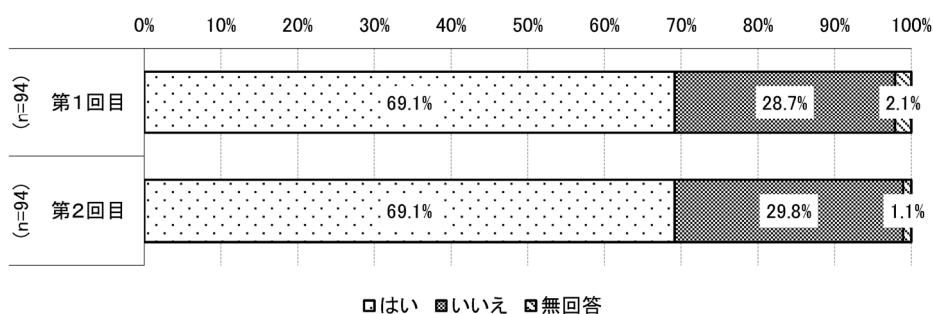
## 生きていても仕方がないと思う気持ちになることがありますか？（調査回数別）



(6 0) 自分が活気にあふれていると思いますか？（調査回数）

自分が活気にあふれていると思いますか？をみると、「第1回目」では「はい」が 69.1%ともっとも割合が高く、次いで「いいえ」が 28.7%である。「第2回目」では「はい」が 69.1%ともっとも割合が高く、次いで「いいえ」が 29.8%である。

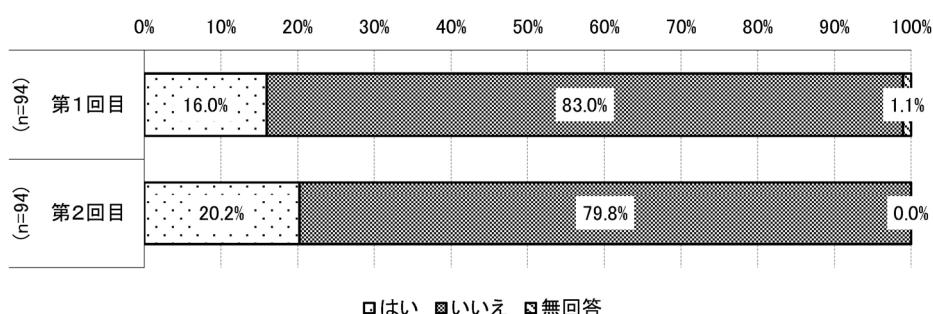
自分が活気にあふれていると思いますか？（調査回数別）



(6 1) 希望がないと思うことがありますか？（調査回数）

希望がないと思うことがありますか？をみると、「第1回目」では「いいえ」が 83.0%ともっとも割合が高く、次いで「はい」が 16.0%である。「第2回目」では「いいえ」が 79.8%ともっとも割合が高く、次いで「はい」が 20.2%である。

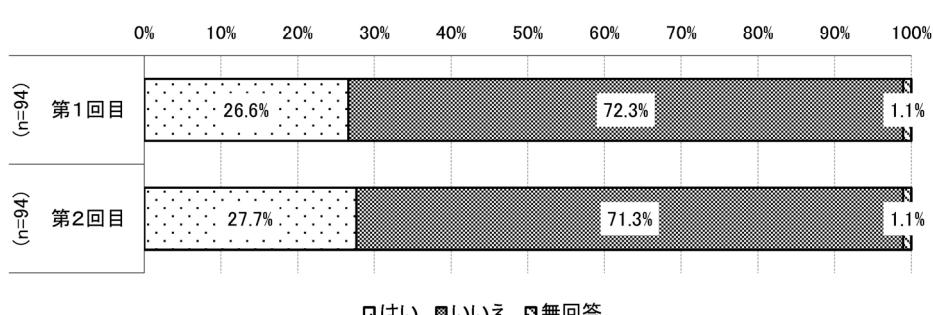
希望がないと思うことがありますか？（調査回数別）



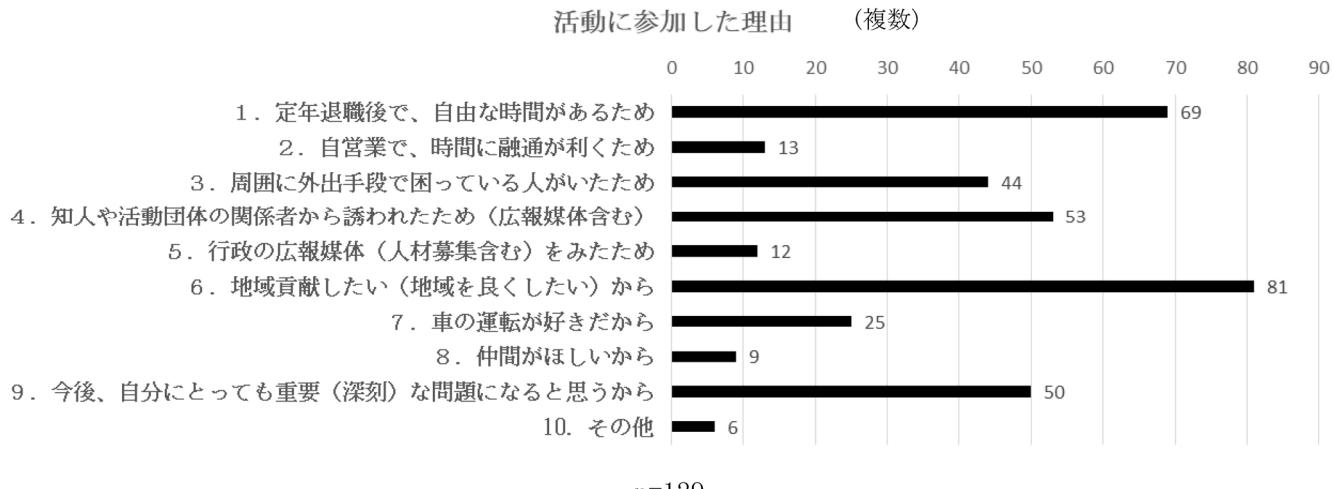
(6 2) 周りの人があなたより幸せそうに見えますか？（調査回数）

周りの人があなたより幸せそうに見えますか？をみると、「第1回目」では「いいえ」が 72.3%ともっとも割合が高く、次いで「はい」が 26.6%である。「第2回目」では「いいえ」が 71.3%ともっとも割合が高く、次いで「はい」が 27.7%である。

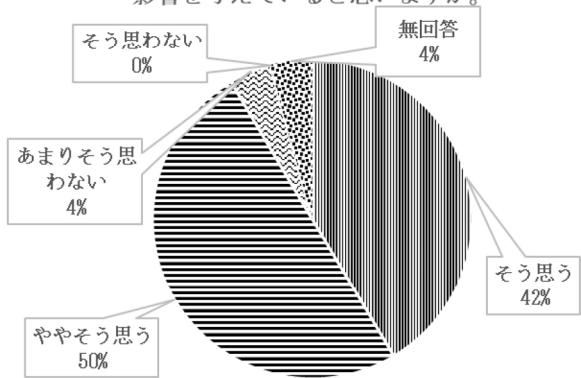
周りの人があなたより幸せそうに見えますか？（調査回数別）



## 1回目もしくは2回目ののみの設問 【担い手】



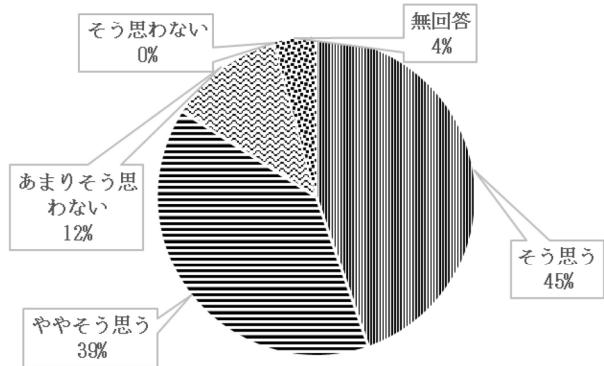
移動支援サービスの利用は、あなたの幸福感に良い影響を与えていると思いますか。



■ そう思う - ややそう思う ▲ あまりそう思わない △ そう思わない ▲ 無回答

n=94

移動支援サービスの利用は、あなたの健康に良い影響を与えていると思いますか。



■ そう思う - ややそう思う ▲ あまりそう思わない △ そう思わない ▲ 無回答

n=94

### 3 回答提出団体アンケート 集計結果／115 団体

住民主体の移動支援が、高齢者の介護予防にもたらす効果に関する調査研究  
調査1 「移動支援の利用者および担い手への定量的・定性的調査」

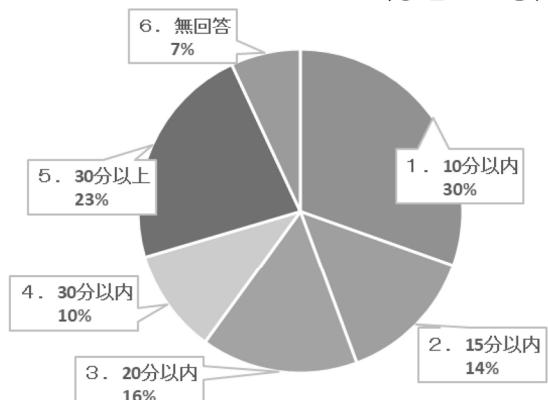
#### (1) 1回目のアンケート回答時点で、すでに利用または活動を開始していた方

	継続者	比率	回答者数
利用者	223人	75.6%	295人
担い手	96人	74.4%	129人

#### (2) 利用者のご自宅周辺の交通事情 ※最も交通の不便な地域のご回答者の状況

##### 1) 最寄りのバス停まで（歩行困難でない人の場合）徒歩でどのくらいの時間がかかりますか。（ひとつに○）

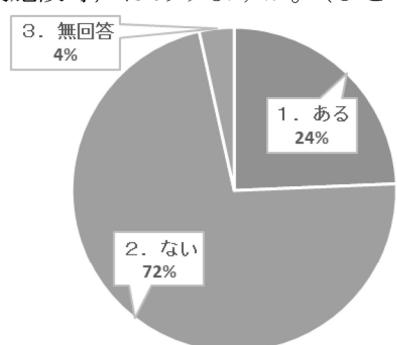
1. 10分以内	35
2. 15分以内	16
3. 20分以内	18
4. 30分以内	12
5. 30分以上	26
6. 無回答	8
合計	115



##### 2) 一般タクシーの運行状況を教えてください。

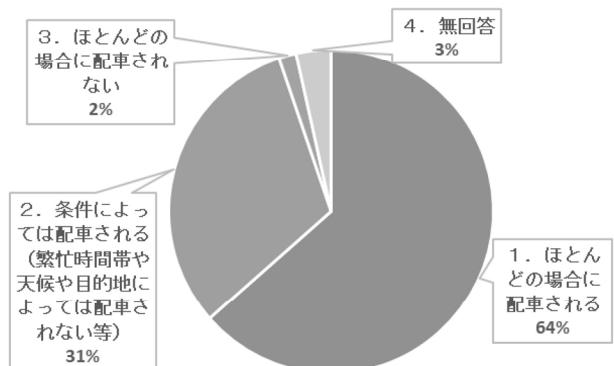
###### ①ご自宅周辺にタクシーの営業所やタクシーの待機場所（商業施設等）はありますか。（ひとつに○）

1. ある	28
2. ない	83
3. 無回答	4
合計	115



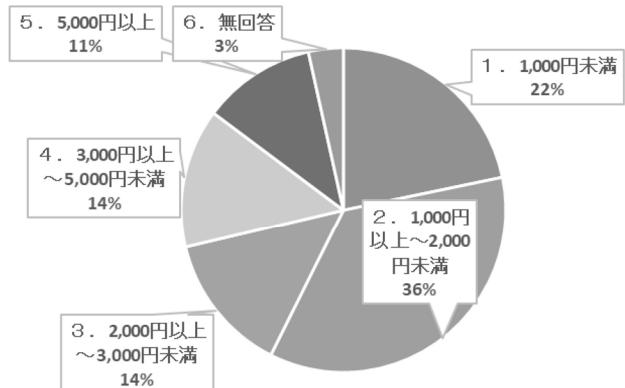
###### ②ご自宅までタクシーを呼んだ場合の状況について、最も近いものを教えてください。（ひとつに○）

1. ほとんどの場合に配車される	73
2. 条件によっては配車される（繁忙時間帯や天候や目的地によっては配車されない等）	36
3. ほとんどの場合に配車されない	2
4. 無回答	4
合計	115



③ 生活に必要な、食料品・日用品を購入できる店舗や病院などの施設が立地するエリアにタクシーで行くためにかかるおおよその片道料金を教えてください。(ひとつに○)

1. 1,000円未満	25
2. 1,000円以上~2,000円未満	41
3. 2,000円以上~3,000円未満	16
4. 3,000円以上~5,000円未満	16
5. 5,000円以上	13
6. 無回答	4
合計	115

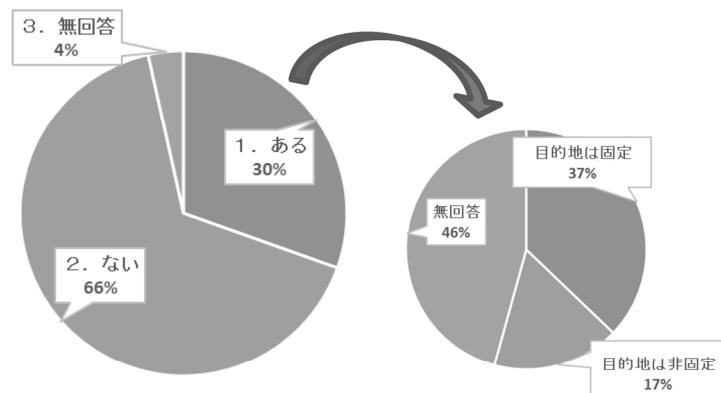


3) デマンド型(予約型)乗合タクシーがありますか。(ひとつに○)

1. ある	35
2. ない	76
3. 無回答	4
合計	115

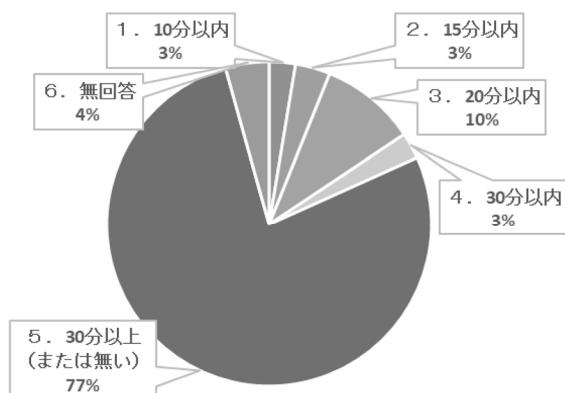
「1. ある」の内訳

目的地は固定	13
目的地は非固定	6
無回答	16
合計	35



4) 最寄りの鉄道駅まで(歩行困難でない人の場合)徒歩でどのくらいの時間がかかりますか。(ひとつに○)

1. 10分以内	3
2. 15分以内	4
3. 20分以内	11
4. 30分以内	3
5. 30分以上(または無い)	89
6. 無回答	5
合計	115



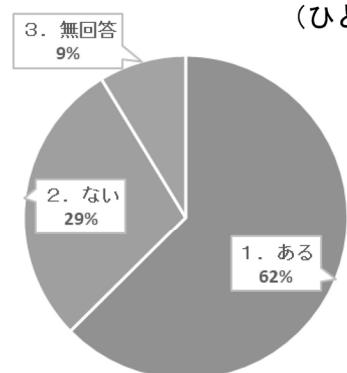
5) 高齢者の移動に対する支援策の有無を教えてください。

バスやタクシーの利用を支援する制度（運賃の割引、乗車パスなど）の有無を教えてください。

(ひとつに○)

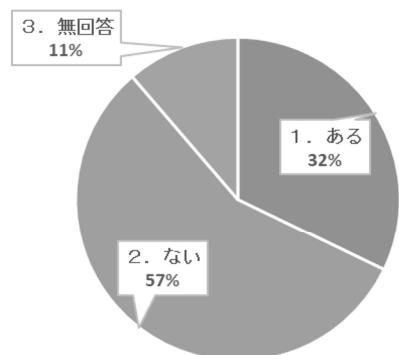
バス運賃の軽減制度

1. ある	72
2. ない	33
3. 無回答	10
合計	115



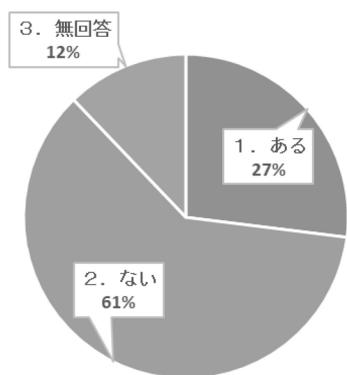
一般タクシー運賃の軽減制度

1. ある	37
2. ない	65
3. 無回答	13
合計	115



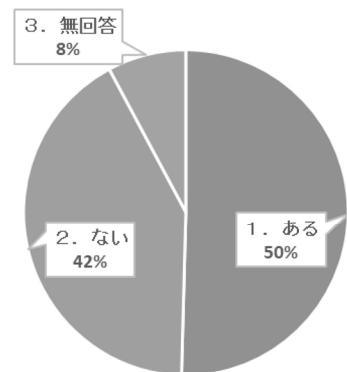
福祉・介護タクシー運賃の軽減制度

1. ある	31
2. ない	70
3. 無回答	14
合計	115



自家用有償旅客運送の実施、またはその支援策

1. ある	58
2. ない	48
3. 無回答	9
合計	115



## 4 【分析1】 移動支援の利用者および担い手への定量的・定性的調査 (心理学的計量尺度を用いた調査分析)

### (1) 調査目的

住民が主体となって実施する移動支援が高齢者の健康に与える好ましい効果を測定するために、移動支援の利用者にもたらす介護予防効果を、一定期間の利用前後での心理学的健康アウトカム指標の測定とその比較で明らかにする。また住民が主体となって実施する移動支援は利用者だけでなく、担い手の健康アウトカムにも影響を及ぼす可能性がある。そのため、利用者と同様に担い手も対象として、健康に与える好ましい効果を測定する。

### (2) 調査方法

高齢者を対象とした福祉有償運送、公共交通空白地有償運送、許可又は登録を要しない運送を実施する移動支援の団体にアンケート用紙を配布して、利用開始と開始から数か月が経過した時点での介護予防効果に関連する意識や行動の変化を測定した（配布332団体）。初回アンケート調査は2021年10月～12月に、2回目のアンケート調査は2022年8月～9月にそれぞれ配布して郵送で回収した。

#### 1) 対象者

アンケート調査票を配布した332団体のうち、許可又は登録を要しない運送を中心とする115団体から配布及び回答に協力を得た。

これらの団体による移動支援を新たに利用する者、また、新たに運送の担い手として活動を開始するボランティアをアンケート調査の対象とした。2回の調査とともに回答を得た移動支援の利用者203名と、移動支援の運送の担い手94名を分析の対象とした。

#### 2) 調査項目

健康維持の増進、あるいは社会的関係性を含む活動の維持・促進といった介護予防効果と直結する意識と行動の状況とその変化を、既存の心理学的計量尺度を用いて測定した。使用した尺度は、高齢者の主観的Quality of life (QOL：生活・生命の質）の評価尺度としてCASP-19 [1]、うつ傾向の有無と程度の評価尺度として老年期うつ病評価尺度 (Geriatric Depression Scale 15: GDS15) [2]、高齢者の生活機能の指標として老研式活動能力指標[3]、地域社会との関係性促進に対する意思の変化の指標として社会的自立支援アウトカム尺度[4]の下位尺度「主体性」を構成する5項目とした。

CASP-19は健康関連QOL尺度とは異なり、「裁量 (Control)」「自律 (Autonomy)」「自己実現 (Self-realization)」「楽しみ (Pleasure)」といった社会学的概念からQOLを測定する評価的ウェルビーイング指標である（表1）。0-57点の得点範囲で、高得点ほどQOLが高い。65～75歳での平均的な得点は41～42点程度である。

GDS-15は高齢者向けのうつ尺度で、高齢期に起こりがちな身体的不調に関する項目を含まず、気分を問う項目だけから構成されており、「はい」「いいえ」の2つ選択肢から回答する（表2）。高齢者にとっては回答しやすく、30カ国以上の言語に翻訳されて国際的に使用されている。0-15点の得点範囲で、点数が多いほど、うつ傾向が強い。0-4点が「正常」、5-9点が「うつ傾向」、10点以上が「うつ状態」と判定する。

老研式活動能力指標は手段的自立、知的能動性、社会的役割の各領域から高次生活機能を測定する尺度で、13 項目の質問に「はい」「いいえ」で回答する。最高点は 13 点で、65～75 歳での平均的な得点は 11 点程度である。

社会的自立支援アウトカム尺度は、「身体的ケア」のアウトカムに対する概念である「社会的ケア」のアウトカムを、自立支援や介護予防等のサービスを一定期間受けた前後で測定する尺度である（表 3）。他者や地域社会との関係性の状態変化を測定する「参加」「活動」、目標達成に向けた自律性を測定する「主体性」の 3 領域を測定する構成となっている。本調査では下位尺度「主体性」の項目を測定した。0～20 点の得点範囲で高得点ほど主体性が高い。高齢者の平均的得点は 9～10 点程度である。

上記のほかに利用者には、属性（性別、年齢層、家族構成、要介護度、外出頻度、外出時の移動手段、経済的状況、健康状態）の回答を求める項目のほか、移動支援の利用を始めた理由、外出に不便を感じ始めた時期、移動支援の利用目的と頻度の質問への回答を求めた。担い手参加者には、上記の要介護度以外の属性と、活動に参加した理由、運転者としての参加頻度、運転者以外の参加頻度の質問への回答を求めた。

表 1 社会学的概念で QOL を測定するウェルビーイング指標の CASP19 の尺度構成

		しばしばある	ときどきある	めったにない	まったくない
裁量	1	年齢のせいで、自分のやりたいことをすることは不可能である			
	2	今自分に起こっている事は自分の力の及ばないことだと思う			
	3	自分の思うとおりに将来を計画できると思う			
	4	色々なことから疎外されているような気がする			
自律	5	やりたいことは何でもできる			
	6	家族に対しての責任のため、やりたいと思うことをすることは不可能である			
	7	自分のやっていることから満足感を得られていると思う			
	8	自分の健康状態のため、自分のやりたいことをすることは不可能である			
	9	金銭的な事情のため、自分のしたいことをすることは不可能である			
楽しみ	10	毎日が楽しみである			
	11	自分の人生に対して生きがいを感じる			
	12	自分がしていることを楽しんでいる			
	13	周囲の人たちとの親交を楽しんでいる			
	14	自分の歩んできた人生を振り返ってみてどちらかというと幸せな人生だと思う			
自己実現	15	最近エネルギー満々である			
	16	今までやっていなかったことを進んでやっている			
	17	自分の人生の成り行きに満足している			
	18	人生には沢山の機会があると思う			
	19	自分の将来の展望は望ましいと思う			

「しばしばある」3 点、「ときどきある」2 点、「めったにない」1 点、「まったくない」0 点。ただし、1、2、4、6、8、9 は逆転項目で「しばしばある」0 点、「ときどきある」1 点、「めったにない」2 点、「まったくない」3 点

表2 老年期うつ病評価尺度 (Geriatric depression scale 15 : GDS15) の構成

1	毎日の生活に満足していますか	はい	いいえ
2	毎日の活動力や周囲に対する興味が低下したと思いますか	はい	いいえ
3	生活が空虚だと思いますか	はい	いいえ
4	毎日が退屈だと思うことが多いですか	はい	いいえ
5	大抵は機嫌よく過ごすことが多いですか	はい	いいえ
6	将来の漠然とした不安に駆られることが多いですか	はい	いいえ
7	多くの場合は自分が幸福だと思いますか	はい	いいえ
8	自分が無力だなあと思うことが多いですか	はい	いいえ
9	外出したり何か新しいことをするより家にいたいと思いますか	はい	いいえ
10	何よりもまず、もの忘れが気になりますか	はい	いいえ
11	いま生きていることが素晴らしいと思いますか	はい	いいえ
12	生きていても仕方がないと思う気持ちになることがありますか	はい	いいえ
13	自分が活気にあふれていると思いますか	はい	いいえ
14	希望がないと思うことがありますか	はい	いいえ
15	周りの人があなたより幸せそうに見えますか	はい	いいえ

「はい」が1点、「いいえ」が0点。ただし1、5、7、11、13は逆転項目で「はい」が0点、「いいえ」が1点として合計。5点以上が「うつ傾向」、10点以上が「うつ状態」。

表3 社会的自立支援アウトカム尺度の下位尺度「主体性」の構成

1. 自己効力感	ご自身の健康や生活にさまざまな問題があっても、自分は活動的な生活を送っていると思いますか？	1. 強くそう思う 2. おおむねそう思う 3. 一定程度そう思う 4. あまり思わない 5. まったく思わない
2. 意思決定	ご自身がより活動的な生活を送るための意思決定は、自分でどれだけできていると思いますか？	1. 十分にできている 2. かなりできている 3. そこそこできている 4. あまりできていない 5. まったくできていない
3. 自己管理	ご自身がより活動的な生活を送るための取組は、自分でどれだけ実行できていると思いますか？	1. 十分にできている 2. かなりできている 3. そこそこできている 4. あまりできていない 5. まったくできていない
4. 他者との関わり	ご自身の思いや希望をどれだけ他者（家族・支援の専門家を含む）に伝えられていると思いますか？	1. 十分に伝えられている 2. かなり伝えられている 3. そこそこ伝えられている 4. あまり伝えられていない 5. まったく伝えられていない
5. 知識・理解	ご自身の健康や生活をよりよくするための情報をどれだけ得られていると思いますか？	1. 十分に得られている 2. かなり得られている 3. そこそこ得られている 4. あまり得られていない 5. まったく得られていない

### 3) 分析の方法

2回のアンケート調査ごとの QOL、うつ傾向、活動能力、主体性の尺度得点を算出して、その平均得点の変化を移動支援の利用者と担い手参加者ごとに比較した。また、各尺度得点の範囲別に占める割合の比較を行った。また、利用者の結果では、介護度（自立、要支援、要介護）、移動支援の利用頻度（週2回以上、月2～7回程度、月1回以下）、移動支援の利用目的（買い物、通院、地域参加その他）で分類した群、担い手の結果では、移動支援の参加頻度（週2回以上、月2～7回程度、月1回以下）で分類した群ごとの比較を行った。1回目と2回目の回答は必要に応じて Wilcoxon 符号付順位検定で比較した。

### (3) 結果

#### 1) 調査対象者の属性

2回のアンケート調査に回答した移動支援の利用者と移動支援の担い手参加者の属性（性別、年齢、家族構成、外出頻度、要介護度）を表4に示す。利用者は75歳以上の後期高齢者が8割以上を占め、7割以上が女性であった。担い手は65～74歳の前期高齢者が半数以上で、男性が7割近くを占めた。利用者は半数が1人暮らしであり、要介護認定を受けていない者が半数を超える、要支援が3割程度であった。

2回のアンケート調査の間に健康状態の変化があった者の割合を図1に示す。利用者の13.8%が調査期間中に介護度が悪化し、自覚的な健康状態が悪化した者が21.4%を占めた。担い手も調査期間中に14.1%が自覚的な健康状態が悪化していた。

表4 分析対象となった移動支援利用者と担い手参加者の属性

		移動支援の利用者：名		担い手参加者：名	
		1回目調査 295	2回目調査 203	1回目調査 129	2回目調査 94
性別	男性	75 (25.4%)	51 (25.1%)	88 (68.2%)	63 (67.0%)
	女性	218 (73.9%)	152 (74.9%)	41 (31.8%)	31 (33.0%)
年齢	39歳以下	1 (0.3%)	0	1 (0.8%)	1 (1.1%)
	40～64歳	8 (2.7%)	7 (3.4%)	26 (20.2%)	16 (17.0%)
	65～74歳	27 (9.2%)	22 (10.8%)	83 (64.3%)	65 (69.1%)
	75～84歳	132 (44.7%)	92 (45.3%)	18 (14.0%)	11 (11.7%)
	85～94歳	122 (41.4%)	79 (38.9%)	1 (0.8%)	1 (1.1%)
	95歳以上	4 (1.4%)	2 (1.0%)	0	0
	無回答	1 (0.3%)	1 (0.5%)	0	0
家族構成	1人暮らし	155 (52.5%)	100 (49.3%)	23 (17.8%)	11 (11.7%)
	夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	60 (20.3%)	43 (21.2%)	52 (40.3%)	40 (42.6%)
	夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	4 (1.4%)	4 (2.0%)	13 (10.1%)	10 (10.6%)
	息子・娘と2世帯	45 (15.3%)	33 (16.3%)	13 (10.1%)	8 (8.5%)
	その他	27 (9.2%)	21 (10.3%)	28 (21.7%)	25 (26.6%)
	無回答	4 (1.4%)	2 (1.0%)	0	0
外出頻度	ほとんど外出しない	54 (18.3%)	35 (17.2%)	1 (0.8%)	1 (1.1%)
	週1回	78 (26.4%)	53 (26.1%)	4 (3.1%)	2 (2.1%)
	週2～4回	134 (45.4%)	92 (45.3%)	39 (30.2%)	25 (26.6%)
	週5回以上	23 (8.0%)	17 (8.4%)	85 (65.9%)	66 (70.2%)
	無回答	6 (2.0%)	6 (3.0%)	0	0
要介護度	非該当	134 (45.4%)	94 (46.3%)	—	—
	基本チェックリスト該当者	16 (5.4%)	15 (7.4%)	—	—
	要支援1	41 (13.9%)	25 (12.3%)	—	—
	要支援2	52 (17.6%)	36 (17.7%)	—	—
	要介護1	18 (6.1%)	12 (5.9%)	—	—
	要介護2	10 (3.4%)	5 (2.5%)	—	—
	要介護3	7 (2.4%)	4 (2.0%)	—	—
	要介護4	1 (0.3%)	1 (0.5%)	—	—
	要介護5	5 (1.7%)	4 (2.0%)	—	—
	無回答	11 (3.7%)	7 (3.4%)	—	—

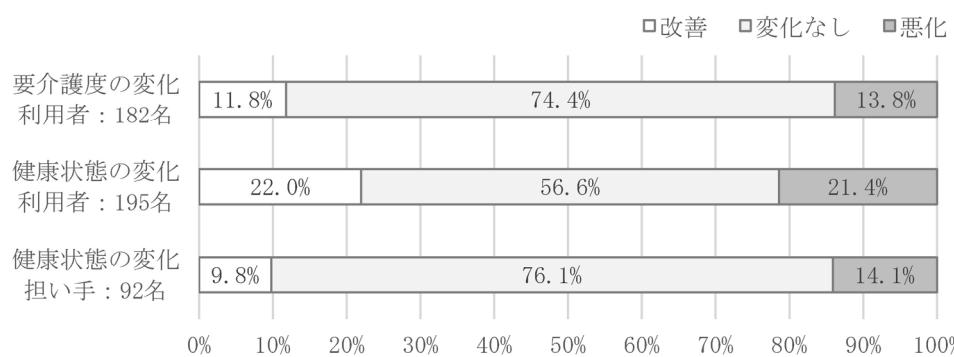


図1 調査期間中に生じた介護度と自覚的健康状態の変化

## 2) 移動支援利用者の QOL

2回の調査で CASP19 の回答に欠損のなかった移動支援の利用者は 138 名であった。これらの平均得点の変化を表 5 に示す。2回目調査の QOL 平均得点は 1 回目と比べて変化はなかった。介護度別では自立群で 2 回目調査の平均得点は概ね維持されたが、要支援群と要介護群ではわずかに低下していた。移動支援の利用頻度別では、週 2 回以上の利用群で 2 回目調査の平均得点は維持されたが、それ以下の利用頻度では低下する傾向が見られた。利用目的別では、買い物、通院、地域参加他のいずれも低下していた。2回の調査の得点範囲別の分布を図 2 に示す。1回目と 2 回目で QOL 得点の範囲別の割合に然したる変化はなかった。

表 5 全数、介護度、移動支援利用頻度、利用目的別の QOL 平均得点の比較

対 象	n	1 回目	2 回目	増 減
全 数	138	31.5 ± 10.2	30.9 ± 10.3	-1.9%
介護度別	自 立	33.7 ± 10.5	33.6 ± 10.8	-0.3%
	要 支 援	31.8 ± 7.6	30.7 ± 8.5	-3.5%
	要 介 護	24.3 ± 10.6	23.3 ± 8.3	-4.1%
利用頻度別	週 2 回以上	32.3 ± 12.5	32.3 ± 11.8	0
	月 2-7 回	32.6 ± 9.4	31.3 ± 9.0	-8.1%
	月 1 回以下	30.0 ± 9.3	29.4 ± 11.3	-2.0%
利用目的別	買 い 物	32.7 ± 9.4	32.1 ± 11.0	-1.8%
	通 院	30.6 ± 9.6	29.6 ± 9.9	-6.5%
	地 域 参 加 他	36.8 ± 9.5	34.5 ± 8.1	-6.5%

(平均±標準偏差) 利用目的は複数回答

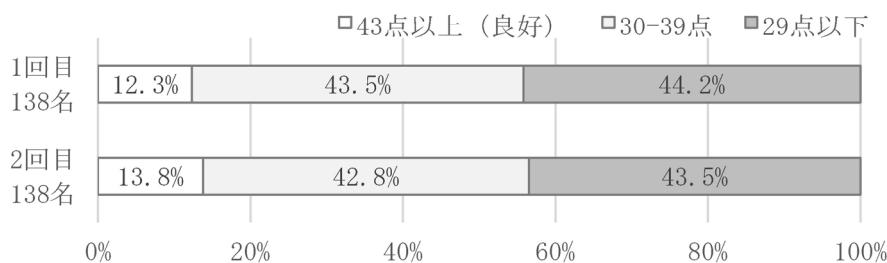


図 2 1回目と2回目調査での QOL 得点の範囲別分布の比較

## 3) 移動支援利用者のうつ傾向

2回の調査で GDS-15 の回答にともに欠損のなかった利用者は 146 名であった。これらのうつ傾向の平均得点の変化を表 6 に示す（低得点ほどうつ傾向が少ない）。2回目調査の平均得点は 1 回目調査より 7.4% 向上した。介護度別では、自立群で 2 回目調査の平均得点が 12.8% と大きく向上した。その一方で、要介護群でも 7.5% 向上した。移動支援の利用頻度別では、週 2 回以上利用群で 2 回目調査のうつ傾向得点は 10.3% 向上した一方で、最も利用頻度の低い月 1 回以下群でも 10.7% の向上が確認された。利用目的別では、買い物、通院、地域参加他のいずれも向上し、特に地域参加他でもっとも大きな向上があった。正常（4 点以下）、うつ傾向（5-9 点）、うつ状態（10-15 点）の分布を介護度（自立、要支援、要介護）別に 1 回目と 2 回目調査を比較した結果を図 3 に示す。自立群では 2 回目に正常の割合が 8.6% 増加した。要介護群でも正常の割合が 2 回目で 16.7% 増加していた。

表6 全数、介護度、移動支援の利用頻度、利用目的別のうつ傾向平均得点の比較

対 象	n	1回目	2回目	増 減
全 数	146	6.12 ± 3.8	5.67 ± 3.9	7.4%向上
介護度別	自 立	82	5.56 ± 3.7	4.85 ± 3.6
	要支援	36	5.94 ± 3.8	5.89 ± 2.7
	要介護	94	7.88 ± 3.6	7.29 ± 4.2
利用頻度別	週2回以上	34	5.74 ± 3.8	5.15 ± 4.1
	月2-7回程度	56	5.63 ± 3.8	5.63 ± 3.5
	月1回以下	51	6.80 ± 3.9	6.08 ± 4.2
利用目的別	買い物	60	5.72 ± 3.9	5.40 ± 4.3
	通 院	99	6.30 ± 3.8	6.08 ± 3.8
	地域参加他	25	5.80 ± 3.8	4.48 ± 3.8

利用目的は複数回答

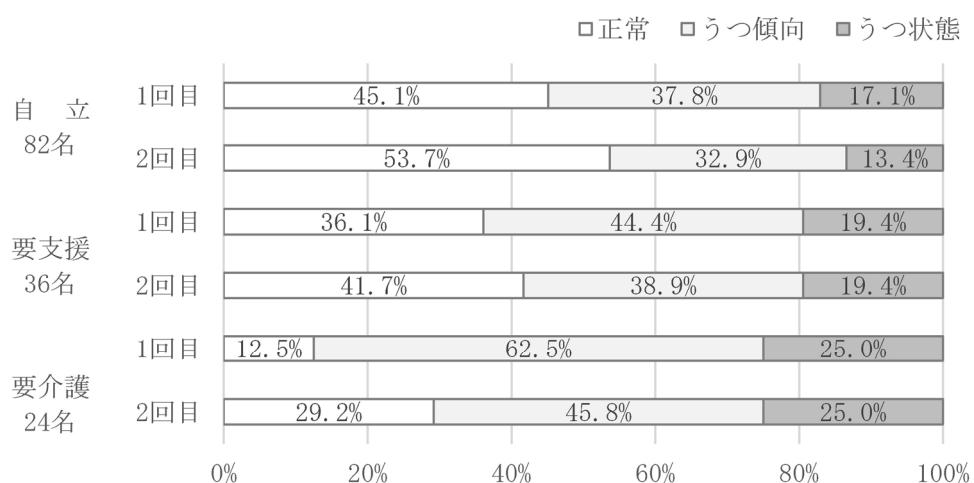


図3 介護度ごとの1回目と2回目調査でのうつ傾向得点範囲別分布の比較

#### 4) 移動支援利用者の活動能力および社会的関係への主体性

老研式活動能力指標と社会的関係への主体性尺度への回答に2回の調査とも欠損がなかった移動支援利用者はそれぞれ168名、192名であった。これらの平均得点の変化をそれぞれ表7、表8に示す。両尺度の2回目調査の平均得点はともにほとんど変化が見られなかった。介護度別では両尺度の平均得点とも、要介護の群ではやや増加する傾向が確認された。利用頻度別では、活動能力指標のみ週2回以上の利用がある群で増加していたが、その他は維持もしくは減少していた。利用目的別では、両尺度と平均得点がほぼ変化なし、もしくは減少していた。

表7 全数、介護度、移動支援の利用頻度、利用目的別の活動能力平均得点の比較

対 象	n	1回目	2回目	増 減
全 数	168	9.10 ± 3.1	9.03 ± 3.2	-0.8%低下
介護度別	自 立	91	10.2 ± 2.9	±0
	要支援	47	8.81 ± 2.4	-5.8%
	要介護	28	6.07 ± 3.1	+7.1%
利用頻度別	週 2回以上	36	9.81 ± 2.6	+8.5%
	月 2~7回程度	67	9.37 ± 3.0	-0.9%
	月 1回以下	58	8.53 ± 3.3	-2.4%
利用目的別	買い物	70	9.83 ± 2.8	-2.7%
	通 院	116	8.90 ± 3.1	+0.1%
	地域参加他	29	10.1 ± 2.6	+1.0%

利用目的は複数回答

表8 介護度、移動支援の利用頻度、利用目的別の主体性平均得点の比較

対 象	n	1回目	2回目	増 減
全 数	192	10.9 ± 3.5	10.8 ± 3.9	-1.0%
介護度別	自 立	101	11.2 ± 3.7	+0.9%
	要支援	59	11.4 ± 3.2	-2.9%
	要介護	30	9.23 ± 3.5	+3.7%
利用頻度別	週 2回以上	42	11.2 ± 3.5	-0.9%
	月 2~7回程度	83	11.3 ± 3.5	±0
	月 1回以下	61	10.3 ± 3.7	-2.5%
利用目的別	買い物	86	11.5 ± 3.2	-6.1%
	通 院	135	10.7 ± 3.4	-0.9%
	地域参加他	30	12.1 ± 3.5	-4.1%

利用目的は複数回答

## 5) 移動支援の担い手のQOL

CASP19 の 2 回の調査とともに回答の欠損がなかった移動支援の担い手参加者は 80 名であった。これらの 1 回目と 2 回目調査の QOL 平均得点の変化を表 9 に示す。2 回目調査の平均得点は 1 回目と比べてほぼ違いはなかった。担い手参加の頻度別では、週 2 回以上参加群で 2 回目調査の QOL 得点が低下する一方、月 1 回以下参加群では 7.4% の向上があった。また、CASP19 得点が 43 点以上（平均的な得点より上位）、30～42 点（平均的な得点より下位）、29 点以下（平均的な得点より著しく下位）で分類した担い手参加者の 1 回目と 2 回目調査の分布の変化を図 4 に示す。上述のとおり、1 回目と 2 回目の平均得点にはほぼ変化はなかったが、43 点以上得点群が占める割合は 2 回目調査で 8.7% 増加していた。一方で、平均的な得点より著しく低い 29 点以下得点群が占める割合も、2 回目調査で 5.0% 增加しており、平均得点はこれらが相殺する形となっていた。

表 9 担い手参加者の全数と参加頻度別での QOL 平均得点の比較

対 象	n	1回目	2回目	増 減
全 数	80	38.3 ± 8.3	38.8 ± 9.3	+1.3%
参加頻度別				
週 2 回以上	27	37.7 ± 7.8	36.1 ± 10.0	-4.2%
月 2～7 回程度	29	38.0 ± 8.7	38.4 ± 9.3	+1.1%
月 1 回以下	24	39.2 ± 8.3	42.1 ± 7.7	+7.4%

(平均 ± 標準偏差)

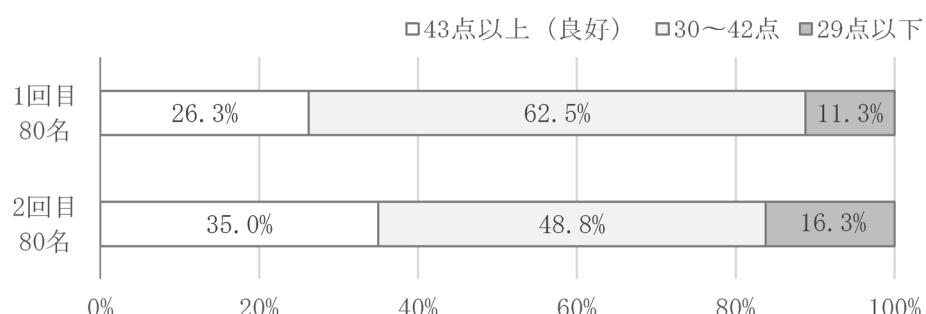


図 4 担い手参加者の 1 回目と 2 回目調査での QOL 得点の範囲別分布

## 6) 移動支援の担い手のうつ傾向

GDS15 の 2 回に渡る調査とともに回答に欠損がなかった移動支援の担い手参加者は 87 名であった。これらの 1 回目と 2 回目調査のうつ傾向の平均得点の変化を表 10 に示す。2 回目調査の平均得点は 3.9% 向上していた（低い値ほど良好）。担い手参加の頻度別では、週 2 回以上の参加群で 2 回目調査のうつ傾向平均得点が 21.7% と大きく低下する一方で、月 1 回以下の参加群では 34.8% と大きく向上し、両者の間に違いが顕著な確認された。月 1 回以下の参加群では、1 回目得点と 2 回目得点の間に有意な差があった ( $p = 0.017$ )。

また、担い手参加者全体では、うつ傾向が正常と判定される（GDS15 得点が 4 点以下）者が 2 回の調査とも 8 割近くを占めていた。そこで、正常群を上位（0-1 点）と下位（2-4 点）に分けて、さらにうつ傾向とうつ状態の 4 つに分類した担い手参加者の 1 回目と 2 回目調査の割合の変化を図 5 に示す。正常群が占める割合自体にはほぼ差はなかったが、正常のうちの上位群が占める割合は 2 回目調査で 13.1% 増加していた。

表 10 担い手参加者の全数と参加頻度別でのうつ傾向平均得点の比較

対象	n	1回目	2回目	増減
全 数	87	2.83 ± 2.6	2.72 ± 3.1	3.9% 向上
参加頻度別				
週 2 回以上	27	3.41 ± 2.8	4.15 ± 3.9	21.7% 低下
月 2-7 回程度	32	2.72 ± 2.7	2.56 ± 2.7	5.9% 向上
月 1 回以下	30	2.50 ± 2.3	1.63 ± 2.0 *	34.8% 向上

\* :  $p < 0.05$

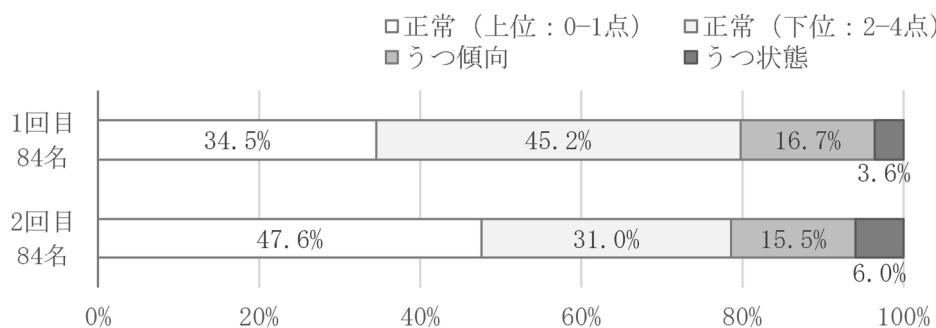


図 5 担い手の 1 回目と 2 回目調査でのうつ傾向得点の範囲別分布

#### 7) 移動支援の担い手の活動能力および社会的関係への主体性

老研式活動能力指標と社会的関係の主体性尺度への回答に 2 回の調査とともに欠損がなかった担い手参加者はそれぞれ 91 名、92 名であった。これらの 2 回の調査での平均得点の変化をそれぞれ表 11、表 12 に示す。両尺度の平均得点は 2 回目調査でともにほぼ増減なしであった。利用頻度別では、両尺度得点とも頻度が最も少ない月 1 回以下の参加群でごくわずかに増加する傾向があったが、週 2 回以上、月 2-7 回の参加群では、ほぼ変化なしかわざかに減少していた。

表 11 担い手参加者の全数と参加頻度別での活動能力平均得点の比較

対象	n	1回目	2回目	増減
全数	91	12.3 ± 1.1	12.3 ± 1.1	なし
参加頻度別				
週 2 回以上	29	12.3 ± 0.9	12.2 ± 1.2	-0.8%
月 2-7 回程度	34	12.1 ± 1.4	12.0 ± 1.2	-0.8%
月 1 回以下	26	12.4 ± 1.1	12.7 ± 0.5	+2.4%

表 12 担い手参加者の全数と参加頻度別での主体性平均得点の比較

対象	n	1回目	2回目	増減
全数	92	12.8 ± 3.2	12.9 ± 3.3	+0.5%
参加頻度別				
週 2 回以上	30	12.5 ± 3.1	12.6 ± 3.0	+0.8%
月 2-7 回程度	34	13.1 ± 3.3	12.7 ± 3.4	-3.1%
月 1 回以下	25	12.9 ± 3.4	13.5 ± 3.7	+4.7%

#### (4) 考察

住民主体の移動支援が高齢者の健康に与える好ましい効果を既存の心理的学計量尺度や生活機能の評価尺度を用いたアンケート調査で測定を試みた。移動支援を利用する側と、移動支援の担い手として参加する側を対象として、一定期間の利用・参加前後で行ったアンケートの結果をそれぞれで集計して記述的分析を実施した。

その結果、移動支援の利用者は、およそ8ヶ月の利用後にうつ尺度得点の向上傾向が認められた。1回目と2回目回答の間に統計的な差は確認されなかったが、移動支援の利用によって、うつ傾向が改善する可能性が示唆された。利用が月1回以下の低頻度群で、うつ尺度の平均得点が10%以上向上していたことから、移動支援の利用が非日常的な体験となる程度の散発的な利用頻度であっても、利用者のうつ傾向に何らかの好ましい影響を与える可能性も示唆された。

移動支援の担い手では、およそ8ヶ月の参加後にQOL尺度の平均点に然したる変化はなかつたが、得点の範囲別の分布では、高得点群が占める割合と著しく低い得点群が占める割合の双方が増加していた。QOL得点に影響する要因は多岐に渡り、特に傷病の罹患を含めた健康状態の変動といった要因は、移動支援への参加とは無関係にQOLを低下させる。こうした要因が含まれる中で、QOL高得点群が増加した本調査の結果は、移動支援の担い手としての参加者の一定の層にはQOLを向上させる効果が生じうることを示唆している。また、担い手参加の頻度別では、週2回以上の高頻度参加群が低下した一方で、月1回以下の低頻度参加群ではQOL得点の増加があった。

担い手のうつ尺度平均得点は2回目調査でわずかに向上した。うつ得点もQOLと同様にうつ状態と判定された者の割合は増加した一方で、正常の上位得点者の割合は増加していた。また、参加頻度別では、週2回以上の高頻度参加群のうつ平均得点が低下した一方で、月1回以下の低頻度参加群ではうつ得点の改善があった。週2回以上の参加者は移動支援の担い手としての役割が日常化しているのに対し、月1回以下の参加者は担い手としての参加が非日常体験に当たると推測される。これらの結果から、QOLと同様に必ずしも参加頻度が多いほどよい効果が得られるのではなく、月1回以下ののような参加であっても移動支援の担い手参加には介護予防効果が生じうることが示唆された。

本調査結果は、心理学的計量尺度を用いることで移動支援の利用者、および担い手参加者の両方で介護予防効果を定量化できる可能性を示した。サンプルサイズと回答欠損の改善により、データの代表性や推定結果の安定性はより向上し、移動支援の介護予防効果を明示できるものと期待される。

#### 文献

1. Hyde M, Wiggins RD, Higgs P, Blane DB. A measure of quality of life in early old age: the theory, development and properties of a needs satisfaction model (CASP-19). *Aging & mental health*, 2003; 7(3): 186–194.
2. Yesavage JA. Geriatric depression scale. *Psychopharmacol bull*, 1988; 24(4): 709–711.
3. 古谷野亘. 地域老人における活動能力の測定. *日本公衛誌*, 1987; 34: 109–114.
4. 小室貴之, 渡辺明子, 佐藤満, 弓川大地. 社会的自立支援に特化した介護サービスのアウトカム尺度の開発. *厚生の指標*, 2018; 65(7): 24–32.

## 5. 【分析2】 移動支援の利用者および担い手への定量的・定性的調査

(主観的幸福感と主観的健康感を軸に t 検定および二項ロジスティック回帰分析を行った結果)

### 目的

住民主体の移動支援の利用者と担い手を対象として、2回のアンケート調査より主観的健康感（健康状態）、主観的幸福感（幸せの程度）の変化を測定する。

### 方法

アンケート調査項目の「現在の健康状態」および「あなたは、現在どの程度幸せですか」の回答について、以下の分析を行った。

#### 1. 全体の第1回調査結果と第2回調査結果の比較：対応のある t 検定

「現在の健康状態」を、とてもよい：4点、まあよい：3点、あまりよくない：2点、よくない：1点に変換（主観的健康感）

「あなたは、現在どの程度幸せですか」は0～10点の素点※（主観的幸福感）

※4.5点のような場合は、切り捨てて4点として計算

#### 2. 新規利用者・参加者の第1回調査結果と第2回調査結果の比較：対応のある t 検定

1と同様設定

#### 3. 第1回調査時点で要介護者を除いた、第1回調査結果と第2回調査結果の比較：対応のある t 検定

1と同じ設定

#### 4. 利用頻度の違いによる効果測定：二項ロジスティック回帰分析

①主観的健康感がよい（とてもよい・まあよい）：1、よくない（よくない・あまりよくない）：0  
が目的変数、外出頻度／運転手としての参加頻度が説明変数（カテゴリ変数）、性別、年齢区分（カテゴリ）、第1回調査時点で既に移動支援サービスを利用／に参加していたか、要介護度（自立、要支援等、要介護の3カテゴリ）、第1回調査時点の主観的健康感がよいかが調整変数

②主観的幸福感が高い（5点以上）：1、低い（4点以下）：0が目的変数、外出頻度／運転手としての参加頻度が説明変数（カテゴリ変数）、性別、年齢区分（カテゴリ）、第1回調査時点で既に移動支援サービスを利用／に参加していたか、要介護度（自立、要支援等、要介護の3カテゴリ）、第1回調査時点の主観的幸福感が高いかが調整変数

分析1～4はいずれも分析に必要な項目に欠損のあるサンプルは除外した。有意水準5%未満（両側）を有意とした。

## 結果 A (サービス利用者の分析)

### 結果 1A

主観的健康感 ( $n=170$ ) は平均 2.61 点 (第1回調査) から 2.40 点 (第2回調査) と -0.21 点 (表1)、 $p=0.001$  で有意な減少を認めた (表2)。一方、主観的幸福感 ( $n=186$ ) は平均 6.51 点 (第1回調査) から 6.36 点 (第2回調査) と -0.15 点 (表3) であったが、有意な差 (変化) は認められなかつた ( $p=0.366$ , 表4)。

表 1

	平均値	度数	標準偏差	平均値の標準誤差
第2回健康感	2.40	170	0.795	0.061
第1回健康感	2.61	170	0.699	0.054

表 2

	対応サンプルの差					t 値	自由度	有意確率 (両側)			
	平均値	標準偏差	標準誤差	差の 95% 信頼区間							
				下限	上限						
第2回健康感 - 第1回健康感	-0.206	0.821	0.063	-0.33	-0.082	-3.271	169	0.001			

表 3

	平均値	度数	標準偏差	平均値の標準誤差
第2回幸福感	6.36	186	2.096	0.154
第1回幸福感	6.51	186	2.046	0.150

表 4

	対応サンプルの差					t 値	自由度	有意確率 (両側)			
	平均値	標準偏差	標準誤差	差の 95% 信頼区間							
				下限	上限						
第2回幸福感 - 第1回幸福感	-0.145	2.185	0.16	-0.461	0.171	-0.906	185	0.366			

## 結果 2A

主観的健康感 ( $n=42$ ) は平均 2.64 点 (第1回調査) から 2.62 点 (第2回調査) と -0.02 点 (表5)、有意な差 (変化) は認められなかつた ( $p=0.850$ , 表6)。主観的幸福感 ( $n=47$ ) は 6.11 点 (第1回調査) から 6.32 点 (第2回調査) と +0.21 点 (表7)、有意な差 (変化) は認められなかつた ( $p=0.569$ , 表8)。

表 5

	平均値	度数	標準偏差	平均値の標準誤差
第2回健康感	2.62	42	0.764	0.118
第1回健康感	2.64	42	0.850	0.131

表 6

	対応サンプルの差					t 値	自由度	有意確率 (両側)			
	平均値	標準偏差	標準誤差	差の 95% 信頼区間							
				下限	上限						
第2回健康感 - 第1回健康感	-0.024	0.811	0.125	-0.277	0.229	-0.19	41	0.850			

表 7

	平均値	度数	標準偏差	平均値の標準誤差
第2回幸福感	6.32	47	2.218	0.323
第1回幸福感	6.11	47	2.088	0.305

表 8

	対応サンプルの差					t 値	自由度	有意確率(両側)			
	平均値	標準偏差	標準誤差	差の 95% 信頼区間							
				下限	上限						
第2回幸福感 - 第1回幸福	0.213	2.545	0.371	-0.534	0.96	0.573	46	0.569			

## 結果 3A

主観的健康感 ( $n=142$ ) は平均 2.62 点 (第 1 回調査) から 2.42 点 (第 2 回調査) と -0.20 点 (表 9)、 $p=0.004$  で有意な減少を認めた (表 10)。一方、主観的幸福感 ( $n=156$ ) は平均 6.62 点 (第 1 回調査) から 6.51 点 (第 2 回調査) と -0.12 点 (表 11) であったが、有意な差 (変化) は認められなかった ( $p=0.514$ , 表 12)。分析 1A と同様の傾向であった。

表 9

	平均値	度数	標準偏差	平均値の標準誤差
第2回健康感	2.42	142	0.783	0.066
第1回健康感	2.62	142	0.702	0.059

表 10

	対応サンプルの差					t 値	自由度	有意確率(両側)			
	平均値	標準偏差	標準誤差	差の 95% 信頼区間							
				下限	上限						
第2回健康感- 第1回健康感	-0.204	0.838	0.07	-0.343	-0.065	-2.903	141	0.004			

表 11

	平均値	度数	標準偏差	平均値の標準誤差
第2回幸福感	6.51	156	2.062	0.165
第1回幸福感	6.62	156	2.052	0.164

表 12

	対応サンプルの差					t 値	自由度	有意確率(両側)			
	平均値	標準偏差	標準誤差	差の 95% 信頼区間							
				下限	上限						
第2回幸福感 - 第1回幸福	-0.115	2.203	0.176	-0.464	0.233	-0.654	155	0.514			

## 結果 4A

主観的健康感 ( $n=168$ ) は利用頻度の違いによる効果の違いは認められなかった ( $p=0.831$ , 表 13)。一方、主観的幸福感 ( $n=183$ ) は週 2 回以上の利用に比して、他の利用頻度 (週 1 回程度 (AOR: 0.074)、2か月に 1 回より少ない (AOR: 0.058)) の場合、幸福感が有意に低かったことが明らかになった。月 2 ~ 3 回程度 (AOR: 0.135) や月 1 回程度 (AOR: 0.308) も有意ではないが、週 2 回以上に比して低い傾向が見られた (表 14)。

表 13

変数	B	標準誤差	Wald	有意確率	AOR	AORの95%信頼区間	
						下限	上限
利用頻度（参照：週2回以上）			1.475	0.831			
利用頻度(週1回程度)	0.188	0.65	0.083	0.773	1.206	0.337	4.315
利用頻度(月2~3回程度)	0.446	0.688	0.421	0.517	1.562	0.406	6.016
利用頻度(月1回程度)	-0.022	0.624	0.001	0.972	0.978	0.288	3.322
利用頻度(2ヶ月に1回より少ない)	-0.241	0.676	0.127	0.722	0.786	0.209	2.956
性別ダミー	0.186	0.471	0.157	0.692	1.205	0.479	3.034
年齢区分（参照：40~64歳）			0.816	0.936			
年齢区分(65~74歳)	-21.553	28420.571	0	0.999	0	0.	
年齢区分(75~84歳)	-21.559	28420.571	0	0.999	0	0.	
年齢区分(85~94歳)	-21.445	28420.571	0	0.999	0	0.	
年齢区分(95歳以上)	-21.134	28420.571	0	0.999	0	0.	
既に利用していた	-0.204	0.426	0.229	0.632	0.816	0.354	1.879
要介護度カテゴリ（参照：自立）			11.144	0.004			
要介護度カテゴリ(基本CL該当者、要支援者)	0.038	0.523	0.005	0.942	1.039	0.373	2.895
要介護度カテゴリ(要介護者)	-1.259	0.552	5.206	0.023	0.284	0.096	0.837
前回幸福感が高い（5点以上）	1.468	0.365	16.217	<0.001	4.34	2.124	8.866

AOR = Adjusted Odds Ratio

表 14

変数	B	標準誤差	Wald	有意確率	AOR	AORの95%信頼区間	
						下限	上限
利用頻度（参照：週2回以上）			10.109	0.039			
利用頻度(週1回程度)	-2.602	1.177	4.885	0.027	0.074	0.007	0.745
利用頻度(月2~3回程度)	-2.006	1.233	2.645	0.104	0.135	0.012	1.509
利用頻度(月1回程度)	-1.177	1.210	0.947	0.331	0.308	0.029	3.3
利用頻度(2ヶ月に1回より少ない)	-2.849	1.177	5.855	0.016	0.058	0.006	0.582
性別ダミー	-0.206	0.591	0.122	0.727	0.814	0.256	2.592
年齢区分（参照：40~64歳）			5.435	0.246			
年齢区分(65~74歳)	0.756	1.956	0.149	0.699	2.129	0.046	98.482
年齢区分(75~84歳)	1.187	1.748	0.461	0.497	3.276	0.106	100.848
年齢区分(85~94歳)	1.273	1.614	0.623	0.430	3.573	0.151	84.429
年齢区分(95歳以上)	2.285	1.611	2.012	0.156	9.83	0.418	231.3
既に利用していた	0.238	0.555	0.184	0.668	1.269	0.428	3.761
要介護度カテゴリ（参照：自立）			7.795	0.020			
要介護度カテゴリ(基本CL該当者、要支援者)	1.410	0.600	5.524	0.019	4.097	1.264	13.281
要介護度カテゴリ(要介護者)	1.769	0.677	6.823	0.009	5.867	1.555	22.133
前回幸福感が高い（5点以上）	1.661	0.554	8.99	0.003	5.263	1.777	15.585

AOR = Adjusted Odds Ratio

### 結果 A のまとめ

主観的健康感については、2回の調査期間中に利用者全体でよくなっていることが明らかになった。ただし、新規利用者については、有意な変化（低下）が確認されなかったことから当初想定した結果の通り、移動支援サービスの利用の開始によって健康の維持がされた可能性がある。

主観的幸福感については、2回の調査期間中では有意な変化が確認されなかった。また、年齢や性別等を調整した分析の結果、週2回以上のサービス利用が幸福感の高いことと関連があることが示唆された。

## 結果 B (扱い手の分析)

### 結果 1B

主観的健康感 (n=87) は平均 3.11 点 (第 1 回調査) から 3.08 点 (第 2 回調査) と -0.03 点 (表 15)、有意な差 (変化) は認められなかった ( $p=0.516$ , 表 16)。主観的幸福感 (n=89) は 6.97 点 (第 1 回調査) から 7.12 点 (第 2 回調査) と +0.16 点 (表 17)、改善はしたが、有意な差 (変化) は認められなかった ( $p=0.312$ , 表 18)。

表 15

	平均値	度数	標準偏差	平均値の標準誤差
第2回健康感	3.08	87	0.38	0.041
第1回健康感	3.11	87	0.416	0.045

表 16

	対応サンプルの差					t 値	自由度	有意確率(両側)
	平均値	標準偏差	標準誤差	差の 95% 信頼区間				
第2回健康感 - 第1回健康感	-0.034	0.493	0.053	-0.14	0.071	-0.652	86	0.516

表 17

	平均値	度数	標準偏差	平均値の標準誤差
第2回幸福感	7.12	89	1.795	0.19
第1回幸福感	6.97	89	1.702	0.18

表 18

	対応サンプルの差					t 値	自由度	有意確率(両側)
	平均値	標準偏差	標準誤差	差の 95% 信頼区間				
第2回幸福感 - 第1回幸福感	0.157	1.461	0.155	-0.15	0.465	1.016	88	0.312

## 結果 2B

主観的健康感 (n=24) は平均 3.13 点 (第 1 回調査) から 3.13 点 (第 2 回調査) と全く変化が見られなかった (表 19)。主観的幸福感 (n=26) は 7.31 点 (第 1 回調査) から 6.73 点 (第 2 回調査) と -0.58 点 (表 20)、有意な差 (変化) は認められなかった ( $p=0.087$ , 表 21)。

表 19

	平均値	度数	標準偏差	平均値の標準誤差
第2回健康感	3.13	24	0.338	0.069
第1回健康感	3.13	24	0.338	0.069

表 20

	平均値	度数	標準偏差	平均値の標準誤差
第2回幸福感	6.73	26	1.614	0.317
第1回幸福感	7.31	26	1.225	0.240

表 21

	対応サンプルの差						t 値	自由度	有意確率 (両側)
	平均値	標準偏差	標準誤差	差の 95% 信頼区間					
				下限	上限				
第2回幸福感 - 第1回幸福感	-0.577	1.653	0.324	-1.245	0.091		-1.779	25	0.087

分析3はアンケート調査項目がないため、実施していない。分析4に関しては、主観的健康感、主観的幸福感が低い担い手がほとんどおらず分析が成立しなかったため、省略した。

### 結果Bのまとめ

主観的健康感および主観的幸福感について、どちらも調査期間中では有意な変化が確認されなかつた。有意ではないが、幸福感は上昇が見られたため、継続調査をすることで有意な結果が得られる可能性がある。

## 6 アンケート調査票

(1回目 利用者)

A

### 移動支援サービスの利用に関するアンケート調査票

1. ご回答者様、ご自身のことについて、ご回答ください。

質問内容	回答（当てはまる数字に○）		
(1) 性別	1. 男性	2. 女性	
(2) 年齢	1. 39歳以下 4. 75~84歳	2. 40~64歳 5. 85~94歳	3. 65~74歳 6. 95歳以上
(3) 家族構成	1. 1人暮らし 3. 夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下） 4. 息子・娘と2世帯	2. 夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）	5. その他
(4) 要介護度など	1. 要介護認定は受けていない／基本チェックリストにも該当しない 2. 基本チェックリスト該当者 3. 要支援1 4. 要支援2 5. 要介護1 6. 要介護2 7. 要介護3 8. 要介護4 9. 要介護5		
(5) 外出頻度 ※ 過去3か月の状況 ※ 3か月の間に変化があった場合は、直近の状況をご回答ください。	1. ほとんど外出しない 3. 週2~4回	2. 週1回 4. 週5回以上	
(6) 外出する時の移動手段 <u>（当てはまるもの全てに○）</u> ※ 過去3か月の状況 ※ 3か月の間に変化があった場合は、直近の状況をご回答ください。	1. 徒歩 4. 自動車（自分で運転） 6. 電車 9. 車いす 12. タクシー	2. 自転車 5. 自動車（人に乗せてもらう） 7. 路線バス 10. 電動いす（カート） 11. 歩行器・シルバーカー	3. バイク 8. 病院や施設バス 13. その他
(7) 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じるか	1. 大変苦しい 4. ややゆとりがある	2. やや苦しい 5. 大変ゆとりがある	3. ふつう
(8) 現在の健康状態	1. とてもよい 3. あまりよくない	2. まあよい 4. よくない	

2. 「この調査票を渡された移動支援サービス」の利用の状況などについて、ご回答ください。

質問内容	回答（当てはまる数字に○）		
(1) この調査票を受け取った移動支援サービスの利用を開始した理由 <u>（当てはまるもの全てに○）</u>	1. 自分で車を運転することが、難しくなったため 2. 送迎をしてくれていた家族等が、車を運転することが難しくなったため 3. 自分で公共交通を利用することが、難しくなったため 4. バスよりも、便利なため 5. タクシーよりも、安いため 6. 自分で徒歩や自転車等で移動することが、難しくなったため 7. 徒歩や自転車よりも、楽なため 8. その他		
(2) 外出に不便を感じ始めた時期	1. 3か月前以内 4. 3~5年前から	2. 3か月~1年前から 5. 5年以上前から	3. 1~3年前から
(3) 利用目的 ※ 現在の予定でご回答ください	1. 買い物 3. 地域の集まりへの参加（体操教室など含む）	2. 通院 4. その他	

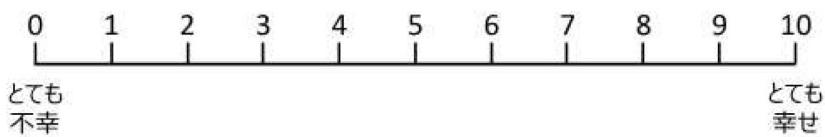
質問内容	回答（当てはまる数字に○）			
(4) (3)でご回答いただいた目的の外出について、これまで「合わせて」どの程度の頻度で出かけていたか ※ 過去3か月の状況 ※ 3か月の間に変化があった場合は、直近の状況をご回答ください。	1. 週2回以上	2. 週1回程度	3. 月2～3回程度	4. 月1回程度 5. 2か月に1回より少ない 6. これまで(3)で回答した外出はしていなかった

3. 以降の設問について、ご回答者様自身が感じていること、思っていることなどについて、ご回答ください。

質問内容	回答（当てはまる数字に○）			
	しばしば ある	ときどき ある	めったに 無い	まったく 無い
(1) 年齢のせいで、自分のやりたいことをすることは不可能である。	1	2	3	4
(2) 今自分に起こっている事は自分の力の及ばないことだと思う。	1	2	3	4
(3) 自分の思うとおりに将来を計画できると思う。	1	2	3	4
(4) 色々なことから疎外されているような気がする。	1	2	3	4
(5) やりたいことは何でもできる。	1	2	3	4
(6) 家族に対しての責任のため、やりたいと思うことをすることは不可能である。	1	2	3	4
(7) 自分のやっていることから満足感を得られていると思う。	1	2	3	4
(8) 自分の健康状態のため、自分のやりたいことをすることは不可能である。	1	2	3	4
(9) 金銭的な事情のため、自分のしたいことをすることは不可能である。	1	2	3	4
(10) 毎日が楽しみである。	1	2	3	4
(11) 自分の人生に対して生きがいを感じる。	1	2	3	4
(12) 自分がしていることを楽しんでいる。	1	2	3	4
(13) 周囲の人たちとの親交を楽しんでいる。	1	2	3	4
(14) 自分の歩んできた人生を振り返ってみてどちらかというと幸せな人生だと思う。	1	2	3	4
(15) 最近エネルギー満々である。	1	2	3	4
(16) 今までやっていなかったことを進んでやっている。	1	2	3	4
(17) 自分の人生の成り行きに満足している。	1	2	3	4
(18) 人生には沢山の機会があると思う。	1	2	3	4
(19) 自分の将来の展望は望ましいと思う。	1	2	3	4

質問内容	回答（当てはまる数字に○）
(20) ご自身の健康や生活にさまざまな問題があっても、自分は活動的な生活を送っていると思いますか？	1. 強く、そう思う 2. おおむね、そう思う 3. ある程度、そう思う 4. あまり、思わない 5. まったく、思わない
(21) ご自身がより活動的な生活を送るための意思決定は、自分でどれだけできていると思いますか？	1. 十分に、できている 2. かなり、できている 3. そこそこ、できている 4. あまり、できていない 5. まったく、できていない
(22) ご自身がより活動的な生活を送るための取組は、自分でどれだけ実行できていると思いますか？  ※ ここでの取組とは、身体づくりや、必要となる手助け・道具・手段の手配や調整を指します。	1. 十分に、できている 2. かなり、できている 3. そこそこ、できている 4. あまり、できていない 5. まったく、できていない
(23) ご自身の思いや希望をどれだけ他者（家族・支援の専門家を含む）に伝えられていると思いますか？	1. 十分に、伝えられている 2. かなり、伝えられている 3. そこそこ、伝えられている 4. あまり、伝えられない 5. まったく、伝えられない
(24) ご自身の健康や生活をよりよくするための情報をどれだけ得られていると思いますか？  友人や隣人、テレビなどから得た情報も対象となります。  ※ ここでの情報とは、医療的な情報や、日々の生活や活動に役立つさまざまな情報を指します。	1. 十分に、伝えられている 2. かなり、伝えられている 3. そこそこ、伝えられている 4. あまり、伝えられない 5. まったく、伝えられない

(25) あなたは、現在どの程度幸せですか  
(「とても不幸」を「0」、「とても幸せ」を「10」として、該当する番号に○を付けてください)



⇒裏面にもご回答ください。

	質問内容	回答（当てはまる数字に○）	
		はい	いいえ
活動	(26) バスや電車を使って1人で外出できますか？	1	2
	(27) 日用品の買い物ができますか？	1	2
	(28) 自分で食事の用意ができますか？	1	2
	(29) 請求書の支払いができますか？	1	2
	(30) 銀行預金・郵便貯金の出し入れが自分でできますか？	1	2
	(31) 年金などの書類が書けますか？	1	2
	(32) 新聞を読んでいますか？	1	2
	(33) 本や雑誌を読んでいますか？	1	2
	(34) 健康についての記事や番組に興味がありますか？	1	2
	(35) 友だちの家を訪ねることがありますか？	1	2
	(36) 家族や友だちの相談にのることができますか？	1	2
	(37) 病人を見舞うことができますか？	1	2
	(38) 若い人に自分から話かけることがありますか？	1	2
	(39) 毎日の生活に満足していますか？	1	2
健康管理	(40) 每日の活動力や周囲に対する興味が低下したと思いますか？	1	2
	(41) 生活が空虚だと思いますか？	1	2
	(42) 毎日が退屈だと思うことが多いですか？	1	2
	(43) 大抵は機嫌よく過ごすことが多いですか？	1	2
	(44) 将来の漠然とした不安に駆られることが多いですか？	1	2
	(45) 多くの場合は自分が幸福だと思いますか？	1	2
	(46) 自分が無力だなあと思うことが多いですか？	1	2
	(47) 外出したり何か新しいことをするより家にいたいと思いますか？	1	2
	(48) 何よりもまず、もの忘れが気になりますか？	1	2
	(49) いま生きていることが素晴らしいと思いますか？	1	2
	(50) 生きていても仕方がないと思う気持ちになることがありますか？	1	2
	(51) 自分が活気にあふれていると思いますか？	1	2
	(52) 希望がないと思うことがありますか？	1	2
	(53) 周りの人があなたより幸せそうに見えますか？	1	2

調査は、以上で終了です。ご協力ありがとうございました。

B

## 移動支援サービスの担い手に関するアンケート調査票

1. ご回答者様、ご自身のことについて、ご回答ください。

質問内容	回答（当てはまる数字に○）		
(1) 性別	1. 男性      2. 女性		
(2) 年齢	1. 39歳以下 4. 75~84歳	2. 40~64歳 5. 85~94歳	3. 65~74歳 6. 95歳以上
(3) 家族構成	1. 1人暮らし 3. 夫婦2人暮らし（配偶者65歳以下） 4. 息子・娘と2世帯	2. 夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）	5. その他
(4) 外出頻度 ※ 過去3か月の状況	1. ほとんど外出しない 3. 週2~4回	2. 週1回 4. 週5回以上	
(5) 外出する時の移動手段 <b>（当てはまるもの全てに○）</b> ※ 過去3か月の状況	1. 徒歩 4. 自動車（自分で運転） 6. 電車 9. 車いす	2. 自転車 5. 自動車（人に乗せてもらう） 7. 路線バス 10. 電動いす（カート） 12. タクシー	3. バイク 8. 病院や施設バス 11. 歩行器・シルバーカー 13. その他
(6) 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じるか	1. 大変苦しい 4. ややゆとりがある	2. やや苦しい 5. 大変ゆとりがある	3. ふつう
(7) 現在の健康状態	1. とてもよい 3. あまりよくない	2. まあよい 4. よくない	

2. 「この調査票を渡された団体等」での活動の状況などについて、ご回答ください。

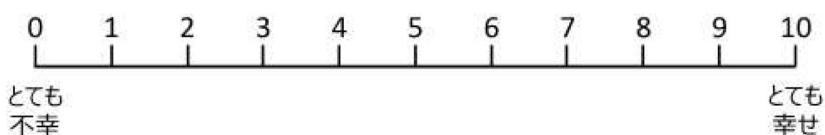
質問内容	回答（当てはまる数字に○）	
(1) 活動に参加した理由 <b>（当てはまるもの全てに○）</b>	1. 定年退職後で、自由な時間があるため 2. 自営業で、時間に融通が利くため 3. 周囲に外出手段で困っている人がいたため 4. 知人や活動団体の関係者から誘われたため（広報媒体含む） 5. 行政の広報媒体（人材募集含む）をみたため 6. 地域貢献したい（地域を良くしたい）から 7. 車の運転が好きだから 8. 仲間がほしいから 9. 今後、自分にとっても重要（深刻）な問題になると思うから 10. その他	
(2) 運転者としての参加頻度 ※ 現在の予定でご回答ください	1. 週2回以上 3. 月2~3回程度 5. 2か月に1回より少ない	2. 週1回程度 4. 月1回程度
(3) 運転者以外の役割を含む、当該団体等の活動への参加頻度 ※ 現在の予定でご回答ください ※ 活動が運転のみの場合は、(2)と同じ選択肢を選択してください	1. 週2回以上 3. 月2~3回程度 5. 2か月に1回より少ない	2. 週1回程度 4. 月1回程度

3. 以降の設問について、ご回答者様自身が感じていること、思っていることなどについて、ご回答ください。

質問内容	回答（当てはまる数字に○）			
	しばしば ある	ときどき ある	めったに 無い	まったく 無い
(1) 年齢のせいで、自分のやりたいことをすることは不可能である。	1	2	3	4
(2) 今自分に起こっている事は自分の力の及ばないことだと思う。	1	2	3	4
(3) 自分の思うとおりに将来を計画できると思う。	1	2	3	4
(4) 色々なことから疎外されているような気がする。	1	2	3	4
(5) やりたいことは何でもできる。	1	2	3	4
(6) 家族に対しての責任のため、やりたいと思うことをすることは不可能である。	1	2	3	4
(7) 自分のやっていることから満足感を得られていると思う。	1	2	3	4
(8) 自分の健康状態のため、自分のやりたいことをすることは不可能である。	1	2	3	4
(9) 金銭的な事情のため、自分のしたいことをすることは不可能である。	1	2	3	4
(10) 毎日が楽しみである。	1	2	3	4
(11) 自分の人生に対して生きがいを感じる。	1	2	3	4
(12) 自分がしていることを楽しんでいる。	1	2	3	4
(13) 周囲の人たちとの親交を楽しんでいる。	1	2	3	4
(14) 自分の歩んできた人生を振り返ってみてどちらかというと幸せな人生だと思う。	1	2	3	4
(15) 最近エネルギー満々である。	1	2	3	4
(16) 今までやっていなかったことを進んでやっている。	1	2	3	4
(17) 自分の人生の成り行きに満足している。	1	2	3	4
(18) 人生には沢山の機会があると思う。	1	2	3	4
(19) 自分の将来の展望は望ましいと思う。	1	2	3	4

質問内容	回答（当てはまる数字に○）
(20) ご自身の健康や生活にさまざまな問題があつても、自分は活動的な生活を送っていると思いますか？	1. 強く、そう思う 2. おおむね、そう思う 3. ある程度、そう思う 4. あまり、思わない 5. まったく、思わない
(21) ご自身がより活動的な生活を送るための意思決定は、自分でどれだけできていると思いますか？	1. 十分に、できている 2. かなり、できている 3. そこそこ、できている 4. あまり、できていない 5. まったく、できていない
(22) ご自身がより活動的な生活を送るための取組は、自分でどれだけ実行できていると思いますか？  ※ ここでの取組とは、身体づくりや、必要となる手助け・道具・手段の手配や調整を指します。	1. 十分に、できている 2. かなり、できている 3. そこそこ、できている 4. あまり、できていない 5. まったく、できていない
(23) ご自身の思いや希望をどれだけ他者（家族・支援の専門家を含む）に伝えられていると思いますか？	1. 十分に、伝えられている 2. かなり、伝えられている 3. そこそこ、伝えられている 4. あまり、伝えられていない 5. まったく、伝えられていない
(24) ご自身の健康や生活をよりよくするための情報をどれだけ得られていると思いますか？  友人や隣人、テレビなどから得た情報も対象となります。  ※ ここでの情報とは、医療的な情報や、日々の生活や活動に役立つさまざまな情報を指します。	1. 十分に、伝えられている 2. かなり、伝えられている 3. そこそこ、伝えられている 4. あまり、伝えられていない 5. まったく、伝えられていない

(25) あなたは、現在どの程度幸せですか  
(「とても不幸」を「0」、「とても幸せ」を「10」として、該当する番号に○を付けてください)



⇒裏面にもご回答ください。

	質問内容	回答（当てはまる数字に○）	
		はい	いいえ
活動	(26) バスや電車を使って1人で外出できますか？	1	2
	(27) 日用品の買い物ができますか？	1	2
	(28) 自分で食事の用意ができますか？	1	2
	(29) 請求書の支払いができますか？	1	2
	(30) 銀行預金・郵便貯金の出し入れが自分でできますか？	1	2
	(31) 年金などの書類が書けますか？	1	2
	(32) 新聞を読んでいますか？	1	2
	(33) 本や雑誌を読んでいますか？	1	2
	(34) 健康についての記事や番組に興味がありますか？	1	2
	(35) 友だちの家を訪ねることができますか？	1	2
	(36) 家族や友だちの相談にのることができますか？	1	2
	(37) 病院を見舞うことができますか？	1	2
	(38) 若い人に自分から話かけることがありますか？	1	2
	(39) 毎日の生活に満足していますか？	1	2
健康管理	(40) 每日の活動力や周囲に対する興味が低下したと思いますか？	1	2
	(41) 生活が空虚だと思いますか？	1	2
	(42) 毎日が退屈だと思うことが多いですか？	1	2
	(43) 大抵は機嫌よく過ごすことが多いですか？	1	2
	(44) 将来の漠然とした不安に駆られることが多いですか？	1	2
	(45) 多くの場合は自分が幸福だと思いますか？	1	2
	(46) 自分が無力だなあと思うことが多いですか？	1	2
	(47) 外出したり何か新しいことをするより家にいたいと思いますか？	1	2
	(48) 何よりもまず、もの忘れが気になりますか？	1	2
	(49) いま生きていることが素晴らしいと思いますか？	1	2
	(50) 生きていても仕方がないと思う気持ちになることがありますか？	1	2
	(51) 自分が活気にあふれていると思いますか？	1	2
	(52) 希望がないと思うことがありますか？	1	2
	(53) 周りの人があなたより幸せそうに見えますか？	1	2

調査は、以上で終了です。ご協力ありがとうございました。

A

## 移動支援サービスの利用に関するアンケート調査票

1. ご回答者様、ご自身のことについて、ご回答ください。

質問内容	回答（当てはまる数字に○）				
(1) 家族構成	1. 1人暮らし 2. 夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上） 3. 夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下） 4. 息子・娘と同居 5. その他（ ）				
(2) 要介護度など	1. 要介護認定は受けていない／基本チェックリストにも該当しない 2. 基本チェックリスト該当者 3. 要支援1 4. 要支援2 5. 要介護1 6. 要介護2 7. 要介護3 8. 要介護4 9. 要介護5				
(3) 外出頻度 ※過去3か月の状況 ※3か月の間に変化があった場合は、直近の状況をご回答ください。	1. ほとんど外出しない 2. 週1回 3. 週2～4回 4. 週5回以上				
(4) 外出する時の移動手段 <u>（当てはまるもの全てに○）</u> ※過去3か月の状況 ※3か月の間に変化があった場合は、直近の状況をご回答ください。	1. 徒歩 2. 自転車 3. バイク 4. 自動車（自分で運転） 5. 自動車（人に乗せてもらう） 6. 電車 7. 路線バス 8. 病院や施設バス 9. 車いす 10. 電動いす（カート） 11. 歩行器・シルバーカー 12. タクシー 13. その他（ ）				
(5) 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じるか	1. 大変苦しい 2. やや苦しい 3. ふつう 4. ややゆとりがある 5. 大変ゆとりがある				
(6) 現在の健康状態	1. とてもよい 2. まあよい 3. あまりよくない 4. よくない				

2. 「この調査票を渡された移動支援サービス」の利用の状況について、ご回答ください。

質問内容	回答（当てはまる数字に○）				
(1) どのようにして、このサービス（取組）の利用に至りましたか <u>（当てはまるもの全てに○）</u>	1. 家族、親戚、友人、知人からの案内 2. 体操教室やサロンなど、通っている場所のスタッフからの案内 3. 市役所・地域包括支援センター・社会福祉協議会からの案内 4. 民生委員・自治会役員など、地域の世話役からの案内 5. ケアマネジャー・ホームヘルパーなど、介護保険事業者からの案内 6. 市・社会福祉協議会・地域包括支援センターなどの、広報や配布物 7. 町会・自治会の会合、回覧板など、地域の配布物・お知らせ 8. テレビ、新聞、雑誌、ホームページでの案内 9. その他（ ）				
(2) 利用目的 <u>（当てはまるもの全てに○）</u>	1. 買い物 2. 通院 3. 地域の集まりへの参加（体操教室など含む） 4. その他（ ）				
(3) (2)でご回答いただいた目的の外出について、「合わせて」どの程度の頻度で出かけているか	1. 週2回以上 2. 週1回程度 3. 月2～3回程度 4. 月1回程度 5. 2か月に1回より少ない				

3. 以降の設問について、ご回答者様自身が感じていること、思っていることなどについて、ご回答ください。

※介護分野で多く用いられている定型の質問です。回答しにくい項目があるかと存じますが、何卒ご了承ください。

(1)～(19) CASP-19 (Control, Autonomy, Self-realization, Pleasure の 4 要素から構成される QOL 尺度)

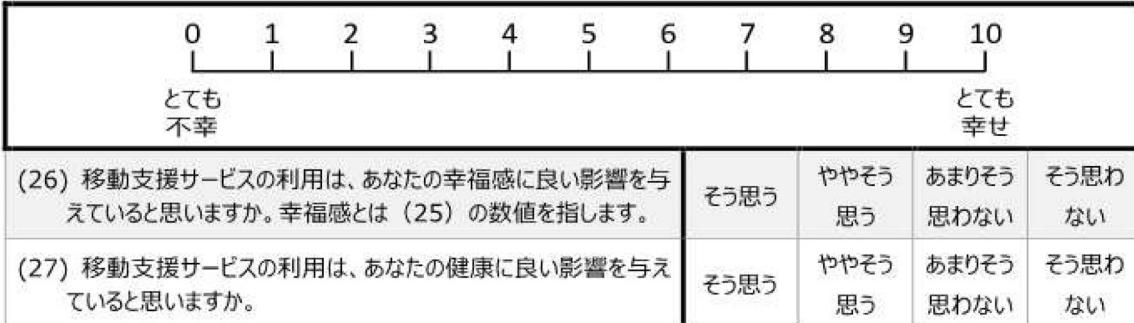
(20)～(25) 社会的自立支援会アウトカム尺度 Social Independent Support Scale ; SIOS

(28)～(40) 活動：老研式活動能力指標

(41)～(55) 健康管理：老年期うつ病評価尺度 (Geriatric depression scale)

質問内容	回答 (当てはまる数字に○)			
	しばしば ある	ときどき ある	めったに 無い	まったく 無い
(1) 年齢のせいで、自分のやりたいことをすることは不可能である。	1	2	3	4
(2) 今自分に起こっている事は自分の力の及ばないことだと思う。	1	2	3	4
(3) 自分の思うとおりに将来を計画できると思う。	1	2	3	4
(4) 色々なことから疎外されているような気がする。	1	2	3	4
(5) やりたいことは何でもできる。	1	2	3	4
(6) 家族に対しての責任のため、やりたいと思うことをすることは不可能である。	1	2	3	4
(7) 自分のやっていることから満足感を得られていると思う。	1	2	3	4
(8) 自分の健康状態のため、自分のやりたいことをすることは不可能である。	1	2	3	4
(9) 金銭的な事情のため、自分のしたいことをすることは不可能である。	1	2	3	4
(10) 毎日が楽しみである。	1	2	3	4
(11) 自分の人生に対して生きがいを感じる。	1	2	3	4
(12) 自分がしていることを楽しんでいる。	1	2	3	4
(13) 周囲の人たちとの親交を楽しんでいる。	1	2	3	4
(14) 自分の歩んできた人生を振り返ってみてどちらかというと幸せな人生だと思う。	1	2	3	4
(15) 最近エネルギー満々である。	1	2	3	4
(16) 今までやっていなかったことを進んでやっている。	1	2	3	4
(17) 自分の人生の成り行きに満足している。	1	2	3	4
(18) 人生には沢山の機会があると思う。	1	2	3	4
(19) 自分の将来の展望は望ましいと思う。	1	2	3	4

質問内容	回答（当てはまる数字に○）
(20) ご自身の健康や生活にさまざまな問題があつても、自分は活動的な生活を送っていると思いますか？	1. 強く、そう思う 2. おおむね、そう思う 3. ある程度、そう思う 4. あまり、思わない 5. まったく、思わない
(21) ご自身がより活動的な生活を送るための意思決定は、自分でどれだけできていると思いますか？	1. 十分に、できている 2. かなり、できている 3. そこそこ、できている 4. あまり、できていない 5. まったく、できていない
(22) ご自身がより活動的な生活を送るための取組は、自分でどれだけ実行できていると思いますか？  ※ ここでの取組とは、身体づくりや、必要となる手助け・道具・手段の手配や調整を指します。	1. 十分に、できている 2. かなり、できている 3. そこそこ、できている 4. あまり、できていない 5. まったく、できていない
(23) ご自身の思いや希望をどれだけ他者（家族・支援の専門家を含む）に伝えられていると思いますか？	1. 十分に、伝えられている 2. かなり、伝えられている 3. そこそこ、伝えられている 4. あまり、伝えられていない 5. まったく、伝えられていない
(24) ご自身の健康や生活をよりよくするための情報をどれだけ得られていると思いますか？  友人や隣人、テレビなどから得た情報も対象となります。  ※ ここでの情報とは、医療的な情報や、日々の生活や活動に役立つさまざまな情報を指します。	1. 十分に得られている 2. かなり得られている 3. そこそこ得られている 4. あまり得られていない 5. まったく得られていない
(25) あなたは、現在どの程度幸せですか  (「とても不幸」を「0」、「とても幸せ」を「10」として、該当する番号に○を付けてください)	



質問内容		回答（当てはまる数字に○）	
		はい	いいえ
活動	(28) バスや電車を使って1人で外出できますか？	1	2
	(29) 日用品の買い物ができますか？	1	2
	(30) 自分で食事の用意ができますか？	1	2
	(31) 請求書の支払いができますか？	1	2
	(32) 銀行預金・郵便貯金の出し入れが自分でできますか？	1	2
	(33) 年金などの書類が書けますか？	1	2
	(34) 新聞を読んでいますか？	1	2
	(35) 本や雑誌を読んでいますか？	1	2
	(36) 健康についての記事や番組に興味がありますか？	1	2
	(37) 友だちの家を訪ねることがありますか？	1	2
	(38) 家族や友だちの相談にのることがありますか？	1	2
	(39) 病人を見舞うことができますか？	1	2
	(40) 若い人に自分から話かけることがありますか？	1	2
	(41) 毎日の生活に満足していますか？	1	2
健康管理	(42) 每日の活動力や周囲に対する興味が低下したと思いますか？	1	2
	(43) 生活が空虚だと思いますか？	1	2
	(44) 毎日が退屈だと思うことが多いですか？	1	2
	(45) 大抵は機嫌よく過ごすことが多いですか？	1	2
	(46) 将来の漠然とした不安に駆られることが多いですか？	1	2
	(47) 多くの場合は自分が幸福だと思いますか？	1	2
	(48) 自分が無力だなあと思うことが多いですか？	1	2
	(49) 外出したり何か新しいことをするより家にいたいと思いますか？	1	2
	(50) 何よりもまず、もの忘れが気になりますか？	1	2
	(51) いま生きていることが素晴らしいと思いますか？	1	2
	(52) 生きていても仕方がないと思う気持ちになることがありますか？	1	2
	(53) 自分が活気にあふれていると思いますか？	1	2
	(54) 希望がないと思うことがありますか？	1	2
	(55) 周りの人があなたより幸せそうに見えますか？	1	2

⇒調査は、以上です。ご協力ありがとうございました。

B

## 移動支援サービスの担い手に関するアンケート調査票

1. ご回答者様、ご自身のことについて、ご回答ください。

質問内容	回答（当てはまる数字に○）	
(1) 家族構成 ※ 過去3か月の状況	1. 1人暮らし 3. 夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上） 4. 息子・娘と同居	2. 夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下） 5. その他（ ）
(2) 外出頻度 ※ 過去3か月の状況	1. ほとんど外出しない 3. 週2～4回	2. 週1回 4. 週5回以上
(3) 外出する時の移動手段 <u>（当てはまるもの全てに○）</u> ※ 過去3か月の状況	1. 徒歩 3. バイク 5. 自動車（人に乗せてもらう） 7. 路線バス 9. 車いす 11. 歩行器・シルバーカー	2. 自転車 4. 自動車（自分で運転） 6. 電車 8. 病院や施設バス 10. 電動いす（カート） 12. タクシー 13. その他（ ）
(4) 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じるか	1. 大変苦しい 4. ややゆとりがある	2. やや苦しい 5. 大変ゆとりがある
(5) 現在の健康状態	1. とてもよい 3. あまりよくない	2. まあよい 4. よくない

2. 「この調査票を渡された団体等」での活動の状況などについて、ご回答ください。

質問内容	回答（当てはまる数字に○）	
(1) 運転者としての参加頻度 ※ 現在の状況をご回答ください	1. 週2回以上 3. 月2～3回程度 5. 2か月に1回より少ない	2. 週1回程度 4. 月1回程度
(2) 運転者以外の役割を含む、当該団体等の活動への参加頻度 ※ 現在の状況をご回答ください ※ 活動が運転のみの場合は、(1)と同じ選択肢を選択してください	1. 週2回以上 3. 月2～3回程度 5. 2か月に1回より少ない	2. 週1回程度 4. 月1回程度

3. 以降の設問について、ご回答者様自身が感じていること、思っていることなどについて、ご回答ください。

※介護分野で多く用いられている定型の質問です。回答しにくい項目があるかと存じますが、何卒ご了承ください。

(1)～(19) CASP-19 (Control, Autonomy, Self-realization, Pleasure の 4 要素から構成される QOL 尺度)

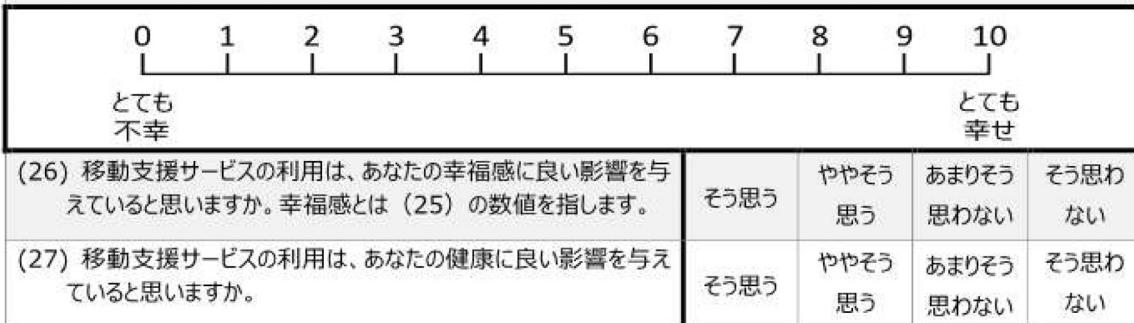
(20)～(25) 社会的自立支援会アウトカム尺度 Social Independent Support Scale ; SIOS

(28)～(40) 活動：老研式活動能力指標

(41)～(55) 健康管理：老年期うつ病評価尺度 (Geriatric depression scale)

質問内容	回答（当てはまる数字に○）			
	しばしば ある	ときどき ある	めったに 無い	まったく 無い
(1) 年齢のせいで、自分のやりたいことをすることは不可能である。	1	2	3	4
(2) 今自分に起こっている事は自分の力の及ばないことだと思う。	1	2	3	4
(3) 自分の思うとおりに将来を計画できると思う。	1	2	3	4
(4) 色々なことから疎外されているような気がする。	1	2	3	4
(5) やりたいことは何でもできる。	1	2	3	4
(6) 家族に対しての責任のため、やりたいと思うことをすることは不可能である。	1	2	3	4
(7) 自分のやっていることから満足感を得られていると思う。	1	2	3	4
(8) 自分の健康状態のため、自分のやりたいことをすることは不可能である。	1	2	3	4
(9) 金銭的な事情のため、自分のしたいことをすることは不可能である。	1	2	3	4
(10) 毎日が楽しみである。	1	2	3	4
(11) 自分の人生に対して生きがいを感じる。	1	2	3	4
(12) 自分がしていることを楽しんでいる。	1	2	3	4
(13) 周囲の人たちとの親交を楽しんでいる。	1	2	3	4
(14) 自分の歩んできた人生を振り返ってみてどちらかというと幸せな人生だと思う。	1	2	3	4
(15) 最近エネルギー満々である。	1	2	3	4
(16) 今までやっていなかったことを進んでやっている。	1	2	3	4
(17) 自分の人生の成り行きに満足している。	1	2	3	4
(18) 人生には沢山の機会があると思う。	1	2	3	4
(19) 自分の将来の展望は望ましいと思う。	1	2	3	4

質問内容	回答（当てはまる数字に○）
(20) ご自身の健康や生活にさまざまな問題があつても、自分は活動的な生活を送っていると思いますか？	1. 強く、そう思う 2. おおむね、そう思う 3. ある程度、そう思う 4. あまり、思わない 5. まったく、思わない
(21) ご自身がより活動的な生活を送るための意思決定は、自分でどれだけできていると思いますか？	1. 十分に、できている 2. かなり、できている 3. そこそこ、できている 4. あまり、できていない 5. まったく、できていない
(22) ご自身がより活動的な生活を送るための取組は、自分でどれだけ実行できていると思いますか？  ※ ここでの取組とは、身体づくりや、必要となる手助け・道具・手段の手配や調整を指します。	1. 十分に、できている 2. かなり、できている 3. そこそこ、できている 4. あまり、できていない 5. まったく、できていない
(23) ご自身の思いや希望をどれだけ他者（家族・支援の専門家を含む）に伝えられていると思いますか？	1. 十分に、伝えられている 2. かなり、伝えられている 3. そこそこ、伝えられている 4. あまり、伝えられていない 5. まったく、伝えられていない
(24) ご自身の健康や生活をよりよくするための情報をどれだけ得られていると思いますか？  友人や隣人、テレビなどから得た情報も対象となります。  ※ ここでの情報とは、医療的な情報や、日々の生活や活動に役立つさまざまな情報を指します。	1. 十分に得られている 2. かなり得られている 3. そこそこ得られている 4. あまり得られていない 5. まったく得られていない
(25) あなたは、現在どの程度幸せですか  (「とても不幸」を「0」、「とても幸せ」を「10」として、該当する番号に○を付けてください)	



→裏面にもご回答ください。

	質問内容	回答（当てはまる数字に○）	
		はい	いいえ
活動	(28) バスや電車を使って1人で外出できますか？	1	2
	(29) 日用品の買い物ができますか？	1	2
	(30) 自分で食事の用意ができますか？	1	2
	(31) 請求書の支払いができますか？	1	2
	(32) 銀行預金・郵便貯金の出し入れが自分でできますか？	1	2
	(33) 年金などの書類が書けますか？	1	2
	(34) 新聞を読んでいますか？	1	2
	(35) 本や雑誌を読んでいますか？	1	2
	(36) 健康についての記事や番組に興味がありますか？	1	2
	(37) 友だちの家を訪ねることがありますか？	1	2
	(38) 家族や友だちの相談にのることができますか？	1	2
	(39) 病人を見舞うことができますか？	1	2
	(40) 若い人に自分から話かけることがありますか？	1	2
	(41) 毎日の生活に満足していますか？	1	2
健康管理	(42) 每日の活動力や周囲に対する興味が低下したと思いますか？	1	2
	(43) 生活が空虚だと思いますか？	1	2
	(44) 毎日が退屈だと思うことが多いですか？	1	2
	(45) 大抵は機嫌よく過ごすことが多いですか？	1	2
	(46) 将来の漠然とした不安に駆られることが多いですか？	1	2
	(47) 多くの場合は自分が幸福だと思いますか？	1	2
	(48) 自分が無力だなあと思うことが多いですか？	1	2
	(49) 外出したり何か新しいことをするより家にいたいと思いますか？	1	2
	(50) 何よりもまず、もの忘れが気になりますか？	1	2
	(51) いま生きていることが素晴らしいと思いますか？	1	2
	(52) 生きていても仕方がないと思う気持ちになることがありますか？	1	2
	(53) 自分が活気にあふれていると思いますか？	1	2
	(54) 希望がないと思うことがありますか？	1	2
	(55) 周りの人があなたより幸せそうに見えますか？	1	2

⇒調査は、以上です。ご協力ありがとうございました。

## 第2章 【調査2】利用者への移動支援の機能に関するヒアリング調査

### 第1節 実施方法

#### 概要

移動支援がどのような機能を持ち、どのようにして効果が得られるか、高齢者の移動支援の実について、利用者や活動団体や関係者のヒアリング調査を行う検討会議を通じて分析し、介護予防に資する移動支援の具体的な機能を明確にする。

#### 選定基準

効果が見られる事例を「対象者を特定団体の利用者のみならず、地域の介護予防や生活支援、さらには社会参加が必要な高齢者全般とし、そのカバー率※を上げるために行政内の関係部局とともに地域の高齢者支援団体等と連携しながら、社会参加や生活支援等の取り組みと関連させた形で展開している移動支援活動」と仮定し、以下に沿って把握済み事例の中からヒアリング先を選定した。

※カバー率：カバーレッジ。対象範囲の人口に対する網羅率

- ① 「一団体の単独の活動ではなく、多様な組織等と連携した活動として展開されている」
  - ② 「社会参加の意義や連携組織の連携スタンスを相互に把握・理解できている」
  - ③ 「高齢者支援担当課や地域交通担当課などの行政セクターが関与している」
  - ④ 「移動支援活動が地域に広く認知されている、そのための努力がなされている」
  - ⑤ 「社会参加や生活支援につながり、介護予防的効果がうかがえる利用者がいる」
- という5つの条件を満たす活動とする。

上記条件の意図するところは、以下の通りである。

- ① 介護予防の効果を上げるには、社会参加を含む一次予防、二次予防、重度化予防としての三次予防を地域をベースに同時に展開することが重要となるため、一団体の活動ではなく、多様な組織の連携によるカバー率の高い包括的、重層的な取り組みが必要である。
- ② 介護予防やQOL向上というゴールを共有するため、連携先と社会参加の意義やそのための役割・機能を相互に把握・理解しておくことが必要となる。
- ③ 住民主体の移動支援活動の質・量を担保するためには、予算の確保や事業・条例などの整備といった環境整備が欠かせず、また移動支援サービスが必要な高齢者の把握や地域交通関連事業との整合性や連動性の担保のため、行政の高齢者支援および地域交通の担当課などとの連携が不可欠である。
- ④ 住民主体の移動支援活動の質・量が担保されるには、活動を直接的に支える担い手の確保と、地域の関係団体等の協力が不可欠であり、そのためには移動支援活動そのものが地域に周知・認知されている必要がある。
- ⑤ 活動団体等との信頼関係と、地域の多様な団体間の連携によって、必要な社会資源や社会参加につながることが介護予防の効果を高めると考えられる。その経時的な変化が主観的にうかがえる事例を把握していると思われる。

## 聞き取り先

- 佐賀県小城市（小城市支え合いセンター）  
 静岡県函南町（函南町社会福祉協議会「かんなみおでかけサポート」）  
 埼玉県飯能市（NPO法人 奥武蔵グリーンリゾート）  
 島根県美郷町（NPO法人 別府安心ネット）  
 神奈川県秦野市（とちくぼ買い物クラブ、おたすけ隊）  
 埼玉県東秩父村（NPO法人 ふれあいやまびこ会）  
 追加：千葉県松戸市（河原塚ことぶき会、小金原地区会）  
 追加：三重県名張市 地域包括支援センターのみ

上記の選定基準に沿って6地域のヒアリング調査を行っていたが、市町村の施策づくりにおいて移動支援（を含む生活支援）の効果に着目している市町村として、2事例を追加した。

## 主な聞き取り項目

それぞれにヒアリングガイドを作成し、現地またはオンラインヒアリングで聞き取りを行った。ヒアリングは全員同時に実行したケースと、下記の立場別に行なったケースがある。聞き取り担当者は、調査研究委員会の委員2～3名。

- ・利用者：1～2名
- ・担い手（運転者）：1～2名
- ・団体の運営担当者 1～2名
- ・市町村の高齢福祉担当（地域包括支援センターまたは総合事業担当職員）

### <担い手向け>

- ・移動支援活動を始めたきっかけ
- ・移動支援の担い手としての活動の概要
- ・移動支援の担い手の健康づくりや介護予防効果
- ・地域に対する意識の変化
- ・今後の移動支援や担い手の活動について

### <行政向け>

- ・個別及び全体的な効果
- ・活動団体や地域包括支援センター、社会福祉協議会等との連携
- ・取組の継続に向けた今後の課題

### <利用者向け>

- ・移動支援の利用のきっかけ
- ・利用している移動支援の概要
- ・移動支援に伴う本人の効果
- ・移動支援に伴う家族等への効果
- ・地域に対する意識の変化
- ・これからの中間支援活動に期待すること

### <団体向け>

- ・団体及び移動支援活動の概要
- ・利用者に見られる介護予防的な効果
- ・利用者に関わる際に意識していること
- ・結果として介護予防等を可能とする基盤整備的な機能
- ・地域包括ケアシステムの一端を担う機能
- ・介護予防効果を上げるために今後必要と思われるること

## 調査結果

利用者：行動範囲の拡大、生活リズムができる、会話の増加等、身体、心理、会話、社会参加などの面で変化が表れていること、移動支援は受け入れられやすい面があり、これを入り口としてほかの支援につながりやすくなっていることがわかった。

担い手：身体活動量の増加、体調管理の励行、人脈の広がり、地域貢献の意識ややりがいの向上など、身体・心理・社会参加の面で変化が表れていることがわかった。

具体的な変化が見られた事例のうち、特徴的なエピソードをまとめました。

## 1 利用者の効果

個別ケース

### 移動支援は受け入れられやすい

#### ●認知機能低下が目立つ要支援1の女性

ケアへの拒絶感が大きいことから、地域包括支援センターが「居場所のお手伝い」として、まず移動支援の利用を勧めたところ、デイ（通所A）とは別に、コミュニティカフェを移動支援で利用するようになった。事前連絡や外出等により生活にリズムができるとともに、居場所で顔見知りとの会話、交流を楽しみ、表情が明るくなって、娘への不穏な連絡もなくなるなど、状態も落ち着いてきた。病識がなく、かかりつけ医もないでの、放置されていれば間違いなく症状が悪化し、すぐに施設入所していたレベルなので、財政効果も大きい。利用開始半年後のチェックでは、ADLも認知機能も維持されていた。娘も、居場所や近隣、専門機関などに見守られていることを喜んでいる。

### 孤立対策

#### ●夫の遺品整理で依頼が入った孤立気味の女性

同年代の担い手とのかかわりの中で、会話・交流が大事と自覚し、外出するようになり、付添支援（移動支援）を使いはじめた。表情が見違えるようになり、一年ほど経って、生きがいデイも利用するようになった。近隣との付き合いがなお少ないが、ゴミ出しなどの生活支援のほか、買い物支援や100歳体操（一般介護予防事業）なども利用するようになった。孤立気味だったが、明るく前向きになってきた。

### 移動支援を入り口にほかの支援につなげやすい

#### ●要介護の妻と介護する夫の老夫婦のケース

介護保険の利用を拒絶していたが、通院に移動支援を使い、院内の付添や会計の援助等も頼まれるようになり、担い手および団体への信頼感が高まって、掃除やごみの分別・ごみ出し等の生活支援や介護保険サービスの利用にも拡大した。

### 誘い出しの機能

#### ●認知機能低下が疑われる女性

前日に通院の準備をし、医師に確認するメモまでつくるものの、当日になって気持ちが萎えてしまう場合がしばしばあるが、担い手が迎えに来て、いざ外出すると、気持ちが晴れ、外出を楽しむことができる、というケースが少なくない。誘い出し機能が、重要である。

利用者からすると、移動支援には誘い出され、ほだされて外出する、という利点がある。

### QOLおよび財政面の効果

#### ●町外医療機関に通院していた統合失調症患者の男性利用者

運転に不安を感じ、通院および買い物に移動支援を利用するようになった。その後、要介護状態の母親の通院にも、移動支援を利用はじめた。移動支援の担い手が唯一の相談先（行動の規範）となり、表情が劇的に明るくなった。以前は、入退院を繰り返していたが、担い手等とのつながりを介し、精神的に安定した。母親にはパーソナル障害等があり、孤立した世帯だったが、介護・医療にもつながった。

## 2

## 利用者の効果

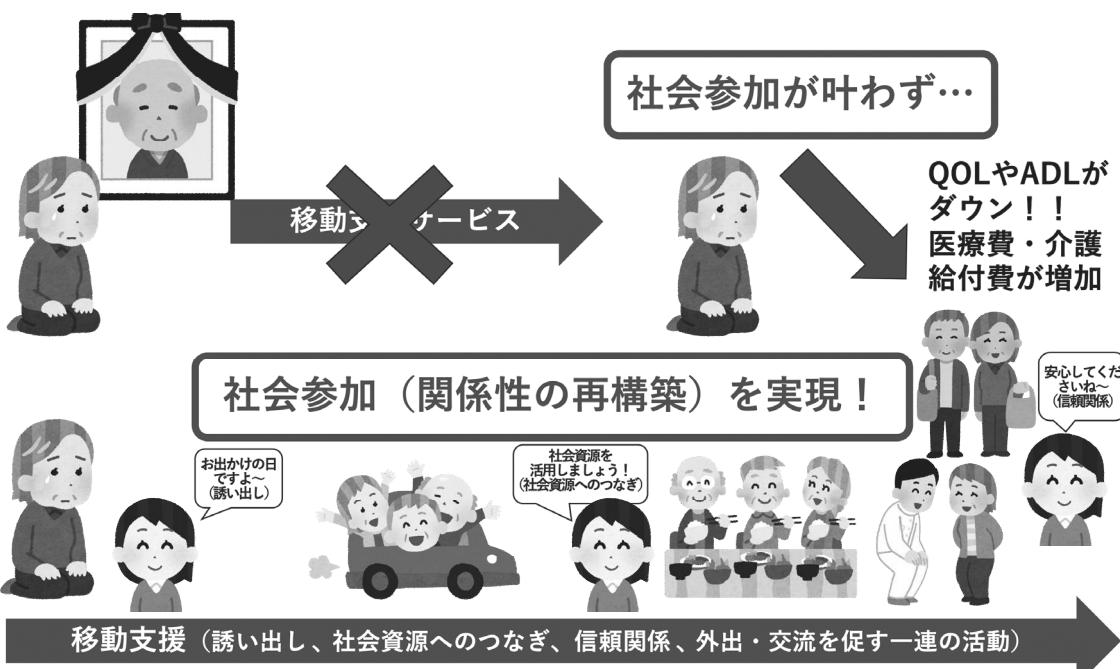
全体

身体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サロン後に買い物に寄るなど行動範囲が拡大した。</li> <li>・地域の足ができたことで、介護予防教室の新規参加者が増えてきた。</li> </ul>
心理認知	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車窓の景色でも気持ちが晴れる。・買い物がストレス解消になっている。</li> <li>・買い物代行もあるが、とくに女性は自分で選びたいとし、移動支援・付添支援のニーズが高い。</li> <li>・移動支援のある日には、きちんと支度をして待つなど、生活リズムができる。</li> <li>・独居ケースに定期的に移動支援等が入ることにより、部屋を片付けるようになり、居住環境が改善する効果が見られる。</li> </ul>
会話	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車中での会話量が増える。とくに独居者で顕著。・買い物後もベンチで会話に興じている。</li> <li>・「一週間分の会話ができた」といった声が聞かれる。</li> <li>・宅配も利用するが、宅配には会話がないので、買い物クラブを唯一の会話の機会として利用している。</li> </ul>
社会参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>・孤立しがちな高齢者のサロン利用が実現し、交流等で前向きになった。・服装にも変化が。</li> <li>・地区行事等への参加も増え、閉じこもり予防になっている。</li> <li>・移動支援や生活支援の利用で介護保険サービスへの移行がブロックできている、と行政は感じている。</li> <li>・付添があり、家族が安心して送り出せるようになった。</li> </ul>

## 3

## 担い手の効果

身体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早起きするなど生活リズムが整った。・日中の身体活動量が増えた。</li> <li>・日頃、ウォーキングをしたり、疲れを残さないように体調管理に気を配るようになった。</li> <li>・手術した際には、待っている利用者がいるので、早く復帰しなければと思った。</li> </ul>
心理認知	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適度な緊張感があり、刺激になっている。</li> <li>・利用者のスケジュール管理などで頭を使うようになった。</li> <li>・車中での会話に備え、時事問題やニュースを頭に入れるようになった。</li> </ul>
社会参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人脈・知り合いが増えた。・感謝されるので、やりがいがある。</li> <li>・助けたいという使命感と愛が原動力になっている。</li> <li>・協議体にも参加し、地域課題を知り、課題解決の役に立っていると思うと、「やって良かった」と思う。</li> <li>・利用者が明るく元気になると、嬉しく思う。</li> <li>・当初、利用者のことは近所の顔見知り程度の認識でしかなかったが、今では家族のような気持ちで、欠席などどうしたのか気になるようになった。地域全体の見守りも、気にするようになった。</li> <li>・地域により関心を持つようになった。・期待され、地域貢献の意識が高くなった。</li> </ul>



## 4

## 波及効果

～移動支援が社会資源の拡大・充実のきっかけに～

- ・地区内で**産直野菜の直売所がスタート**し、最近はこの直売所の後にスーパー・マーケットに行くようになった。
- ・取り組みの趣旨が理解され、特養の法人送迎バス（1日7便）が**移動困難者の乗車**を認めてくれるようになり、駅まで乗車可能となった（34人が利用）。
- ・個人的な移動支援や老人会の買い物代行の取り組み、スーパー・マーケットやコープ、「とくしま」の移動販売などに波及し、地域が活性化してきた。
- ・買い物支援協力店（宅配、休憩所）などの開始にもつながった。



移動支援の取り組みでは、  
個人レベルのソーシャルキャピタルが地域へ広く波及し、  
関係者や地域の協調行動を生む創発現象が見られる。

## 5

## 移動支援の機能

- 利用者同士
- 必要なサービスや支援策
- 専門職・専門機関
- 行政

をつなぐ機能を有する

- ・むずかしい利用者が多く、マンツーマン送迎が基本だが、関係性ができると、同じ店に行く利用者同士に声を掛け、同乗を促すこともある。それがきっかけで、今では友人関係に発展したケースもある。その後、2人で買い物をするようにし、お茶も楽しんで帰るようにしている。花見がしたいという声を聞けば「ピクニックをしようか？」と提案するなど、関係性づくりが意識されている。利用者は遠慮するため、提案すると、「待ってました！」という反応を示す。遠慮させない関係性の構築が重要だ、と扱い手は考えている。

- ・利用者の日々の変化を把握し、専門職や扱い手同士で情報を共有

利用者に変化が起きたことは、  
移動支援サービスのどのような機能によるものか、  
個人レベルと地域レベルでそれぞれ3つに整理しました。

### 誘い出し機能

生活機能や認知機能などが低下し始めた段階で、地域へ誘い出す機能。定期的な誘い出しが、自己効力感を高め、モチベーションを維持しつつ、通いの場などの社会参加を継続させる。

### 社会資源につなぐ機能

信頼関係にもとづき、生活支援サービスなどの必要な社会資源の活用を促す機能。当事者と専門職や専門機関等との仲立ちをし、社会資源につなぐ移動支援を行なながら、介護予防効果が高い社会参加を確実に支える。



### 信頼関係の構築機能

諦めていた移動が叶うだけでなく、車中で緊密な空間と時間を共有するという特性を活かし、比較的短期間で信頼関係を構築する機能。「行動の規範」的な存在となる。

3つを  
あわせると…

### 社会参加の基盤として機能

行政や専門職からも期待が高まりつつある機能

### 地域包括ケアシステムの一端を担う機能

定期的に接するため、時系列の小さな変化に気づきやすく、異変を超早期に専門職等につなげられる機能。認知機能が低下した利用者の車中での様子などから、体調の悪化を察知し、服薬忘れを専門職に伝え、悪化を予防した事例がある。

### 関係団体や行政などを緩やかにつなぐ連携・ハブ機能

活動団体の代表などが、縦割りの行政組織をつなぎだり、地域内の必要な活動団体等とつながるなどして、連携やハブの役割を果たし、地域全体のカバー率を上げる機能。



### ソーシャルキャピタルの醸成機能

公共交通の撤退等による不安を移動支援という地域へのアピール効果の高い活動によって解消しつつ、支え合いの必要性をデモンストレーションし、ソーシャルキャピタルを醸成する機能。その高まりにより、個人レベルの予防とともに、新たな担い手の確保や地域の活性化などにも好影響を与える。

機能が効果を發揮するまでの流れをまとめました。

## 個人レベルの機序(仮説)

移動支援

声掛け、誘い出し  
必要な社会資源への  
つなぎ

信頼、モチベーション  
の維持・向上

うつ傾向が強まったり、認知機能等が低下するなどして主体性や、外出・交流の意欲が弱まるため、とくに誘い出し機能・信頼性が重要！

ソーシャルネットワークが構築・維持され、通いの場などの楽しい場への参加、交流を担保

身体的アプローチ  
+  
認知的アプローチ

くらしが維持・改善される

\* 信頼できる人がいる、顔見知りがいる「楽しい場」を選択するため、デイサービスに行かなくなり、介護給付費等が浮く

人は、人に上手に依存することで自立できる

車内という密室で、時間と空間を共有するため、短期間で関係性が構築される!?

担い手が、そのバックに存在する専門職とともに、利用者の「行動の規範」となっている!?

※行動の規範：個人が行動を決める際に影響を与える人

## 地域レベルの機序(仮説)

移動支援団体

移動支援サービスによって、点でしか機能していなかった各社会資源が、結果として有機的に結びつき、社会参加や居場所などの選択肢・利用機会・連携機会が増える。  
⇒連携・ハブ機能

・公的セクターが左記を支援するパブリックな仕組みや対策を整え、それを公的に強化する。  
・有機的につながった各機関・団体などの関係者が利用者の状態の変化に早期に気づき、連携先に早期に伝える地域包括ケアシステムの一端を担うようになる。  
⇒カバー率向上

・社会参加しやすい環境や、高齢期に入ったらむしろ積極的に外出・交流をすることが重要だという風土を育む。地域内の各リソースが同じベクトルに乗り、「総力戦」の体制ができる。  
⇒環境整備

地域内の各リソースが同じベクトルに乗り、「総力戦」で課題解決に向かうことが必要。移動支援サービスは、そのきっかけづくりを担っている!?

・移動支援サービスの創出は、公共交通や各種の社会資源撤退、移動の困難さの切実感等といった地域のマイナス面を解消し、希望を与える。また、その活動そのものがデモンストレーションとなり、自地区にもほしいという要望を生み、実現に向けた活力等を与える。地域は信用できる存在だ、というソーシャルキャピタルを醸成する。  
⇒ソーシャルキャピタルの醸成機能

多くの対象者が色々な恩恵にあずかる地域になる

※カバー率：カバレッジ。対象範囲の人口に対する網羅率

## くらしの維持

- ・見守り
- ・支え合い

### 関係性づくり

信頼や支え合いのための関係性づくり、社会参加の実現、困り事の解消、担い手の継続的な確保。

- ・セクターやリソースの有機的な連携
- ・持続可能性

地域活性化、社会保障費などの健全化

この辺りが、  
運ぶだけの交通事業者と  
住民主体の移動支援の  
相違点ではないか

### ソーシャルキャピタルの醸成

#### ハブ



#### 連携



## ヒアリングレポート

名 称	①とちくば買い物クラブ、②送迎ボランティアおたすけ隊 (秦野市: 16万人)	区分	許可・登録不要の運送、一般介護予防事業
範 囲	①折笠地区内（自民会館）から市内のスーパーヤオコ一秦野店 ②大根・鶴巻地区から周辺の医療機関やスーパー等		
担 い 手	①折笠地区7人 ②大根・鶴巻地区7人 (地域支えあい認定ドライバー養成研修で累計215人養成)	利用者 ①折笠地区13人（8人独居） ②大根・鶴巻地区の70歳以上で公共交通機関の利用に身体的負担が大きい人	実績
事 業	①とちくば買い物クラブ（2018年～、スーパーマーケットなどに複数で乗り合わせて向かう集団送迎型） ②送迎ボランティアおたすけ隊（2021年～、通院や買い物を中心にもマントルマンで送迎する個別送迎型）		
活動概要	●きっかけは、①市政懇談会で、買い物困難なので移動販売をとの声が上がり、とくに困っていた折笠地区に公用車の無償貸し出しを提案し、実現（現在は法人車両を使用）。②地域支えあい認定ドライバー養成研修了者同士で地域の高齢者が困っている現状を何とかしたいと会を結成●①利用者は待ち合わせ場所に集合。運転者とサポートナー（2人一組）は、ワゴン車で利用者をスーパーマーケットのあるモールに連れて行き、買い物後は待ち合わせ場所で解散。②ボランティアがマンションで買い物や通院の送迎をする形式。●ボランティア保険や消耗品は、一般介護予防事業の補助金を活用。		
企 画	●担い手募集の周知については、市報などのほか、介護保険証や介護保険料納付決定通知の郵送時にチラシを同封し、行っている。		
般 ヒ ア リ ン グ 事 例	●独居者の利用が多く、往復の車中も会話が絶えない。●宅配も利用するが、宅配では会話がないので、買い物クラブを唯一の会話の機会として利用している。●買い物後もベンチで会話を興じている。●服装にも変化がある。		
介 護 予 防 的 な 効 果	●利用を重ねる中で魚が好きだとわかり、「魚屋に行ってみようか？」と声を掛けたところ、「待ってました！」という反応があり、態度や表情が激変した。●夫婦でデイや外出を拒否していたが、いずれも利用するようになつた。 ●効果がありそな人は、独居もしくは高齢者のみ世帯、買い物の手段がない人。とくに後者は意欲につながる可能性が高い。 ●移動支援は、単なる生活支援ではなく、「関係性の構築」であると認識できてきた。		
特 記 事 項	●明日は我が身と思い、体を鍛えるようになり、買い物等の待ち時間になるべく歩くようになつた。●健康管理を意識するようになり、買い物等の待つ時間になるべく心掛けようになつた。 ●車で外出の支援をしているだけだが、車窓を見て喜んでくれるので、頑張らねばという意識になる。●感謝されるので、やりがいがある。●助けたいという使命感と愛が原動力。●手術した際には、待っている利用者がいるので、早く復帰しなければと思った。●近所の人の買い物をついでにしている感覚で、負担感はまったくない。●当初、利用者のことは近所の意見知り程度の認識でしたが、今では家族のような気持ちで、欠席だとどうしたのか気になるようになつた。地域全体の見守りも、気にするようになつた。		

名称	NPO 別府安心ネット（島根県美郷町：人口 4,517 人） 2012 年～		
範囲	町内および町外（交通空白地有償運送、福祉有償運送、介護予防・生活支援総合事業の訪問系サービス B・D を組み合わせた移動サービスを展開）		
担い手	理事長を含む 6 人 + コーディネーター 1 人	利用者 別府連合自治会（138 世帯、338 人） + 町内高齢者等	区分 空白地有償運送、福祉有償運送、訪問 B・D（総合事業）
事業補助等	● NPO 活動支援の条例制定 ● 共育ツーリズム事業（農業体験、農村ウォーク） ● 生活サポート事業（草刈り、農作業の支援、生活弱者への支援） ● NPO 活動支援や有償運送事業等の補助金 ● NPO 活動支援の「集落支援員」や役場職員等の「地区担当制」等の人的支援 ● 社会勤務経験者等の「地域コミュニティ計画」へ位置づけ、活動の継続を担保	● 軽度生活支援事業（小さな拠点づくり） ● 6 次産業研究事業（要支援高齢者等の買い物・通院等の付添、家の掃除など） ● 車両の無償貸与、メンテ費の公的負担 ● 移動支援を「地域コミュニティ計画」へ位置づけ、活動の継続を担保	● 空白地有償 146 人 福祉有償 732 人 訪問 D751 回 訪問 B588 回 *年間 850～900 人 実人数 332 人
活動概要	● 美郷町は、高齢化率が 47.4% と高く、交通不便地域が 12 地区もある。そこで、移動支援や生活支援、サロン活動等を行いう別府安心ネットをモデルと位置づけ、横展開が図られた。その結果、ほかの連合自治会エリアでも、一般介護予防事業を使つたサロン運営や生活支援サービスとともに、域内限定の空白地有償運送や、登録不要の公共交通計画にも、別府安心ネットが運動し、広域的な移動支援ネットワークが出来上がってきた。 ● 地域公共交通の基盤の一つとして、公共交通と横並びで明記された。	● サロン後に買い物に寄るなど行動範囲が拡大した。 ● 車中での会話が増え、「一週間分の会話ができる」といった声が聞かれる。 ● 孤立がちな高齢者がサロン利用を介し、前向きになった。 ● 地区行事等への参加も増え、閉じこもり予防になっている。 ● 独居ケースに定期的に移動支援等が入ることになり、部屋を片付けるようになり、居住環境が改善する効果が見られる。 ● コロナ禍で町外からの家族のサポートが減った分、通院や買い物等の新規の利用者、件数がともに増加している（コロナ禍の移動・外出の機会を担保）。	● 孤立がちな高齢者が安心して送り出せるように
介護予防的な効果	● 町外医療機関に通院していた統合失調症患者の利用者は、運転に不安を感じ、通院および買い物に移動支援を利用するようになった。その後、要介護状態の母親の通院にも移動支援を利用。移動支援の担い手が唯一の相談先（行動の規範）となり、表情が劇的に明るくなった。以前は、入退院を繰り返していたが、担い手等とのつながりを介し、精神的に安定した。母親にはパーソナル障害等があり、孤立した世帯だったが、介護保険や医療にもつながった。 ● 要介護の妻と介護する夫の老夫婦のケースでは、介護保険の利用を拒絶していたが、通院に移動支援を使い、院内の付添や会計の援助等も頼まれるようになり、団体への信頼感が高まって、掃除やごみの分別・ごみ出し等の生活支援や介護保険サービスの利用にも拡大した。 ● 利用者の効果の理由として、会話・コミュニケーションの増加が寄与している、と専門職は見ている。	● 町外医療機関に通院していた統合失調症患者の利用者は、運転に不安を感じ、通院および買い物に移動支援を利用するようになった。その後、要介護状態の母親の通院にも移動支援を利用。移動支援の担い手が唯一の相談先（行動の規範）となり、表情が劇的に明るくなつた。以前は、入退院を繰り返していたが、担い手等とのつながりを介し、精神的に安定した。母親にはパーソナル障害等があり、孤立した世帯だったが、介護保険や医療にもつながつた。 ● 要介護の妻と介護する夫の老夫婦のケースでは、介護保険の利用を拒絶していたが、通院に移動支援を使い、院内の付添や会計の援助等も頼まれるようになり、団体への信頼感が高まって、掃除やごみの分別・ごみ出し等の生活支援や介護保険サービスの利用にも拡大した。 ● 利用者の効果の理由として、会話・コミュニケーションの増加が寄与している、と専門職は見ている。	● 早期するなどリズムが整った ● 日中の身体活動量が増えた ● 地域により関心を持つようになった ● 頭を使うようになつた ● 人脈・知り合いが増えた ● 運転により関心を持つようになった ● 地域により関心を持つようになつた ● 運転に配慮し、健健康管理に気をつけるようになった ● 期待され、地域貢献の意識が高くなつた ● 利用者のスケジュール管
困難事例	ハイリスク困難事例	● 移動支援は一次・二次・三次予防の各レベルで有益。また、個人のソーシャルスキルが地域へ広く波及し、協調行動を生む創発現象が見られる。 ● 個人的な移動支援や老人会の買い物代行の取り組み、スーパーマーケットやコーフィードバックにより、さらなる促進が図られている印象。	
担当手	● 行政が効果をはかるため数値を押さえており、そのフィードバックにより、地域貢献の意識が活性化してきた。		
特記事項	● 高齢化の進展に拘わらず、要介護認定率は 21.4% (H27) ⇒ 19.9% (H28) ⇒ 19.8% (H29) ⇒ 19.1% (H30) ⇒ 18.9% (R1) と横ばい、給付費も減少。 ● 閉じこもり高齢者の割合は 33.3% (H29) ⇒ 29.9% (R2) 減少。認知機能低下の高齢者の割合も 51.6% (H29) ⇒ 49.5% (R2) と減少。		

名 称	小城市支えあいセンター（佐賀県小城市：4万5000人）2020年～			区 分	許可・登録不要の運送、訪問B（総合事業）
範 囲	付添い支援（通院・買い物）の範囲は市内および近隣市町村				
担 い 手	58人うち付添い支援の相い手は6人（運転者講習は自動車教習所の協力で実施）	利用登録者数84人うち、付添い支援利用者は15人	利用登録者数84人うち、付添い支援利用者は15人	実績	付添い支援令和2年度53件 令和3年度54件
事 業 活 動 概 要	<p>●買い物代行支援 ●ゴミ出し支援 ●車中の会話量が増える。とくに独居者で顕著。</p> <p>●移動支援や生活支援の利用で介護保険サービスへの移行がブロックできている、と行政は感じている。</p> <p>●移動支援利用者の女性では、前日に通院の準備をし、医師に確認するメモまでくるものの、当になつて気持ちが萎えてしまう場合がしばしばあるが、相い手が迎えに来て、いざ外出すると、気持ちは晴れ、外出を楽しむことができる、というケースが少くない。誘い出し機能が、重要なようになります。</p> <p>●夫の遺品整理で依頼が入った孤立氣味の女性のケースでは、同年代の相い手とのかわりの中で、会話・交流が大事と自覚し、外出するようになります。</p> <p>●夫の生活支援のほか、買い物支援や100歳体操（一般介護予防事業）なども利用するようになつた。孤立氣味だったが、明るく前向きになつた。</p> <p>●脳血管障害のリハ通院のために移動・付添支援を利用する80歳代女性のケースでは、失語症の後遺症を受容できず、外出・交流を控えていたが、信頼する生活支援コーディネーターの勧めで種々のサービスを使いつつ、少しづつ前向きになつてきた。失語症も改善してきたため、近所の知り合いと話すなど、気持ちもかなり前向きになつてきた。夫や家族の支えのほか、外部の支援が入るようになり、通院等のタクシーなど経済的にも助かっているという。ただし、付添支援等の相い手が毎回違う人なので、気を使つてしまふ。同じ人が来てくれれば、人間関係ができる嬉しいのだが、残念に思う、と話していた。</p> <p>●移動支援の際には、適度な緊張感があり、刺激になっている。 ●日頃、ウォーキングをしたり、疲れを残さないように体調管理に気を配るようになると、嬉しく思う。</p> <p>●協議体にも参加し、地域課題を知り、課題解決の役に立つてほしいと思うと、「やって良かった」と思う。利用者が明るく元気になると、嬉しく思う。</p> <p>●利用者のためにも元気で長く続けたいと思うようになつた。</p>				
介護予防的な効果	ヒアリング事例	担当手	特 記 事 項	<p>●当初は、利用申請が少なかつたため、生活支援コーディネーターが訪問し、独居や孤立などの要因があると認識した場合、利用を積極的に勧めた。</p> <p>●次第に、民生委員等が移動ニーズを把握し、ケアマネや包摺に情報を上げるケースが増えてきた。最近は、周知も進み、本人の申請も増加傾向。</p> <p>●相い手はプライベートに立ち入らないよう意識しているが、慣れてきたら心身の状態を把握し、地域包括支援センターに報告するようにしている。</p> <p>●生活支援コーディネーターは、移動支援を人の交流・会話を増え、元気になっていく、と感じている。</p> <p>●保健師の担当課長が戦略的、積極的に意形成し、ヘルスプロモーション的につくり上げている印象。買い物支援協力店（宅配、休憩所）なども開始した。</p> <p>●相い手は利用者との距離をとっているが、生活支援コーディネーターの信頼が厚く、利用者の「行動の規範」となっており、利用に結びついている印象。</p>	

名 称 範 囲 担 い 手	NPO 法人 奥武藏グリーンリゾート（飯能市:人口 8 万人）2018 年～		
飯能市吾野地区および東吾野地区内、同地区内から市内他地区（旅客の範囲：吾野・東吾野地区住民の登録者、および観光客等） * 吾野・東吾野地区人口：3,500 人	公共交通空白地有償運送、一般介護予防事業（送迎委託）		
事 業 活 動 概 要	10 人	利用者	【公共交通空白地有償運送】登録者約 200 人（3km 未満 500 円、以降 1 km 每 100 円増。タクシーの半額程度） 【送迎委託】登録者 22 人（吾野地区 11、東吾野地区 11 人）
介 護 预 防 的 な 効 果	● 運転ボランティア支援事業 「奥武藏らくらく交通」 ● ハイキングコース整備事業 ● NPO 奥武藏グリーンリゾートが運営する移動支援。地域福祉をつくる市民懇話会から活動組織が生まれ、地域の「茶の間」（介護予防体操やカラオケ、落語などを実施する居場所）や無料送迎の「らくだ号」での買い物ツアーや無料送迎する「茶の間」「買い物ツアーや無料移動手段（所管は市社会福祉協議会ふくしの森ステーションあがの）で、そのほとんどのドライバーは「奥武藏らくらく交通」のドライバーが担っている。	● 森林整備事業 ● レクリエーションイベント支援事業 ● 河川保全事業	令和 3 年度実績 【公共交通空白地有償運送】輸送回数 967 回 輸送人員 1,278 人 【送迎委託】講座 37 回実施（毎回送迎利用あり）
担 い 手	金 般	● 高齢の利用者は、地区に 4 つある「茶の間」や介護予防教室、買い物等を利用するケースが多い。 ● 移動支援のある日には、きちんと支度をして待つなど、生活リズムができる。 ● 地域の移動手段ができることで、介護予防教室の新規参加者が増えている。	● 90 歳代の利用女性は、市の介護予防教室（月 2 回）に参加するため、移動支援を利用。以前は、自分で運転し、グラウンドゴルフなどを行っていたが、加齢を理由に辞め、免許も返納した途端に杖を要する状態となり、地域包括支援センターの勧めで介護予防教室に参加することにした。教室参加者は、「かつて「茶の間」（域内 4 か所）で過ごした知り合いばかりなので、とても楽しく過ごすことができる。また、買い物については、息子が毎週、必要なものを買ってきてくれるが、たまには自分で選ぴたいので、「らくだ号」の買い物ツアーや買い物ツアーモノも利用している。地域の老人会でも週 1 回、旧小学校に集まるが、その際には、近所の人の運転で足を運んでいる。いざれの車中でも、「山の中での暮らしで話す機会が非常に少ない中、たっぷりとおしゃべりができ、とても楽しい」と話している。昨年から教室に通いはじめ、通算 6 回参加し、表情も明るくなってきた。 ● 認知機能が低下した要介護 1 の後期高齢男性が、介護予防教室に参加するようになつた。送迎は「奥武藏らくらく交通」を利用している。参加日をカレンダーに記して楽しく参加している。
特 記 事 項	担 い 手	● 利用者への事前確認の連絡やスケジュール管理などで、それまで以上に頭を使うようになった。 ● 移動支援のドライバーのほかにも、地域の様々な役員をしており、忙しく過ごすことができている。自身は心臓の手術をして、障害年金を得ているため、ドライバーの役割を地域への恩返しとして捉えている。できる限り、体調管理をしながら続けたいと話す。	● 徒歩等で介護予防教室に通う人は、その日の気分で休むケースがあるが、移動支援の利用者の場合、誘い出され、まだされて外出するという利点がある。 ● ドライバー間でルール化はしていないが、車中で意識的にまちの状況などの会話を投げかけ、利用者からはとくに近況を聞くように心掛けている。
		● 利用者同士のネットワークも自然にできており、急なキャンセルの際には、別の利用者からドライバーに連絡が来ることもある。 ● 利用者が友だちを誘い、介護予防教室と移動支援につながったケースもある。担当保健師は、「ずっと誘っていたが、拒否してきた。しかし、知人が勧める利用に結びつくことが少なくない。ドライバーが一緒に迎えてくれることになり、参加が実現できた」と話した。	● ケアマネ、介護事業所、地域包括支援センターの連携が良く、要介護者の介護予防教室への参加が増えている。

名 称	かんなみおでかけサポート（函南町:人口3万7,000人）	2018年～	区 分	許可・登録不要、訪問D
範 囲	町内			
担 い 手	登録者数22人（片道100円の活動費支給） (壮年定期活躍プロジェクトで養成講座)	利用者 (会員登録料1000円／年)	利用会員18人 （会員登録料1000円／年）	実績 乗車数1026人、買い物ツアーレース505人、走行距離3427km
事 業 活 動 概 要	<p>●かんなみおでかけサポート（居場所送迎） ●居場所参加者向け買い物ツアーレース（居場所→買い物→居場所）</p> <p>●かんなみ暮らしおでかけサポート（住民主体の在宅福祉サービス、草取りなど、おでかけサポートの同乗など）</p> <p>●体制整備事業を通じ、人をつなぐ居場所づくりと移動支援をセットで整備。居場所送迎と、居場所参加者向け買い物ツアーレースを開催している。</p> <p>●買い物の付添の際には、店内にも付添い、付かず離れず、会話をしながら買い物することが多い。認知機能低下者では、商品の場所を忘れることも少なくない ので、誘導するなどサポートしている。</p> <p>●状態が把握しにくい独居者、交流不足や認知機能低下が疑われる高齢者を優先している。 ●利用者は、居場所の帰りに買い物によることが多い。 ●認知機能低下者にのみ、申し送りにもとづき、前日・当日に移動支援の利用確認と体調確認の事前連絡をし、居場所と相まって生活リズムができる。</p> <p>●人工股関節の術後、障害支援のホームヘルプを使っている利用女性は、「家にいてもつまらない」とコミュニケーションを楽しむと話している。＊生協宅配で買い物で移動支援を利用。送迎バス付の温泉施設等も利用するが、カフェのマスターや客、買い物での付添者との会話が「楽しい」と話している。</p> <p>●認知機能低下者が目立つ要支援1の女性では、ケアへの拒絶感が大きいことから、地域包括支援センターが「居場所のお手伝い」として移動支援の利用を勧め、ディ（通所A）とは別に、昨年11月から週1回、コミュニケーションを取るなど、状態も落ち込んでいる。居場所で顔見知りと会話するようにもなった。病識がなく、かかりつけ医もいないので、放置されていれば間違いなく症状が悪化し、すぐに施設入所していたレベルなので、財政効果も大きい。利用開始半年後のチェックでは、ADLも認知機能も維持されていた。居場所や近隣、専門機関に見守られていることを娘も喜んでいる。</p> <p>●別の認知機能低下者の女性のケースでは、買い物代行を依頼していたが、生活機能の低下を危惧して、移動支援（居場所参加者向け買い物ツアーレース）につなげた。すぐに受け入れられた。免許返納も済ませているため、コロナ禍でも、居場所が休みでも、買い物送迎は続けてほしいとの要望があった。</p> <p>●利用者から「会えるとホッとする」などと言われ、うれしいので、体調管理に気をつけるようになった。●利用者と関係性ができると、個人の携帯番号を教えて、ワクチン接種会場への付添など個人的な用事も受け取ることもある。●利用者や担い手を含め、知り合いが増えた。●利用者が通う100歳体操に付添い、自分も介護予防に努めようになった。●担い手同士で趣味の話をするなどの時間も楽しい。●週1日くらいの頻度の活動は他の趣味もできいい、</p> <p>●認知機能低下者の場合、通所A等の利用を拒絶するケースが少なくないが、移動支援からだと拒否もなく、利用につなげることができる利点がある。</p> <p>●利用者は、一定の距離感をとる担い手よりも、親しくかわてくれる担い手を望んでいることが多い。</p> <p>●移動支援の担い手には、日々関わる点から、日常のちょっとした変化を把握する機能を期待したい、と地域包括支援センターは考えている。</p> <p>●利用者の気持ちが萎えても、担い手が事前連絡をし、迎えに行き、外出を促すことにより、閉じこもり等を防ぎ、会話・交流を促すので、予防効果が大きい。</p>	介護予防的な効果	ヒアリング事例	担当手
特 記 項				

名称	NPO 法人ふれあいやまびこ会（埼玉県東秩父村：人口 2,569 人）	区分	空白地有償運送、福祉有償運送
発足年、法人設立年	2000 年、法人設立 2004 年		（交通空白地有償運送、福祉有償運送 2009 年～）
範囲	65 歳以上の場合：村外村内を問わず希望の場所へ、65 歳未満の場合：利用者自宅一和紙ごとに 250 円 利用料金：1km まで 290 円、以降 1km につき 65 円、待機料金 15 分ごとに 250 円		（8 時半～17 時）
担い手	6 名（交通空白、福祉有償とも） *平均年齢 68 歳（50 歳代 1 人）	利用者	利 314 名 (空白地 249 人、福祉有償 65 人)
事業	●家事援助サービス事業 ●高齢者向け配食サービス事業 ●高齢者向けミニデイサービス事業 ●障害者生活サポート事業 ●2020 年度は配食とミニデイ、そばうどん手打ち体験事業	実績	交通空白地有償運送（高齢者） 1,136 名（延べ） 福祉有償運送（障がい者等） 1,035 人（延べ）
活動概要	●一日の送迎件数は 7~8 件程。新型コロナ以前は一日 10 人以上で多い日は 40 人を数えた。利用者の大半が独居者で夫婦二人暮らししが続く。交通空白地有償運送の対象者が利用者の大半を占める。	全般	●介護保険を機に農協でホームヘルプが始まり、高齢者の通院送迎を担当ため、会員を会員が送迎する助け合いグループ「ふれあいやまびこ会」を設立。高齢者や身障者との送迎サービスに加えミニデイ、家事援助を開始。近年は、村からの要請もあり、介護予防教室の送迎を開始した。 農協を母体とした組織で、組合長が村長になつたことがあるなど村との関係も深く、福祉事業の多くを社協ではなくこの NPO が行っている。JA 埼玉中央ホームヘルプ東秩父が訪問介護事業を実施しており、ケアマネジャーとの連携、利用者の情報共有などもできている。
介護予防的な効果	●行きは、病院送迎が大半で複数乗車で対応することが多く、帰りは病院送迎がのほか、スーパーマーケット等からの個別送迎が中心になっている。 ●利用者同士は見知らぬ仲の場合は会話が盛んに行われている。予約電話でもおしゃべりが途切れず、会話の機会となっている。 ●元気でたくさん利用していた利用者が、入所や死亡等を理由に、減少してきた。	ヒアリング事例	●そうした中、地域包括支援センターと連携し、介護予防教室（こうばん教室、いきいきサロンなど）。ハイリスク者 3 回、ミドルリスク者 2 回）の送迎が増加。月 3 回、名簿が前日に届き、毎回 10 人前後の参加者を送迎している。当日朝、地域包括支援センターから乗車確認の連絡が来るなど連携も密。認知機能の低下など状態の変化も把握できるため、変化があれば、地域包括支援センターに状況報告をしている。行政の要請で、ワクチン接種時の送迎も行った。 ●団体の存在は村の広報等で周知されており、認知度が高い。免許返納をきっかけに利用希望が寄せられるほか、地域包括支援センターからの紹介もある。
問い合わせ手	●立ち上げメンバーとのつながりがあり、その熱意に共鳴して運転者になつていている人が多い。会社勤めの日数が減ったので、空いている日に運転者を引き受けている人もいれば、急な依頼にも応えられるよう事務所に待機するようにしている運転者もいて、それぞれが自分に合ったやり方をしている。 ●問い合わせ手は週二日勤務。送迎時にはとくに会話量が多い。話をしたい利用者が多いので、主に聞き役担っている。活動を通じ、知り合いが増えた。	問い合わせ手	●収入源は JA からの助成金（400,000 円）や利用料金、村から委託等（2020 年度：高齢者向け 553,000 円、障害者 203,000 円 ⇒ コロナ対策定額給付金を含む）●地域公共交通活性化協議会では、村民にとって重要なサービスとして位置付けられている。
特記事項	●東秩父村では、要介護認定率が国や県の平均よりも低い反面、訪問系のサービスが少ないと、比較的軽度でも村内の施設入所する高齢者が多く、介護給付の増大が問題になっている。村を離れずに、かつ施設入所せずに暮らしき続けるためには、「ふれあいやまびこ会」の継続はもちろん、在宅生活を支えるサービス創出が今後の課題となっている。		

## ＜コラム1＞

### 住民がやりたいことを応援すると介護予防になる!?市がグリスロ 3台購入! 千葉県松戸市のグリーンスローモビリティ地域推進事業「松戸モデル」

千葉県松戸市は、千葉大学予防医学センターと「都市型介護予防モデル“松戸プロジェクト”」を進める中で、他の地域に比べ健康指標が悪く、フレイル高齢者が多い地域があることに気づきました。その地域を調べたところ、地域に高低差があるために通いの場に参加できない高齢者が存在する一方で、宅地開発に伴って地域に転居してきた同世代が近隣に住まい、今なら地域に対応力があることもわかりました。また、松戸市は首都圏の住宅地で、比較的に公共交通も充実した地域ですが、地域の通いの場への参加のような小さな移動に公共交通を利用する高齢者はいませんでした。

そこで令和元年度、市福祉長寿部と千葉大学、地域が共同で国土交通省によるグリーンスローモビリティ（＝グリスロ（低速の電気自動車を利用した小さな移動サービス））のモデル事業に手を挙げることにしました。高齢者の社会参加による介護予防を推進する意図から、地域が自ら考え地域が運営することを前提に、利用料無料で無償ボランティアを運転手とするスキームです。

その結果、買い物やグラウンドゴルフでの利用などで利用者の行動範囲が1.5倍に拡大することや、住民同士のコミュニケーションが活発になり、地域が活性化するなどの効果が確認されました。

さらに令和3年にも地域を拡大してモデル事業を実施し、カーボンニュートラルの実現やSDGsの実現といった目的のほか、以下に挙げるような可能性を見出し、また、利用者、運転者ともに外出や社会参加が増加することにより、社会保障費用が抑制されるロジックモデルも固まって、令和4年11月から本格実施を開始しました。

#### 【松戸モデルの可能性】

- ① 外出や社会参加を促進し、自立期間の延伸（介護予防）
- ② 地域内の互助による連携が促進され、地域活性化
- ③ ソーラーパネルによる給電ができ、災害時の対応
- ④ 青パト（青色防犯パトロール車両）による交通安全や防犯
- ⑤ 要介護者や独居者の外出機会の創出
- ⑥ 高齢者等の免許返納の促進
- ⑦ 地域内のLINEによる情報共有の促進
- ⑧ 地域内イベントの集客
- ⑨ 地域内スポット（お店、地域交流など）の紹介による地域活性化
- ⑩ 車載マイクのイベントでの活用



この事業は、市が車両を購入して地域に無償貸与し、介護保険や福祉の予算から運営費の補助を行うとともに、運転は地域住民が利用料無料で担う、「市」と「地域の互助」の組み合わせによる道路運送法上の許可・登録不要の運営です。また地元企業等も広告など様々な形で協力してくれました。

社会保障費の抑制の効果が確認されるには時間がかかりますが、要介護認定者の一人あたり年間介護給付費は228万円であり、グリスロの導入によって社会参加が促進され自立した生活が継続できる人が2人程度いれば、トータルコストを上回る効果

通常、新車の耐用年数は6年

- ・導入初年度：約10,000千円
- ・次年度以降：約2,200千円とすると

松戸のグリスロの場合

(初年度)10,000+(2年次以降)2,200×5年=21,000千円  
6年で計算すると3,500千円/年  
(初年度)10,000+(2年次以降)2,200×9年=29,800千円  
10年で計算すると2,980千円/年

が得られることになります。

グリスロを運行している2地区のうち、小金原地区では、おやこDE広場の送迎で世代間交流が促進され、青パトにより地域の防犯・交通安全などを推進しています。河原塚地区では、認知症の人がグリスロに乗って久しぶりにカフェ（サロン）に参加することができ、参加者同士で再会を喜びあつた、LINEアプリをみんなで使えるように練習した結果、日常的にLINE上で会話が飛び交うようになった、グリスロで送って行ったお宅の植木が伸びて危ないので剪定してあげたなど、見守り機能や誘い出し機能が発揮されているエピソードが複数聞かれました。

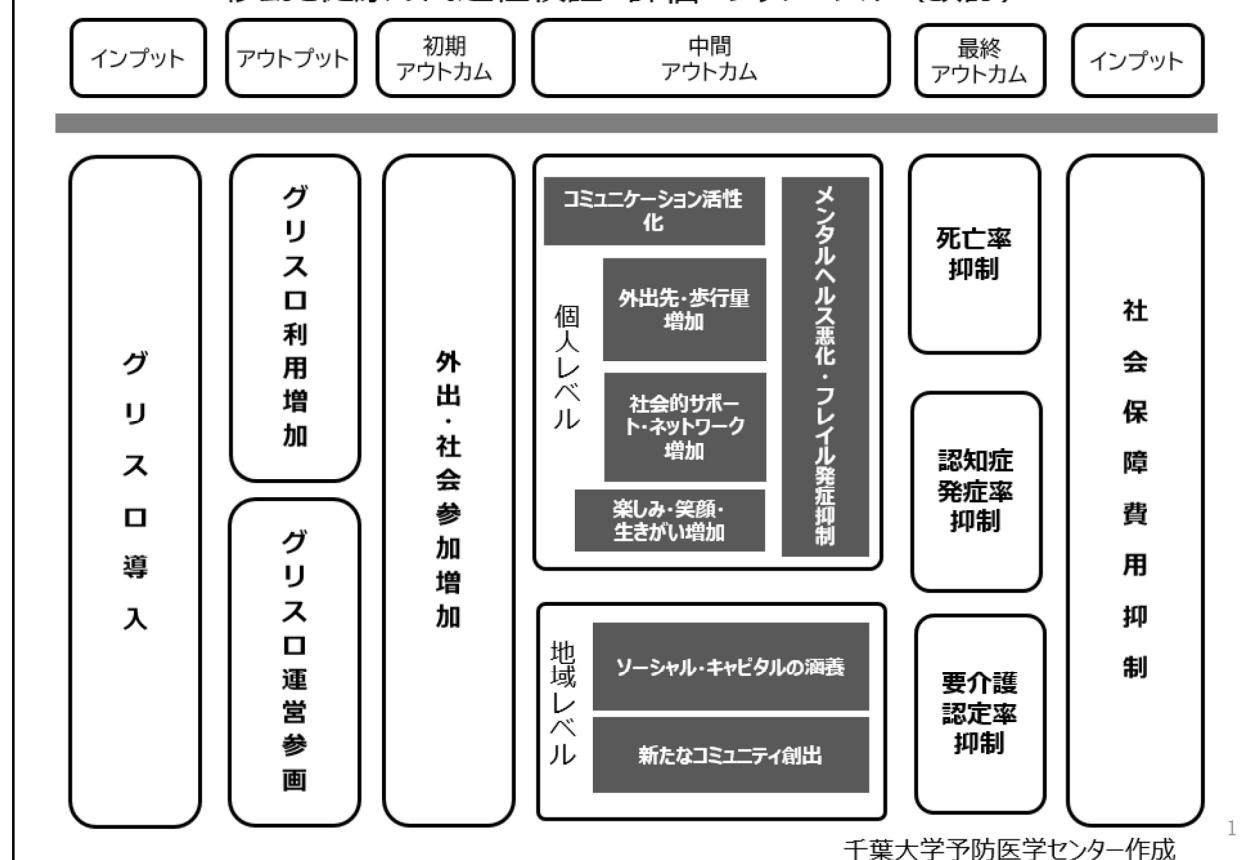
市は、グリスロが多世代を対象にしたコミュニケーションツールとして活用され、地域活性化につながることも目指しています。こうした取組が結果として高齢者の介護予防にもつながるという見方ができるからこそ、1台当たり1,000万円の予算が確保できたと言えるでしょう。市では、令和5年度予算でさらに3台を追加購入し、他地区での活用を段階的に広げていく考えです。

運行主体	町会・自治会等
車両	タジマ製・電動車：河原塚8人乗り、小金原10人乗り、実証調査用8人乗り
運行日時	河原塚地区：平日午前1便、午後1便 小金原地区：平日午前3便、午後3便 ※その他、防犯パトロール、地域行事、親子の集いの場などにも利用
運行地域	地区とスーパーなどを結ぶ固定ルート
利用方法	事前予約制



ドライバーのみなさん（河原塚地区）

### 移動と健康の関連性検証 評価ロジックモデル（改訂）



## <コラム2>

ニーズオリエンティドな地域活動とそこに運ぶ「移動支援」が充実

した地域は、要介護認定率が低い！？

三重県名張市の「地域づくり組織」と「まちの保健室」による環境整備

三重県名張市では、子ども・高齢者・障がい者を含む、すべての人々が暮らしと生きがいをともにつくり、高め合える地域社会（＝地域共生社会）づくりに力を注いでいます。

「我がごと」の意識づくりを醸成する「地域づくり組織」と、「丸ごと」の相談支援体制としての「まちの保健室」、そしてその土台を支える多機関連携による包括的相談支援体制が特徴です。

「地域づくり組織」は、小学校区ごとに15組織が整備され、従来の地域団体ごとの補助金が一括交付金化されて配分されています。地域ごとに策定された地域ビジョンに基づき、地域課題の解決や地域振興、交流促進が図られています。「まちの保健室」も、地域づくり組織と同じ15か所に開設され、すべてのライフステージを対象に相談のほか、地域包括支援センターのブランチや子育て世代包括支援センターのサテライトとしても位置づけられています。

こうした体制をとったのは、財政の健全化もさることながら、地区ごとに年齢構成や地域課題が大きく異なっていたからです。一律な予算配分では、もはや課題解決にはつながらないため、地区ごとに活動が可能な体制を敷いた結果、「公共は地域コミュニティ等と行政が協働で担うことが必要」といった考え方方が地域に普及。「住民が自ら考え、自ら行うまちづくり」が少しずつだが、定着してきました。

「地域づくり組織」では、地区特有の課題を協議し、防犯パトロール、自主防災、子育て広場、教育との連携、祭りなどのほか、掃除の手伝い、洗濯といった有償ボランティアが行う生活支援サービスを行っています。「まちの保健室」等と一緒に「サロン」も運営しています。

市は、地域活動が活発化する中、移動支援サービスの創出支援も後押ししました。「まちの保健室」が、「地域づくり組織」や民生委員の定例会等で、移動支援に関する課題や活動を知る機会を提供して機運づくりを支援。そして、総合事業の補助金（訪問サービスB・D）の活用や活動拠点の市民センターへの設置などで環境を整えました（生活支援と外出支援を合わせて実施する場合に、最高で計150万円を交付）。移動支援は、7地域で実施されており、いずれも「道路運送法上における登録または許可を要しない運送の態様」をとっています。

### 地域の社会資源の取組状況（有償ボランティア年間支援実績 約25000件）

有償ボランティア（介護予防・日常生活支援総合事業 訪問サービスB・D 固定費補助）

家事支援及び庭の管理、日曜大工等の日常生活の困りごとに対する支援、必要に応じた安否確認が11地域において組まれており、移動が困難な方に対する外出支援事業が7地域で実施されています。

地域名	地域づくり組織内の当該事業実施組織名	事業開始年月	令和2年度 実績
すずらん台	すずらん台ライフサポートクラブ	H20.4	生活支援 110件 外出支援 426件
青蓮寺・百合が丘	生活支援ボランティア「ポパイ」	H23.4	44件 355件
名張	隠おたがいさん	H23.7	38件 65件
つつじが丘・春日丘	特定非営利活動法人生活支援 つつじ・春日丘	H23.11	34件 1302件
比奈知	助っ人の会	H25.4	74件
桔梗が丘	桔梗が丘お助けセンター	H27.4	42件 101件
美旗	はたっこサポート運営審議会	H28.4	74件
薦原	コモコモサポート	H29.8	36件
赤目	あんしんねっと赤目	H30.6	48件 1041件
川西・梅が丘	ちょい・すけ	H31.4	47件 165件
国津	ささえあいネットくね	R3.5	外出支援のみで年間721件

表1 名張市で移動支援サービスを展開する7地域の実績

このような環境整備の結果は、如実に現れました（図2）。移動

支援の実績が良好な「すずらん台」「つつじが丘・春日丘」において要介護認定率が低い、とくに要支援1、2が少ないことがわかります。これについて、市地域包括支援センター長は次のように話します。

### 要介護度別認定率(15地域別)

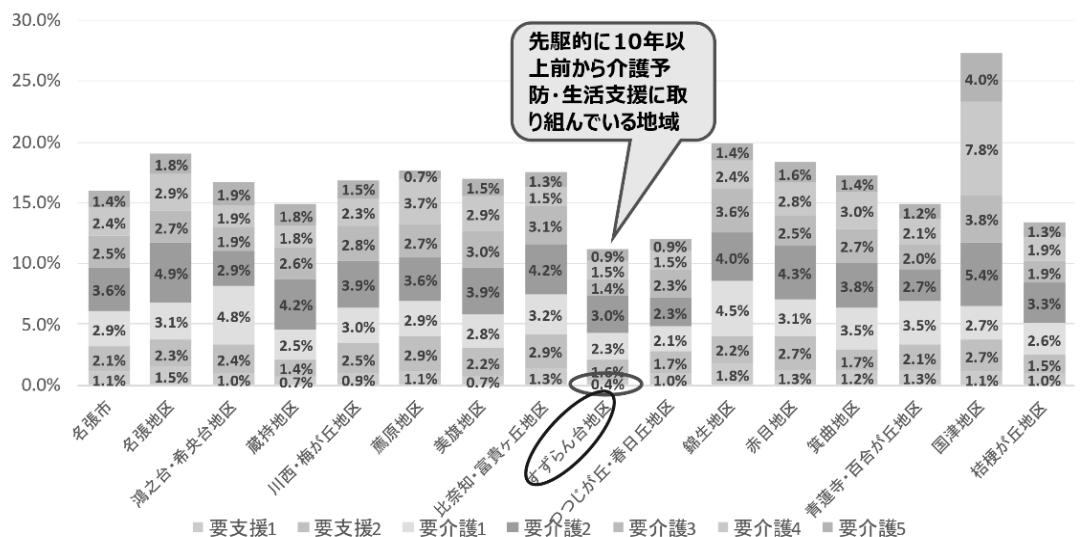


図2 名張市の地区別の要介護度別認定率の比較（平成29年4月）

「地域の活動が活発で、身近なところにいろいろな楽しいメニューがあることが、要支援認定率の低さにもつながっているのではと考えています。また、自ら行きたい活動に参加することを支援する移動支援がセットで揃っていることがさらに効果を上げていると感じます。さらに、利用者を支える地域の多様な担い手が、民生委員やまちの保健室、地域包括支援センターなどとつながっていることで相談にもつながりやすく、早期に解決できる事例もあり、包括的で重層的な相談支援体制の大切さを日々実感しています。」

住民同士の関係性、とくに世代間のつながりを強化するため、名張市では現在、厚生労働省が進める社会的処方のモデル事業にも着手しています。地域の孤立を防ぐことを狙ったボードゲーム「コミュニティ・コーピング」の認定ファシリテーター養成講座を市の保健師、まちの保健室、地域包括支援センターの専門職ら50～60人が受け、地域での実践をはじめています。また、地域や世代の違うメンバーで交換日記を回しながら、新たなつながりをつくる取組もはじめ、ダイアリーから「社会的処方のタネ」を集め、それを基に地域への資源探しのまち歩きをするなど、活動を通じてたくさんの人材とつながる中で、思いがけない人材が健康福祉の仕事とつながっていく、そういう面白さがあります。地域の素敵な活動や人材が困っている人たちとつながっていく社会的処方の活動が広がり、支援の受け手や担い手の垣根を越えた地域共生社会に繋がっていくことを期待しています。

一方、「地域づくり組織」の高齢化についてもユニークな活動で乗り越えようとしている地区が出てきた。自然豊かな「赤目地区」の「地域づくり組織」では、公営キャンプ場の閉鎖を逆利用し、若い住民を巻き込んで、運営を引き継ぐ一般社団法人を立ち上げて、ワーケーション事業をスタート。楽しみながら地域活動を展開しています。

小学校区単位に「まちの保健室」が置かれ、地域で全世代を丸ごと支援するという体制が名張市の「強み」。地域包括支援センター長は、これらを「大事にしたい機能」と強調する。移動支援の取り組みも、こうした人づくり、地域づくりをベースに生まれた。移動支援にも新しい風を吹かせる人が現れるのだろう。

## ヒアリングガイドとヒアリング調査先

住民主体の移動支援が高齢者の介護予防にもたらす効果に関する研究班  
2021年度ヒアリングガイド【担い手向け】

項目	具体的な質問の内容	
移動支援活動をはじめたきっかけ		
経緯や動機	きっかけ（動機）	移動支援活動の担い手になったきっかけについて、教えてください。
移動支援の担い手としての活動の概要		
利用概要	開始時期	移動支援の担い手をはじめたのは、いつですか？
	頻度	移動支援の担い手としての活動頻度は、どのくらいですか？
	従事内容	移動支援の活動では、どのような業務を行っていますか？ 具体的に教えてください。
移動支援の担い手の健康づくりや介護予防の効果		
心身の効果	自覚的な心身の効果	移動支援の活動に従事するようになってから、どのような心身面の効果を感じていますか？（周囲の人から、何か良くなったね、変化したね、などと言われることはありましたか？）
波及効果	波及効果	移動支援の活動に従事するようになってから、何らかの波及効果はありましたか？
地域に対する意識の変化		
ソーシャルキャピタル	地域への愛着 ソーシャルキャピタル	移動支援の活動に従事するようになってから、活動団体等を「地域の資産」として大事だと思うようになりましたか？ また、そのような活動を生み出し、維持している「地域」を誇りに思えるようになりましたか？
今後の移動支援や担い手の活動について		
期待	移動支援や担い手活動の今後	今後、移動支援活動を続けるにあたっての課題や対応策、また別の地域活動への関心などがあれば、教えてください。 今後、移動支援の活動を何歳くらいまで続けたいですか？その後は、どのように暮らしたいとお考えですか？

**住民主体の移動支援が高齢者の介護予防にもたらす効果に関する研究班  
2021年度ヒアリングガイド 【行政向け】**

項目	具体的な質問の内容	
<b>取り組みの背景</b>		
基本情報	移動支援ニーズ	人口、高齢者数、高齢化率、要介護認定率、要介護の状況、移動支援の必要者数などを教えてください。
		また、公共交通や地形など、高齢者の移動に関する地域課題を教えてください。
<b>取り組みの経緯・支援の概要</b>		
経緯や概要	開始時期	取り組みを開始したのは、いつですか？
	開始のいきさつ	取り組みは、どのような狙い、経緯で、はじめましたか？
	概要、ゴール	高齢者の移動支援に関する取り組みの目的、概要、政策ゴールなど、具体的に教えてください。
取り組みの概要	具体的な内容	高齢者の移動支援の取り組みの具体的な内容について、教えてください。  ①実施サービスの運行形態や法的位置づけ、運行委託の有無などについて、教えてください。  ②対象者・担い手の人数（当初および現在の人数）、その特徴（バックグラウンドなど）を教えてください。  ③予算の仕組みについて、教えてください。
		行政計画への位置づけ 行政計画等における活動の位置づけを教えてください。
		期待した効果 取り組みにより、どのような効果を期待していたか、について教えてください。
支援の具体的な概要	支援にあたって重視した点	取り組みの開始時にどのような支援（定型、非定型）を行ったか、支援策を具体的に教えてください。  ①補助金などの財政的な支援を行った  ②関係構築などの非金銭的な支援を行った  協議組織への参画を促すなどして、 ・地域の課題やニーズ、情報の共有をはかった  ・活動の認知促進や利用促進、関係団体等の紹介を介した 担い手確保などの支援を行った など
		取り組みの効果 移動支援による間接的な介護予防・フレイル予防的な効果について、教えてください。  ①個別事例に見られた効果  ②地域レベルの効果 (いずれも、客観的なデータがなければ、主観的な印象だけでも構いません)  地域振興や産業振興などの面の効果について、教えてください。  地域全体、自治体経営上の効果について、教えてください。
<b>活動団体や地域包括支援センター、社会福祉協議会などとの連携</b>		
今後の課題と支援		利用が必要な高齢者の把握、利用勧奨などをどのように行っていますか？
		利用者の改善状況の共有や、悪化の予兆が見られた場合の連携は、どのようにされていますか？
		介護予防・フレイル予防の効果を移動支援が果たすためには、どのような連携が必要だとお考えですか？
<b>取り組みの継続に向けた今後の課題</b>		
今後の課題と支援	推計利用者・必要担い手数	2040年の移動支援の対象者数および担い手数の推計者数、今後の見込み数について、教えてください。
	現実と理想の差を埋める	現状と今後の必要数をカバーするための支援策、およびその実現に向けた課題について、教えてください。
	今後の支援の視点	地域活動の持続性の成否のカギは「多様な主体による連携やネットワーク」と言われるが、移動支援の今後の取り組みの強化に向けて、どのような連携強化策、新たな連携先とのマッチングなどが必要と考えられますか？

住民主体の移動支援が高齢者の介護予防にもたらす効果に関する研究班  
2021年度ヒアリングガイド 【団体向け】

項目	具体的な質問の内容	
団体および移動支援活動の概要		
基本情報	団体の活動概要 移動支援活動の仕組み	移動支援の開始は、いつですか？
		移動支援の道路運送法上の位置づけは、何ですか？（福祉有償運送、交通空白地有償運送、許可・登録不要の運送など）
		移動支援の担い手（運転者、コーディネーターなど）のスタート当時と現在の人数と内訳を教えてください。
		移動支援の体制を教えてください。
		移動支援を利用する際の申し込み方法（=予約方法など利便性）を教えてください。
		移動支援の範囲（発着地の条件等）を教えてください。
		移動支援の頻度を教えてください。また、対応している時間帯を教えてください。
		移動支援の活動実績を教えてください。
		移動支援活動以外の団体の事業活動の概要を教えてください。
		移動支援活動を開催するにあたって、連携している地域団体等を教えてください。
利用者に見られる介護予防的な効果（介護予防につながりそうな効果）		
介護予防的な効果	要介護リスク者に見られる効果	移動支援を利用した要介護リスク者（認定外、基本チェックレベル）の利用者に介護予防的な効果が見られた事例を教えてください。また、そのような効果をもたらしたと思われる理由について、教えてください。
	軽度者等に見られる効果	要支援レベルもしくは要介護1～2レベルの利用者に介護予防的な効果が見られた事例を教えてください。また、そのような効果をもたらしたと思われる理由について、教えてください。
	担い手に見られる効果	担い手にとって移動支援活動への参画は、社会参加そのものであるため、中長期的な介護予防や高齢者の健康づくりとして期待できますが、そのような効果を示していると思われる事例を教えてください。
利用者に関わる際に意識していること（個人に対するエンパワメント機能）		
移動支援活動が果たしている効果（個人レベル）	誘い出し機能	担い手は、利用者の生活機能や認知機能が低下しはじめた段階で、定期的に地域へ誘い出す機能を有しており、そうした誘い出しが利用者の自己効力感を高め、モチベーションを維持し、通いの場などの社会参加の継続をサポートする役割を果たしている、と思われます。そうした機能に着目した場合、担い手が実際の移動支援お場面でとくに意識していることはありますか？
	信頼関係の構築機能	担い手は、利用者が諦めていた移動を叶えてくれた存在というだけでなく、車中での緊密な空間と時間を共有するという特性があり、そうした特性から、比較的短期間で信頼関係を構築しうる機能がある、と思われます。その点で、利用者の判断に影響を与える「行動の規範」的な存在と言えますが、そうした機能を意識した関わりとして、どのようなことを行っていますか？
	社会資源につなぐ機能（社会参加を維持する機能）	担い手は、信頼関係に基づき、生活支援サービスなどの必要な社会資源の活用を促す機能を有している、と思われます。具体的には、移動支援を介して、当事者と専門職、専門機関、関係地域団体等との仲立ちをするとともに、介護予防効果の高い通いの場や生活支援その他の社会資源へつなぎ、社会参加を支える機能を果たしていると考えられますが、そうしたアプローチを行っていますか？
結果として介護予防等を可能とする基盤整備的な機能（利用者のくらしを維持改善する環境整備機能）		
移動支援活動が果たしている効果（地域レベル）	地域包括ケアシステムの一端を担う機能	移動支援活動は、利用者と定期的に一定の時間接しているため、時系列の小さな変化に気づきやすく、異変を超早期に専門職等につなげられる機能を有すると思われますが、そのような機能を自覚していますか？ そのような機能を感じた経験はありますか？
	関係団体や行政等を緩やかにつなぐハブ的な機能	移動支援活動団体は、縦割りの行政組織をつないだり、地域内の多様な高齢者支援団体等と結びついで、地域における緩やかな連携やハブの役割を果たし、高齢者支援のカバー率を高める機能を有すると思われますが、そのような機能を認識し、積極的に地域の関係団体等と連携していますか？ あるいは、そのような機能が思い当たるアプローチとして、どのようなことを行っていますか？
	ソーシャルキャピタル醸成の支援機能	移動支援活動は、公共交通の撤退等による不安を「移動支援」という地域へのアピール効果の高い活動で解消しつつ、支え合いの必要性を地域にデモンストレーションしながら、ソーシャルキャピタルを醸成する機能を有すると思われますが、そのような機能（支え合いの絆を構築する機能）を意識していますか？ あるいは、それを自覚するエピソードはありますか？
	地域への波及効果	移動支援活動がはじまることにより、新しい活動や地域行事などが創出されたりしましたか？
介護予防効果を上げるために今後必要と思われるこ		
今後の課題への対策	体制整備	高齢者数がピークとなる2040年の利用者数を想定したマンパワー確保などの準備や支援策について、どのようにお考えですか？
	必要な人に必要なサービス	移動支援サービスを利用できていない人たちの利用促進に向けた対策として、どのようなことが考えられますか？
	公的担保	介護予防効果を上げるため、移動支援活動には、どのような支援、あるいは事業評価が必要だとお考えですか？

住民主体の移動支援が高齢者の介護予防にもたらす効果に関する研究班  
2021年度ヒアリングガイド 【利用者・家族向け】

項目	具体的な質問の内容	
移動支援の利用のきっかけ		
経緯や動機	きっかけ (行動の規範)	移動支援サービスを利用するようになったきっかけについて、教えてください。
利用している移動支援の概要		
利用概要	開始時期	移動支援サービスの利用を開始したのは、いつですか？
	頻度	移動支援サービスの利用頻度は、どのくらいですか？
	目的、ゴール	移動支援サービスを利用する目的は、何ですか？ 具体的に教えてください。
移動支援に伴う本人への効果		
波及効果	波及効果	移動支援サービスを利用し始めてから、外出先や知り合いが増えたとか、何らかの波及効果はありましたか？
心身の効果	自覚的な心身の効果	移動支援サービスを利用するようになってから、どのような心身面の効果を感じていますか？  (周囲の人から、何か良くなったね、などと言われることはありましたか？)
移動支援に伴う家族等への効果		
家族の効果		利用者本人に効果が出たことにより、ご家族に何らかのメリットは生じましたか？
		移動支援活動の担い手の関わりが、ご家族にも何らかの効果をもたらしていますか？
地域に対する意識の変化		
ソーシャルキャピタル	地域への愛着 ソーシャルキャピタル	サービスを利用するようになってから、移動支援活動団体等を「地域の資産」として大事だと思うようになりましたか？  そのような活動を生み出し、維持している「地域」を誇りに思えるようになりましたか？
これからの移動支援活動に期待すること		

## 調査2 ヒアリング先一覧

	市町村名	ヒアリング団体名	種別	ヒアリング対象者
1	埼玉県東秩父村	NPO法人 ふれあいやまびこ会	交通空白地有償運送	利用者（グループ）、担い手（グループ）+村（高齢&交通）
2	埼玉県飯能市	NPO法人 奥武蔵グリーンリゾート	交通空白地有償運送	利用者1名、担い手（グループ）+市（高齢&交通）
3	神奈川県秦野市	とちくぼ買い物クラブ	登録不要の移動支援	とちくぼ買い物クラブ：利用者+担い手 7名+市
4	神奈川県秦野市	おたすけ隊	登録不要の移動支援	おたすけ隊：担い手（グループ）+市
5	静岡県函南町	社会福祉法人 函南町社会福祉協議会「かんなみおでかけサポート」	登録不要の移動支援	利用者2名、担い手2名、社協、地域包括支援センター、町
6	島根県美郷町	NPO法人 別府安心ネット	福祉有償運送	担い手2名、町地域包括支援センター2名
7	佐賀県小城市	小城市支えあいセンター	登録不要の移動支援	利用者及び家族1組、担い手2名+社協+地域包括支援センター+市
8	千葉県松戸市	グリーンスローモビリティ（河原塚ことぶき会）	登録不要の移動支援	担い手（グループ/2地区）、利用者3名（1地区）、市
9	三重県名張市	地域づくり組織による生活支援と移動支援	登録不要の移動支援	地域包括支援センター（市）

## 第3章 【調査3】移動支援を利用している要支援者等と利用していない要支援者等の変化の比較分析

### 第1節 実施方法

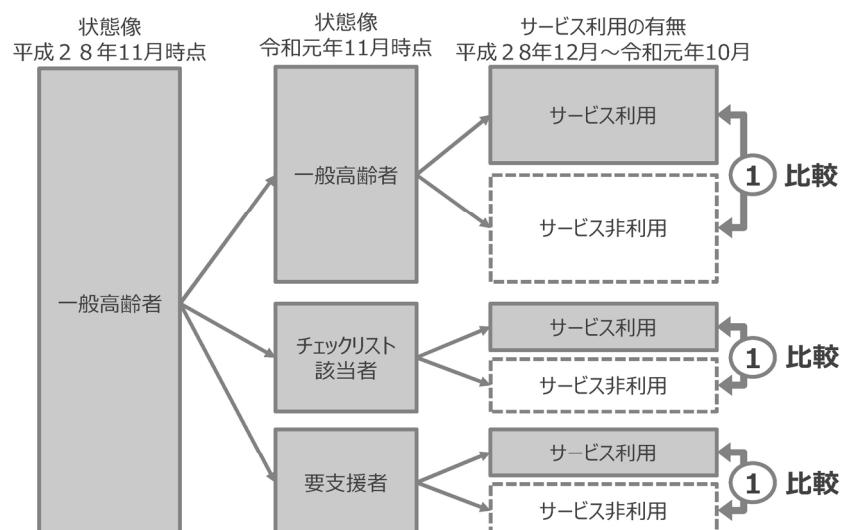
#### 概要

##### (1) 移動支援を導入した市町村における利用者と非利用者の比較

・移動支援の取り組みによって利用者に介護予防効果があるかどうかを確かめるため、総合事業を活用した移動支援を利用している要支援者等と、利用していない要支援者等のニーズ調査結果を比較することで有意差があるかどうかを検証した。

・具体的には、総合事業を活用した移動支援を導入している愛知県豊明市と大分県国東市から、第7期と第8期に介護保険事業計画策定前に行われた、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果（データ）をご提供いただき、移動支援の利用者と非利用者では、3年間で変化の仕方にどのような違いがあるかを、データ解析するという手法で実施した。

※ただし、データ解析の結果、国東市については、n数が少なく分析が困難だったため、主観的健康感と主観的幸福感のいずれについても効果があるとは認められなかった。



#### <解析に使用したデータ>

①第7期と第8期の介護保険事業計画策定前に行われた、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果（データ）

②総合事業を活用した移動支援を利用している人（国東市は担い手として参加している人を含む）の利用回数、および利用頻度

※①②を被保険者番号で紐づけ

#### (参考)「移動手段の選択と手段的日常生活動作の関連：地域在住高齢者の観察的コホート研究」

・上記の豊明市の移動支援については、担い手が社会福祉協議会の職員であり、65歳以上のボランティアドライバーではない。一方、関連する調査研究として、同市の「住民健康実態調査（介護予防・日常生活圏域ニーズ調査）」や要介護認定情報・被保険者情報を組合せたデータ分析結果が公開された。調査3の目的は利用者に対する介護予防効果の検証だが、担い手も高齢者であることが多いため、その健康維持について考える一助になるものと考えられる。

## 第2節 結果

### 1 主観的幸福感を軸に二項ロジスティック回帰分析を行った結果

#### 背景

移動支援を含む介護予防の取り組みの効果の実証のため、総合事業を活用した移動支援を含む介護予防事業（以下、支援サービス）を利用している人と、利用していない人の健康状態を比較した。具体的には、第7期と第8期の介護保険事業計画に先駆けて行われた、日常生活圏域ニーズ調査の結果（以下、ニーズ調査）を使用し、支援サービスの利用者と非利用者では、主観的幸福感にどのような違いがあるかを解析した。

主観的幸福感は、個人が自身の社会経済的状況や生活環境等を包括的に示す指標であり、主観的幸福感が高いことは、心血管疾患の発症率低下や死亡率の低下など、将来の身体的健康につながることが先行研究で示されている。幸福感の把握と維持・改善は将来の健康状態悪化の予防につながり、高齢者の疾病や現在の健康状態そのものに注目しがちだが、幸福感の調査・研究も非常に重要なだ。

愛知県豊明市が実施している、健康寿命延伸外出支援事業「らくらす」（以下、「らくらす事業」）は、介護保険法に基づく介護予防・日常生活支援総合事業の一般介護予防事業（地域介護予防活動支援事業）として、2017年4月から実施されている。内容は、送迎付きの半日型アクティビティ（体操、健康講座、体験講座、お出かけ講座等）を週4日実施している。対象は、基本チェックリスト該当者等で、事業の特徴として、事業実施会場である老人福祉センター施設までの送迎バスの運行があり、外出支援、地域活動への参加支援、地域交流という役割を担っている。豊明市社会福祉協議会が市の委託を受けて、市内1箇所（老人福祉センター）で実施している。老人福祉センターまでの移動手段がない（または不便）な参加者を対象に、送迎車両である「らくらすバス」が運行されている。曜日によって送迎ルートは異なりますが、社会福祉協議会の職員が運転し、参加者数名が乗り合って通っている。

#### 目的

ニーズ調査（2016, 2019）のデータを用いて、「らくらす事業」への参加が主観的幸福感にもたらす効果を明らかにする。

#### 研究デザイン・方法 研究デザイン：観察研究

使用したデータ：ニーズ調査（2016, 2019）より分析に用いた各変数に欠損値のないもの

#### 統計解析：

2019年調査の主観的幸福感（問6－2）（スコア5~10:1、スコア0~4:0）を目的変数とし、2019年の調査時点における「らくらす事業」参加を説明変数、性別、年齢（6カテゴリのダミー）、家族構成（独居：1、それ以外：0）、介護・手助の有無、経済状況、1人で外出できるか（している・できるが、していない：1、できない：0）、現在治療中・後遺症のある病気の有無、2016年の調査時点における「らくらす事業」参加を調整変数とした二項ロジスティック回帰分析

#### 結果

2019年調査においてIDが割り当てられたサンプル：11,376。（2016年調査においてIDが割り当てられたサンプル：10,717）、分析に必要なデータに欠損値のないサンプル：10,456

## ○記述統計

	変数	2019年「らくらす事業」	
		不参加 n=10,361	参加 n=95
2016年「らくらす事業」への参加 (%)		52 (0.5)	61 (64.2)
性別（男性） (%)		4,866 (47.0)	15 (15.8)
年齢カテゴリー (%)			
年齢 (65~69歳)		2,336 (22.5)	1 (1.1)
年齢 (70~74歳)		2,977 (28.7)	1 (1.1)
年齢 (75~79歳)		2,748 (26.5)	20 (21.1)
年齢 (80~84歳)		1,518 (14.7)	31 (32.6)
年齢 (85~89歳)		610 (5.9)	33 (34.7)
年齢 (90歳以上)		172 (1.7)	9 (9.5)
家族構成（1人暮らし） (%)		1,461 (14.1)	35 (36.8)
手助け・介助が必要か（必要） (%)		1,077 (10.4)	43 (45.3)
経済状況（よい） (%)		8,047 (77.7)	79 (83.2)
1人での外出（できる） (%)		9,888 (95.4)	77 (81.1)
現在治療中、または後遺症のある病気（あり） (%)		8,351 (80.6)	90 (94.7)

## ○二項ロジスティック回帰

	B	標準誤差	有意確率	オッズ比
説明変数				
2019年「らくらす事業」への参加	2.212	1.058	0.037	9.132
調整変数				
2016年「らくらす事業」への参加	-0.476	0.456	0.296	0.621
性別（男性）	-0.094	0.082	0.255	0.911
年齢 (65~69歳) (参照)				0.656
年齢 (70~74歳)	-0.397	0.382	0.298	0.672
年齢 (75~79歳)	-0.476	0.379	0.209	0.621
年齢 (80~84歳)	-0.349	0.379	0.358	0.706
年齢 (85~89歳)	-0.46	0.382	0.229	0.632
年齢 (90歳以上)	-0.519	0.396	0.19	0.595
家族構成（1人暮らし）	0.019	0.118	0.87	1.02
手助け・介助が必要か（必要）	-0.283	0.139	0.042	0.754
経済状況（よい）	0.283	0.093	0.002	1.327
1人での外出（できる）	0.079	0.198	0.691	1.082
現在治療中、または後遺症のある病気（あり）	0.085	0.103	0.405	1.089

二項ロジスティック回帰分析の結果では、「らくらす事業」への参加と主観的幸福感がよいことに正の相関が認められた。

## 結果のまとめ

らくらす事業への参加者は、主観的幸福感が有意に良い状態にあることが明らかになった。主観的幸福感の維持・向上については、先行研究より個人の肯定的な感情や自分自身の生活に対する評価である主観的幸福は、身体の健康状態に関連する要因として知られている。主観的幸福度が高い人は、心血管疾患の発生率が低く、死亡率が低く、免疫機能が優れており、創傷治癒が速い傾向等がある。身体的な病気の治療とは別に、らくらす事業のような目的地までの移動支援も含めた介護予防事業への参加を通じて、精神的に良好な状態を保つことは、健康寿命の延伸を達成するためのもう1つの方法だと考えられる。

## (補足) 大分県国東市において住民主体の移動支援を利用又は実施している人の変化に関する比較分析

### ■対象となる取組内容（一般介護予防事業に基づく通いの場およびその送迎と生活支援）

国東市では、2017年（平成29年）から、公民館区単位で住民が主体となった居場所づくりが行われています。2022（令和4）年末現在、6地区で「支え合い活動団体」が活動しており、カフェとして気軽に立ち寄れるスペースがあるほか、会食会や介護予防体操などの催しを行っています。それらに参加する人で送迎が必要な人を対象に、支え合い活動団体のメンバーが、マイカーやレンタカーを使って送迎しています。また、カフェからの買い物への送迎や、日常的に外出にお困りの方を対象とした生活支援の一部としての買い物支援も行っています。担い手はいずれも高齢のボランティアです。

本調査では、この移動支援（生活支援を含む）の利用者と担い手の両方の方々（合計191人）について、一人ひとりの参加回数のわかるデータをご提供いただきました。

### ■取得データ

第7期・介護予防日常生活圏域ニーズ調査データ（全対象者）8,655人分

第8期ニーズ調査データ（全対象者）7,333人分

生活支援の利用者・担い手の個人別の利用参加回数一覧（H29～令和元年）合計191人分

### ■統計解析と結果

これらについて、主観的幸福感と移動支援の利用にどのような関係性があるかを調べるため、まず、主観的健康感（2群に分けたもの）について、2項ロジスティック回帰分析を実施しました。

次に、主観的幸福感の平均値差がないか t-test を用いて分析を行いました。分析の組み合わせは2通りであり、外出を控えている人 vs 外出を控えていない人、移動支援の利用者 vs 交通手段がなく外出を控えている人としました。

しかしながら、分母となる回答数が少ないなどの理由で良い結果が出ませんでした。

## 2 移動手段の選択と手段的日常生活動作の関連：地域在住高齢者の観察的コホート研究

本調査研究に関連し、委員の一人である服部氏らが以下のような研究を行いました。この研究によって、住民主体の移動支援の主な担い手である高齢者（主に前期高齢者）にとって、その活動が IADL を維持することに役立っていることがわかります。

豊明市では、「多様なサービス・資源による自立支援・介護予防効果の研究～豊明市における介護予防・日常生活支援総合事業等の効果分析～」に取り組んでおり、その一環として「住民健康実態調査（介護予防・日常生活圏域ニーズ調査）」や要介護認定情報・被保険者情報を組合せたデータ分析を行いました。その結果、高齢者の日常生活における移動が能動的移動か受動的移動かという選択が、手段的日常生活機能動作レベルの変化と関連があることを明らかになりました。

<b>著者名</b>
田村 元樹、石川 智基、松本 小牧、服部 真治
<b>タイトル</b>
英文：Association between choices of transportation means and instrumental activities of daily living: observational cohort study of community-dwelling older adults 和文：移動手段の選択と手段的日常生活動作の関連：地域在住高齢者の観察的コホート研究
<b>書誌情報</b>
BMC Public Health 23, 175 (2023). <a href="https://doi.org/10.1186/s12889-022-14671-y">https://doi.org/10.1186/s12889-022-14671-y</a>

### 1. 研究の背景

近年、高齢者の身体的健康と外出活動に関する研究が増加しており、両者は関連があることが明らかになっています。さらに、自治体による高齢者の活動支援関連施策の整備が進んでいます。先行研究では、外出頻度と機能的健康状態との関連を示す報告がありますが、移動手段の選択が手段的日常生活動作（IADL: instrumental activities of daily living）に及ぼす影響についてはほとんど報告されていませんでした。そこで、本研究では高齢者における移動手段の選択と IADL 低下リスクとの関連評価を行いました。

### 2. 研究の方法

本研究のデータとして、市内在住の要介護認定を受けていない 65 歳以上全員を対象に実施した住民健康実態調査（介護予防・日常生活圏域ニーズ調査）の 2016 年と 2019 年分調査結果を用いました。さらに、要介護認定情報および被保険者情報を結合し、要支援・要介護認定者を特定しました。

移動手段による比較を行うため、徒歩や自らの操作が求められる「能動的移動手段」、および専ら乗車だけで移動が完了する「受動的移動手段」に分け、能動的移動手段を基準にした受動的移動手段による 3 年後の手段的自立の低下リスクを、ポアソン回帰分析によってリスク比として評価しました。図 1

性別や2016年時点の年齢、教育歴、家族構成、主観的経済困窮感、BMI、喫煙、認知機能低下、慢性疾患数、IADL低下リスクの有無を傾向スコアマッチング

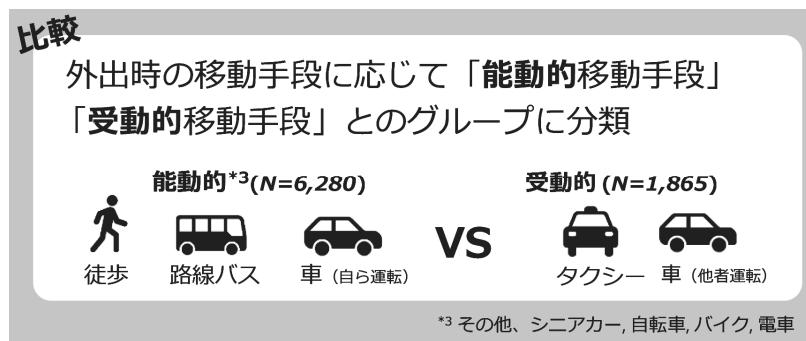


図1：能動的移動手段と受動的移動手段とのグループ分類

### 3. 研究の結果

能動的移動手段は6,280人(76.2%)、受動的手段は1,865人(22.6%)でした。3年間でIADLが低下した人は999人(12.1%)でした。傾向スコアマッチングにより「能動的移動手段」と「受動的移動手段」の属性をバランスさせて比較した結果、「受動的移動手段」は「能動的移動手段」よりもIADL低下リスクが高く、リスク比は1.93(95%CI:1.62-2.30)となりました。

図2、図3

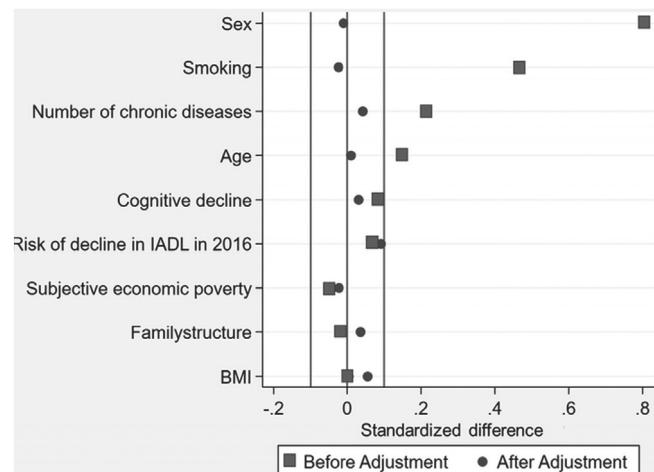


図2：傾向スコアマッチング前後の標準化差

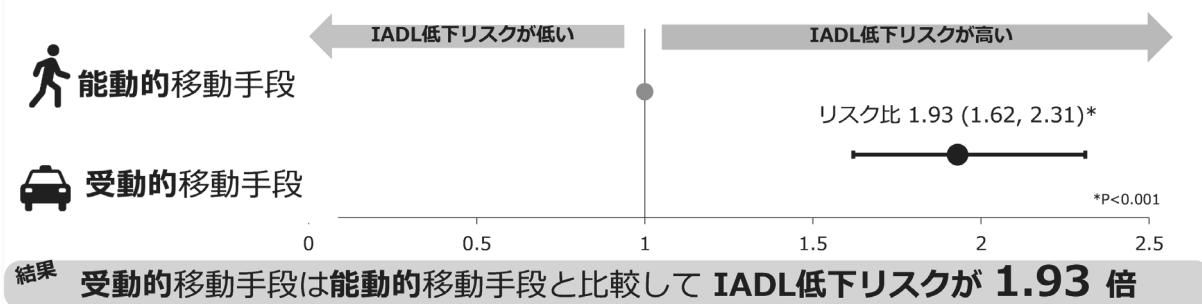


図3：能動的移動手段に対する受動的移動手段はリスク比1.93とIADL低下と関連

### 4. 研究の結論

高齢者が受動的移動手段を選択することは、3年後の手段的自立低下リスクと関連がある可能性が示されました。高齢者が日常生活で移動する際には、徒歩や自らの操作等を含む「能動的移動手段」を維持するための施策が、介護予防に有効かもしれません。また、自治体などの移動支援施策において、高齢者が能動的な交通手段を利用する機会や環境を地域社会に増やすことは、高齢者の社会的自立生活を促すのに有效である可能性があります。

## 考 察

住民主体の移動支援は、何らかの理由で公共交通機関の利用が難しい人の移動・外出を、自動車を使って支援しています。心身の状態や地理的条件、交通環境等によって、比較的元気な高齢者が利用している場合もあれば、付添や介助の必要な高齢者が利用している場合もあります。福祉有償運送は市町村全域の住民を対象としていることが多く、住民互助型の移動支援は、市町村の一部の地区もしくは町内会単位で住民を対象に実施しているのが一般的です。目的は、通院、買い物、サロン等の通いの場などですが、いずれか一つを目的地として活動しているケースもあります。

こうした住民主体の移動支援にはどのような効果があるのか。一括りに効果を示すことは難しい面があるものの、担い手も高齢者が大半を占めていることや、暮らし続けられる地域を作ろうと住民自身が関わっているという点は共通しています。

本研究では、これまでの医療経済研究・社会保険福祉協会の委託研究等によって、全国の活動団体の把握が進んできたことを受け、その介護予防効果について、データや具体的な内容を示すことを目的としました。

**調査1**では、福祉有償運送や交通空白地有償運送、道路運送法上の許可・登録を要しない移動支援の利用者及び担い手（運転ボランティア等）に、介護予防の分野で使用されることの多い評価尺度（指標）を組み合わせたアンケート調査票を配布しました。

その結果、利用者については、うつ傾向の改善が見られ、担い手はQOLの向上傾向が見られました。利用者のうつ傾向は、要介護状態でも認定を受けていない高齢者と同様に改善が見られたこと、1ヶ月に1回以上という頻度でも向上する傾向が見られこと、地域活動を目的とした利用で向上すること、担い手のQOLは、月1回以下で向上するものの週2回以上では低下することなど、活動団体にとっても取組を進めていく際にヒントになる結果が得られました。

さらに、回帰分析によって、影響を及ぼすと考えられる変数を調整した分析では、利用者は週2回以上のサービス利用で主観的幸福感が向上していることがわかりました。週2回以上の外出を移動支援によって提供することは難しい場合もありますが、利用者にとってめざすべき水準を改めて確認することができました。

※新規の利用開始予定者および活動開始予定者（担い手）にアンケート回答を得る想定だったが、7割以上が既存の利用者および担い手になってしまった。結果として、n数が少なくなり、変化が明らかにならなかつた面がある。

- 移動支援を利用すると、うつ傾向の改善が期待できる（調査1）
- 移動支援の担い手として参加すると、QOLの向上が期待できる（調査1）
- 週2回以上のサービス利用が主観的幸福感の向上に寄与する（調査1）

**調査2**では、8地域9事例のヒアリングを通じて、利用者、担い手（運転ボランティア）、団体の運営担当者、地域包括支援センター・行政、生活支援コーディネーターのそれぞれの関わりを聞き取りました。

利用者は自身の変化に気づきにくいため詳細を聞き取ることができませんでしたが、地域包括支援センター・行政、生活支援コーディネーターのみなさんは、利用者の様子の変化に気づいており、積極的に外出

したり人と関わるようになったりする経過を伺うことができました。

また、運転ボランティアや団体の運営担当者も、利用者との会話を通じて在宅生活の不安や困りごとを受け止めたり、サービス提供の前後に声掛けや細やかなサポートを行ったりしていることがわかりました。

あくまで個別ケースではありますが、移動支援という取組がどのような機能を果たしているかをワーキングチームで検討したところ、利用者と担い手の双方に対して、次のような変化をもたらしており、結果として「誘い出し」「社会資源へのつなぎ」「信頼関係の構築」の機能を果たしているのではないかというまとめに至りました。

- 移動支援の利用者に、行動範囲の拡大、生活意欲の刺激、会話量の増加などが見られる（調査2）
- 移動支援の担い手に、健康意識の高まり、思考力や課題意識の向上、やりがいの上昇がみられる（調査2）

また、取り組むうちに意義に気づいたり、他の活動に派生していったというエピソードが担い手や団体の運営担当者から聞かれることから、移動支援には地域コミュニティづくり・地域を強くする役割があると捉えました。個人レベルの機序に加え、地域レベルの機序が調うことで、移動支援の持続性や波及効果が高まるという視点から、追加でヒアリングを行ったのが千葉県松戸市と三重県名張市の事例です。ソーシャルキャピタルの醸成機能が介護予防効果と直結しているかどうかは、確認できませんが、それを意識した施策づくりが行われている市町村として、他の市町村にも参考になるのではないかでしょうか。

**調査3**では、移動支援の利用者と非利用者の状態変化を比較することを目的として、豊明市からご提供いただいた介護予防・日常生活圏域ニーズ調査のデータを分析しました。一般介護予防事業に基づく介護予防教室である「らくらす」（社会福祉協議会が受託実施）は、交通が不便な地域の参加者を社会福祉協議会が送迎しています。

送迎を利用して「らくらす」に参加している人と、「らくらす」に参加していない人について、第7期から第8期にかけての主観的幸福感の変化を比較した結果、前者は主観的幸福感が向上していることが明らかになりました。送迎を利用して「らくらす」に参加している方々は、徒歩圏に通いの場がないため、送迎があるからこそ参加できていると言えます。このように、交通が不便な地域においては、主観的幸福感が高まる場に参加するためにも、送迎が極めて重要であることが分かる結果となりました。

- 介護予防の取組は、送迎が付いていることで、主観的幸福感が向上する（調査3）

また、「移動手段の選択と手段的日常生活動作の関連：地域在住高齢者の観察的コホート研究」は、既に論文が公開されていますが、本調査研究に関連する研究として実施されました。移動支援の担い手として自動車を運転している高齢者等が、引き続き能動的移動手段を継続することについての有用性がわ

かる研究です。

○高齢者は運転を続けることで、手段的日常生活動作※の低下が抑制できる（調査3）

※手段的日常生活動作（IADL）：ADLに定義されている動作より複雑で高度な判断を必要とする動作

本調査事業では、移動支援をどのような角度から分析すれば効果が見いだせそうかということが見えてきましたが、数値で明らかにできたことは、ごく一部にすぎません。

今後、回答数の多い調査を公的な機関が実施することができれば、今回は有意差が見いだせなかつた項目についても、はっきりとした結果が出せる可能性があります。また、利用者と非利用者の比較ができる調査データを整備する市町村が増えれば、施策づくりに役立つデータが蓄積されていきます。本事業は、そのきっかけを作ることができる研究であったと考えます。

以上



## おわりに

本報告書では、住民主体の移動支援が高齢者の介護にもたらす効果について、3つの調査を実施し、考察してきました。

移動手段の確保ができて、移動ができるることにより、家に閉じこもりがちの生活から、出歩くことになり、他者とのコミュニケーション等が増すと、生活のQOLが向上し、介護予防につながるというのは、皆さん感覚的には同意できることですが、それを詳細に定量的に調べるということは、なかなかできていませんでした。また移動手段を提供する側、運転ボランティア等の方々も、利用者から感謝されることで、生きがいを感じるということも、色々なケースで経験されることですが、これも詳細に調べて分析したものはほとんどありませんでした。

そういう背景から、本調査研究は、移動支援のもたらす効果について、何がどのように効くのか、調べていくことを目標としてスタートしました。コロナの影響で、高齢者の外出そのものが制限された期間が長く、また高齢者対象のアンケートは、聞きたいことがたくさんあっても、それだけ全部回答を得るのは難しい面もあり、さらに主観的な意見は人により尺度が揃えにくいなど、かなりチャレンジングな調査となりました。

時間の経過により、活発に外出ができるようになる効果と、加齢による身体特性の低下があり、アンケート回答から細かく状況を読み取ることは難しい面もありましたが、限られた数ではあるものの、移動支援の効果について色々得ることができました。

また、先進的な取り組みをされている地域のヒアリングでは、様々なケースの話を伺うことができ、移動支援の重要性を改めて感じることになりました。

さらに、利用の有無による比較検討を行った2地域のうちデータ数が多くて細かな分析ができた豊明市では、事業参加と主観的幸福感の間に有意な関係性を得ることができました。

色々な事情から、単年度調査から2年間の調査となり、またコロナの影響等もあり、思うようにいかない面もありましたが、何とか所期の目的の一端にたどり着いたと言えます。もともとチャレンジングな調査事業であったので、なかなか完璧に理想的な成果を得ることは難しいのですが、移動の重要性などがこういう形で示せたことは価値あることのように思っております。

おわりに、本調査事業にご協力いただいた関係各方面の皆さんに厚く御礼申し上げます。

住民主体の移動支援が高齢者の介護予防にもたらす効果に関する調査研究委員会

委員長 鎌田 実

## 住民主体の移動支援が高齢者の介護予防にもたらす効果に関する調査研究

### <委 員>

飯島 勝矢／東京大学高齢社会総合研究機構機構長・未来ビジョン研究センター教授  
石川貴美子／秦野市福祉部障害福祉課 課長  
大西 遼／東邦大学医学部医学科 助教  
鎌田 実／（一財）日本自動車研究所 所長、東京大学 名誉教授  
鬼頭 裕美／聖カタリナ大学人間健康福祉学部社会福祉学科 講師  
佐藤 満／群馬パース大学リハビリテーション学部 理学療法学科 教授  
笛沼 和利／埼玉県移送サービスネットワーク 代表  
嶋田 晓文／九州大学法学研究院教授  
鈴木 俊之／三菱 UFJ リサーチ＆コンサルティング（株）主任研究員  
鈴木香菜子／埼玉県移送サービスネットワーク 事務局  
徳田 武／（株）ライフ出版社 代表取締役  
椋野美智子／元 松山大学人文学部社会学科 特任教授  
岩崎 孝宏／（一財）医療経済研究・社会保険福祉協会業務推進部 部長  
服部 真治／（一財）医療経済研究・社会保険福祉協会医療経済研究機構  
政策推進部 副部長（企画推進担当）研究部 主席研究員  
伊藤みどり／（特非）全国移動サービスネットワーク 事務局長

### <調査2のみワーキングメンバー>

杉本 依子／NPO 法人 ハンディキャブゆづり葉 顧問  
村山 洋史／東京都長寿医療研究センター副部長

### <執筆担当者／担当ページ>

大西 遼／別冊資料集 p. 72～77、p. 118～120  
佐藤 満／別冊資料集 p. 61～71  
徳田 武／別冊資料集 p. 96～115  
服部 真治／別冊資料集 p. 121～122

~~~~~

2023年（令和5年）3月 発行

特定非営利活動法人 全国移動サービスネットワーク  
(全国移動ネット)

〒156-0055 東京都世田谷区船橋1-1-2 山崎ビル 204号

TEL:03-3706-0626 FAX:03-3706-0661

E-mail:info@zenkoku-ido.net

URL:<https://www.zenkoku-ido.net>

住民主体の移動支援が高齢者の介護予防にもたらす効果に関する調査研究  
別冊資料集

